



1955

統計

年報





＝ 大 牟 田 市 ＝



細谷市長



坪沼助役



猿渡収入役





境 議 長



江 上 副 議 長

## 序

近代民主主義国家、我が国統計の進歩と共に、大牟田市の統計も、終戦以来日進月歩の勢をもつて進歩して行きつつあります。

この進歩して行く姿を、総合的に、正確な事実と数字に基いて科学的に紹介しているのが、本書であります。

勿論、政治の諸施設並びに方策は、高度の科学性に貫ぬかれたものでなければならぬことは言をまちません。

この運営に当りましては、20万市民各位の絶大なる御理解と御支援とがなければ、亦成果も期待できません。しかして、この市勢要覧が、今後市政発展の上に相当の役割を果しえますことを信じて疑わない次第であります。

ここに本書の刊行に際し一言のべて御挨拶といたします。

昭和31年2月

大牟田市長 細 谷 治 嘉

# 大牟田市 市勢要覧 目次

## 第 1 編 沿革及び土地気象

1. 沿革	1
第1表 大牟田の歴史	
2. 土地	3
位置の概況	
地勢の概況	
第2表 面積	
第3表 校区別面積	
3. 気象	3
気象の概況	
第4表 気象累年比較	

## 第 2 編 人 口

人口の概況	5
第1表 累年別人口世帯数	
第2表 校区別人口及び世帯数	
第3表 人口密度	
第4表 年令配偶関係及び男女別人口	
第5表 労働力状態及び男女別14才以上人口	
第6表 職業及び男女別14才以上就業者数	
第7表 産業及び男女別14才以上就業者数	
第8表 人口動態	
第9表 昭和25年～30年転入転出人口数	

## 第 3 編 行 政

市政の概況	
1. 執行機関	14
第1表 行政機構	
第2表 歴代三役	
第3表 助 役	
第4表 収 入 役	
第5表 吏員定員数	
2. 議決機関	16
第6表 歴代議長	
第7表 歴代副議長	
第8表 現市議会議員	

## 第 4 編 財 政

昭和29年度の財政の概況	
1. 一般会計	17
第1表 戦前物価換算及び累年歳出決算額	
第2表 一般会計及び特別会計累年別決算額	
第3表 一般会計特別会計相互間累年別繰出繰入額調	

第4表 一般会計累年別決算額(歳入)	
第5表 一般会計累年別決算額(歳出)	
第6表 経費性質別一般会計歳出累年決算額	
第7表 一般会計累年別黒字又は赤字額	
第8表 市税累年別収入決算額	
第9表 財源性質別一般会計累年歳入決算額	
第10表 昭和29年度市税徴収成績調	

2. 特別会計	22
第11表 特別会計総合累年決算額	
第12表 特別会計決算額	
3. 市 債	24
第13表 市債各年度末現在高	
4. 財 産	24
第14表 市有財産	

## 第 5 編 産 業

1. 鉱 業	25
鉱業の概況	
第1表 三池鉱業所月別従業員	
第2表 昭和24年度～29年度出炭高	
第3表 三池炭鉱月別出炭量	
第4表 炭鉱事故による人的被害状況	
2. 工 業	26

### 工業の概況

第5表 工業中分類別工場数及び出荷額 累年比較	
第6表 工業中分類別工場数及び従業員及び 出荷額	
第7表 主要工場生産数量及び金額(歴年)	

3. 電 力	30
--------	----

### 電力生産の概況

第8表 昭和24年～29年電力生産量	
第9表 昭和29年度月別電力生産量	

4. ガ ス	31
--------	----

### ガスの概況

第10表 ガス供給戸数及び孔口数	
第11表 ガス供給量	
第12表 ガス	

5. 水 道	32
--------	----

### 水道の概況

第13表 水 源	
第14表 昭和24年～29年給水栓及び戸数類別	

第15表	昭和24年～29年給水料金	
6.農 業	.....	33
	農業の概況	
第16表	経営規模別専業兼業別農家数	
第17表	経営規模別地区別農家戸数	
7.畜 産	.....	35
	畜産の概況	
第18表	経営規模別家畜の養育数	
第19表	昭和24年～29年屠畜状況	
8.水 産	.....	35
	水産の概況	
第20表	就労状況別世帯員数	
第21表	主なる漁業種類別経営体数	
第22表	漁獲高	
9.干 拓	.....	36
	1 三池干拓建設事業概況	
	2 人工島概況	
	3 堂面川地先干拓概況	

## 第6編 経 済

1.商 業	.....	39
	商業調査の一般的説	
	商業調査結果概況	
第1表	業種別店舗数、従業者及び商品売上高	
第2表	〃 営業支出額	
第3表	〃 店舗数、従業者数及び商品売上高	
2.物 価	.....	40
	消費者物価の概況	
第4表	消費者物価指数	
3.金 融	.....	42
	金融の概況	
第5表	銀行諸勘定	
第6表	銀行諸勘定	
第7表	手形交換高	
第8表	通常郵便貯金	
第9表	定額貯金	
第10表	積立貯金	
4.貿 易	.....	46
	貿易の概況	
第11表	三池港輸出入貨物	

第12表	昭和29年移出入貨物
第13表	大牟田港移出入貨物

## 第7編 交 通

	陸上運輸の概況	
1.道 路	.....	47
	第1表 道路延長調	
	第2表 舗装道路区分別調	
2.国 鉄	.....	48
	第3表 昭和24年～29年大牟田駅乗降客及び手荷物調	
	第4表 〃 銀水駅乗降客及び手荷物調	
	第5表 〃 国鉄貨物取扱数(大牟田駅)	
	第6表 〃 〃 (銀水駅)	
3.私 鉄	.....	50
	第7表 昭和29年西日本鉄道乗降客数(大牟田駅及び栄町駅)	
4.バスその他	.....	51
	第8表 市内西鉄バス	
	第9表 昭和29年西鉄バス輸送調	
	第10表 産交バス	
	第11表 昭和29年産交バス輸送調	
	海上運輸の概況	
	第12表 昭和24年～29年三池～島原間渡船乗降調	
	第13表 昭和29年三池～島原間渡船月別乗降人員調	
5.船 舶	.....	53
	第14表 昭和29年三池港入港船舶調	
6.通 信	.....	53
	第15表 昭和24年～29年小包郵便調	
	第16表 〃 電信発着表	
	第17表 電話による電報発信、配達状況	
7.報 道	.....	54
	第18表 昭和24年～29年月別ラジオ聴取台表	

## 第8編 司法及び警察

1.司 法	.....	55
	第1表 司法機関	
	第2表 昭和29年登記件数	
2.警 察	.....	55
	警察の概況	
	第3表 警察職員実員数	



- 第4表 昭和26年～29年交通事故数
- 第5表 昭和25年～29年刑法犯市内発生検挙状況
- 第6表 昭和29年青少年犯罪者数

## 第9編 消 防

### 1. 消 防……………59

#### 消 防 の 概 況

- 第1表 消防設備
- 第2表 昭和24年～29年火災損害見積額
- 第3表       "      火災統計表
- 第4表       "      中時刻別火災発生件数
- 第5表       "      月別火災発生件数
- 第6表 消防本部及び消防署人員配置表

## 第10編 教 育

### 1. 学校教育 …………… 63

#### 昭和29年度教育の概況

- 第1表 昭和26年度～30年度学校調
- 第2表 昭和29年度～30年度児童体位表
- 第3表 中学及び高校30年3月卒業生の進路

### 2. 社会教育……………65

#### 昭和29年度社会教育の概況

- 第1表 公民館数
- 第2表 公民館活動状況
- 第3表 昭和29年度中央公民館公営結婚式

### 3. 図書館……………66

#### 昭和29年度図書館の概況

- 第4表 蔵書冊数及びその他
- 第5表 図書館
- 第6表 昭和29年度閲覧者数並びに閲覧冊数調
- 第7表 一般室閲覧者職業調
- 第8表 一般室閲覧冊数分類別調

## 第11編 保健衛生

### 1. 医 療……………69

#### 保 健 の 概 況

- 第1表 保健衛生及び従業者
- 第2表 医師分布状況
- 第3表 病院調

## 第12編 社会及び労働

### 1. 社会事業……………71

#### 社会事業の概況

- 第1表 保育所調
- 第2表 生活保護法による保護状況
- 第3表 身体障害者数
- 第4表 公益質屋状況

### 2. 国民健康保険……………73

#### 国 保 の 概 況

- 第5表 国民健康保険加入状況
- 第6表 国民健康保険給付状況
- 第7表 1世帯に対する国民健康保険の給付状況

### 3. 労 働……………74

- 第8表 失業対策事業就労状況
- 第9表 失業対策事業費の支出状況
- 第10表 市税に占める失業対策事業費市費負担状況
- 第11表 職業紹介状況(日雇)
- 第12表 月別職業紹介状況(常備)
- 第13表 労働組合調
- 第14表 昭和29年労働争議の状況  
(市内に主たる事務所を有するもの)

### 4. 住 宅……………77

- 第15表 昭和20年～29年市営住宅建設状況

## 第13編 観 光

### 観光の概況……………79

- 1. 名勝史蹟
- 2. レクリエーション・公園
- 3. 年中行事
- 4. 名産及びおみやげもの
- 5. 産業観光

## 附 録

### 1. 名簿編……………85

- (1) 官 公 署
- (2) 議 員
- (3) 教 育
- (4) 運 輸 通 信
- (5) 銀 行
- (6) 新 聞 社
- (7) 団 体
- (8) 主 要 事 業 所

### 2. 九州都市一覧……………95

＝凡 例＝

- 1、本書は、大牟田市の大要を一般に紹介するため、編集した。
- 2、本書は、昭和30年版として、内容は主に昭和29年(歴  
年)又は29年度(会計年度)中の資料を基準とし、これ  
に過去6ヶ年間の計数を配置したが、編集の関係上  
異なるものは、調査期日を附記した。
- 3、符号の用法は、次によつた  
○ 単 位 未 満  
— 該当なし又は皆無  
… 未詳又は不明
- 4、本書の調製に当つて、貴重な資料を提供された関係  
各位に対して深甚の謝意を表し、併せて、今後の御  
協力と御指導をお願いする次第である。

昭 和 3 1 年 2 月

大牟田市役所 総務部庶務課

第 1 編

沿革及び風土

---

1 沿 革

2 土 地

3 気 象



# 昭和30年版大牟田市市勢要覽

## 第1編 沿革及び土地・気象

### 1 沿革

第I表 大牟田の歴史

(市総務部 庶務課)

時代	年代	主なる事項
古代 平安朝時代 鎌倉時代 室町時代 豊臣時代 徳川時代	延喜の頃(延1)(901)	景行天皇高田行宮に居たもう時、高さ970丈に及ぶ歴木の巨木があつたのに因み、「御木の国」と称せられた 三毛郡と称せられた
	建久3年	今山岳の活動によつて「三つの池」が出現したので、頼朝の時三池と称せられた
	文明元年	伝治左衛門という一農夫が山中で焚火中燃える石(石炭)を発見した
	慶長の頃(慶5)(1600)	立花氏が三池を領治した
	寛文4年(1664)	平塚喜左衛門早鐘山の谷に堤を築く
	享保6年3月(1721)	小野春信氏が藩主から平野鷹取山の地を賜り、同年11月ここに石炭の採掘を始めた
	寛政8年	三池藩主立花種周は石山御用掛を置き、石山法度を定め、石炭を採掘させた
	上内の立花内膳が吉ヶ谷の大堤を築いた。その面積6町5反余り	
	文化3年6月(1806)	三池藩主移封
	〃 9年—(1812)	伊能忠敬一行三池郡地方測量
明治時代	天保6年(1835)	柳河藩士小野寛隆が平野山の地を買ひ、ここに坑を掘つて石炭の採掘を始めた
	安政3年3月(1856)	立花氏が石炭を幕府に献納した
	明治2.6.24(1869)	立花恭泰が三池藩知事に任ぜられた
	〃 4.7.12(1871)	三池藩士族が石炭採掘を願出た
	〃 4.7.14(〃)	三池藩が三池県となつた
	〃 6.5—(1873)	炭坑一円が官山となつた
	〃 6.—(〃)	天梁、御木、咸休等の小学校が設立された
	〃 11.2—(1878)	大浦坑から大牟田川口に至る馬車鉄道が完成した
	〃 17.—(1884)	鉾山本局と七浦坑間に、始めて電話が架設された
	〃 21.4.21(1888)	大蔵省が鉾山払下規則を告示し、8月1日払下入札を行つた。三井組の名儀入佐々木八郎に455万円で落札し、翌年1月より三井炭鉾社名儀で営業開始
	〃 22.4.1(1889)	町村制実施。大牟田、横須、稻荷、下里は大牟田町となり、三池、新町、今山歴木は三池町になる
	〃 22.6.—(〃)	初代大牟田町長水野澄治氏が就任した
	〃 24.4.—(1891)	九州鉄道株式会社線久留米、高瀬間開通、大牟田駅開設
	〃 32.4.25(1899)	三池郡役所が三池町から大牟田町に移つた
	〃 32.—(〃)	三池港起工
	〃 35.11.3(1902)	大牟田港起工
	〃 36.4.25(1903)	大牟田郵便局で電話開始
〃 41.4.—(1908)	三池港竣工	
大正時代	大正6.3.1(1917)	市制施行。7月3日市長に巖谷忠順氏が就任した
	〃 6.5—(1917)	炭山創業翌7年8月15日三池鉾山株式会社組織改定、鉾業所、港務所、製煉所、染料工業所、製作所を設く
	〃 10.8.4(1921)	上水道市内一部通水開始
	〃 15.3—(1926)	3月20日より4月25日迄市制10周年記念国産共進会開催
	〃 15.4.15(〃)	銀水駅開設
	〃 15.7.—(〃)	三池郡役所廃止
昭和時代	昭和2.12.1(1927)	大牟田電気軌道旭町より四山迄2哩27鎖敷設竣工
	〃 4.4.1(1929)	三川町市に編入
	〃 5.2.4(1930)	公益質屋一本町に開所
	〃 8.5.27(1933)	市役所が火災で焼失した
	〃 9.5.8(1934)	腸チブス流行、患者大牟田市512人、三池、銀水70余人

第1表 大牟田市の歴史(続)

(市総務部庶務課)

時代	年代	主なる事項
昭和時代	昭和9.10.15(1934)	市役所新築基礎工事着手
	〃 11.3.15(1936)	市役所新築落成(総工費402,680円、中央塔脚の高さ112尺、建坪416坪、延坪1,565坪)
	〃 12.9.25(1937)	本市一円赤痢流行、9.25爆発赤痢と呼ばれた
	〃 13.10.1(1938)	九州鉄道株式会社の電車、栄町まで開通
	〃 14.7.1(1939)	九州鉄道株式会社の電車、栄町大牟田駅間開通
	〃 16.4.1(1941)	玉川村、駛馬町、三池町、銀水村が市に編入された
	〃 16.12.8(〃)	大東亜戦争勃発
	〃 17.8.27(1942)	全市が未曾有の水害に襲われた
	〃 18.7.—(1943)	大牟田消防署開設
	〃 20.6.18(1945)	市内中心地帯、工場地帯が戦災に遭うた
	〃 20.7.27(〃)	市内中心地、工場地帯が甚大な戦災に遭うた
	〃 20.8.15(〃)	終戦
	〃 21.11.3(1946)	日本国憲法公布
	〃 22.4.7(1947)	公選初代市長荒木万寿夫氏が就任した
	〃 22.6.1(〃)	各校区に駐在員を設置した
	〃 22.9.1(〃)	連絡員を設置した
	〃 22.11.1(〃)	銀水、三池、駛馬、玉川に出張所を設置し、この地域の駐在員を廃止した
	〃 23.3.31(1948)	駐在員を全面的に廃止した
	〃 23.4.1(〃)	自治振興区を設け、自治振興員を置いた(全市248区)
	〃 24.4.1(1949)	大牟田市立図書館が設立された
	〃 25.7.25(1950)	大牟田駅の新築が落成した
	〃 25.8.15(〃)	出張所を廃止し支所を設置した
	〃 25.8.25(〃)	大牟田市立病院が不知火町に新築落成した
	〃 26.1.10(1951)	自治振興区及び自治振興員を廃止した
	〃 26.1.11(〃)	分所が開設された
	〃 26.4.2(〃)	三川支所が開設された
	〃 26.10.3(〃)	福祉事務所が開設された
	〃 27.1.5(1952)	市内電車が廃止された
	〃 27.5.3(〃)	市制35周年記念祭が行われた
	〃 27.10.16(〃)	労働会館が新築落成した
	〃 27.10.17(〃)	炭労の無期限ストライキが始まった
	〃 27.12.17(〃)	炭労ストライキ中止
	〃 27.12.—(〃)	国営三池干拓建設事業起工
	〃 28.4.1(1953)	人工島初島大牟田市編入(14,100平方米)4,265坪
	〃 29.2.1(1954)	大牟田拘留所開所
	〃 29.5.22(〃)	市民会館落成(総工費64,745,360円、敷地面積1,210坪、建坪延700.20坪)
	〃 29.7.1(〃)	大牟田警察署が国家警察になった
	〃 29.7.10(〃)	不知火、川尻、大正、中友、笹林各分所廃止(三里分所三川支所編入)



## 2 土 地

### 位 地 の 概 況

本市は九州の中部東経130度26分53秒、北緯33度1分36秒に位し、福岡県の最南端である筑後平野の南端にある。西は不知火の名高い有明海を抱き、多良嶽を望み、東は三池山の連峰が起伏し、北は甘木丘陵を経て三池郡高田村に接続し、南は熊本県荒尾市と界している。

### 地 勢 の 概 況

東と北に山岳丘陵を負い、西と南は平坦で、市街地は主としてこの地区に發展している。地下は所謂三池炭の炭層よりなり、気候は極めて温暖で、乾湿も亦適度である。

第 2 表 面 積

(市建設部 土木課)

面 積	距 離				極 地			
	東	西	南	北	東	西	南	北
77.77km <sup>2</sup>	12.5km		10.8km		大字四ヶ	新 港 町	東萩尾町	大字上内

註 人工島(初島)0.014km<sup>2</sup>含めず

第 3 表 校 区 別 面 積

(市建設部 計画課)

区 分	面 積	区 分	面 積	区 分	面 積	区 分	面 積
	km <sup>2</sup>		km <sup>2</sup>		km <sup>2</sup>		km <sup>2</sup>
白 川校区	1.64	上 官校区	0.73	笹 原校区	1.72	高 取校区	3.05
平 原 "	2.63	不知火 "	0.99	天 道 "	1.45	銀 水 "	7.08
笹 林 "	0.73	三 川 "	1.30	駛馬北 "	1.88	手 鎌 "	7.19
明 治 "	2.99	三 里 "	1.23	駛馬南 "	2.20	倉 永 "	7.92
中 友 "	0.81	川 尻 "	1.13	玉 川 "	7.55	上 内 "	13.99
大 正 "	0.74	諏 訪 "	3.31	三 池 "	5.51	計	77.77

註 人工島(初島)面積0.014km<sup>2</sup>(4,265坪)含めず

## 3 気 象

### 気 象 の 概 況

東南の二方に山岳を廻らし、自然の障壁を作り、気候は概して温暖であるが、冬から春にかけて、北西の季節風が強く、突風を伴うことがあるが、最大陸上15米である。気温は高く、最高36°、最低零下4°で、雪は殆んど見ない。台風期の夏から秋にかけては、南々東の風が相当強く、雨量は平均して少なく、乾湿亦適度である。

第 4 表 気 象 累 年 比 較

天気日数は、晴曇を除き、当日現象の起つた日をいう。

(三池港務所)

区 分	天 気 日 数											地 震	
	晴	曇天	降雨	降雪	雷電	結氷	暴風	霧	霰	霜	不照	有 感	無 感
昭 和 2 2 年	189	176	85	19	4	28	41	40	2	23	—	1	—
2 3	188	178	110	6	11	14	36	57	1	14	—	2	—
2 4	167	198	150	10	6	5	61	51	—	18	—	2	—
2 5	176	189	141	6	6	4	41	50	—	16	—	1	—
2 6	186	179	120	10	3	10	38	66	1	31	—	2	—
2 7	197	169	143	7	12	12	36	67	—	26	—	—	—
2 8	168	197	134	11	4	16	40	51	4	33	—	2	—
2 9	171	194	114	6	15	14	33	81	2	29	—	2	—

註 暴風、風速秒10m以上の日をいう。



## 第 2 編

# 人 口

---

### 1 人口の概況



## 第 2 編 人 口

### 1 人口の概況

本市人口の推移を見ると、大正6年に人口67,810人となり、市制を施行し、昭和4年に隣接地三川町を編入、人口102,530人となり、更に又昭和16年4月には隣接地の三池町、駛馬町、銀水村及び玉川村を合併して人口一躍179,338人の都市となり、一大飛躍を遂げている。以後毎年漸増を続けていたのであるが、大東亜戦争の進展につれ、動員、徴用、空襲をさけての疎開等により、昭和18年の人口180,904人を限度に減少傾向に転じたが、昭和20年8月終戦と共に漸次市の復興に従い、復員、海外引揚、疎開者の帰郷等により、再び急速に増加し始めた。そして昭和25年10月1日、戦後初めて国勢調査が実施されたが、世帯数39,855、総数191,978人を示しつつ更に昭和30年10月1日で国勢調査が行われたがその結果は世帯数41,227、総数201,737人(男98,127人、女103,610人)で、昭和25年の国勢調査人口より9,759人の増加となつている。本市では初めての20万人突破の記録を作り、その意義の誠に重要なものがあると考えられる。今後とも諸産業の進歩発展と共に、人口の増加は、自然増とし共に漸増して行くであらう。

第 1 表 累 年 別 人 口 及 び 世 帯 数 (市総務部 庶務課)

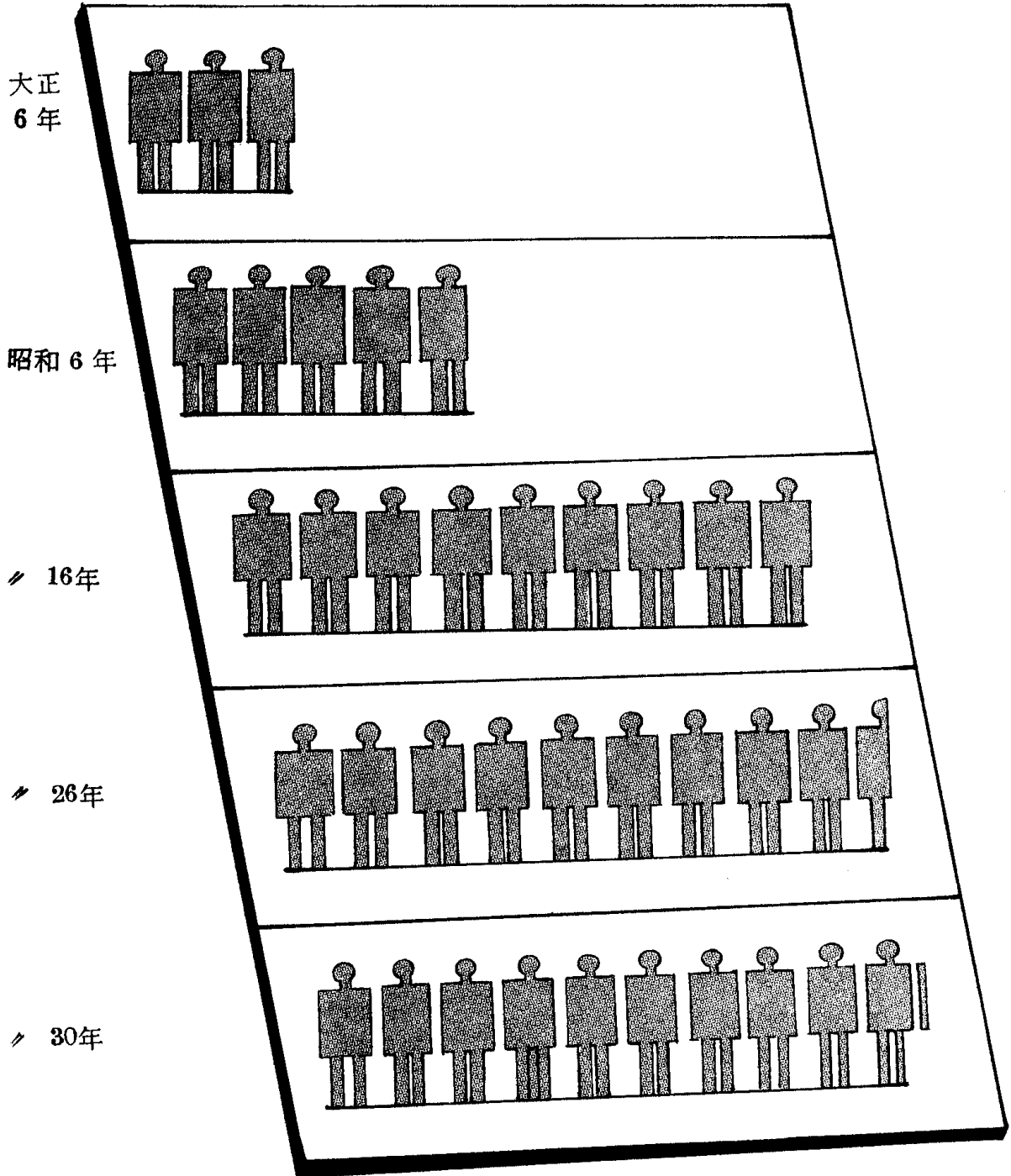
区 分	世 帯 数	人 口			純増加数	純増加率	備 考
		計	男	女			
明治22年	2,017	11,295	...	...	...	...	町 制 施 行
23	2,289	12,864	...	...	1,569	13.8%	
24	2,446	13,815	...	...	951	7.3	
25	2,472	13,905	...	...	90	0.6	
26	2,498	13,988	...	...	83	0.5	
27	2,756	15,626	...	...	1,638	11.7	
28	2,877	16,255	...	...	629	4.0	
29	2,981	16,872	...	...	617	3.7	
30	3,167	17,839	...	...	967	5.7	
31	3,291	18,351	...	...	542	3.0	
32	3,451	18,980	...	...	599	3.2	
33	3,632	20,521	...	...	1,541	8.1	
34	3,958	22,283	...	...	1,762	8.5	
35	4,292	24,371	...	...	2,088	9.3	
36	4,720	26,797	...	...	2,426	9.9	
37	4,894	27,662	...	...	865	3.2	
38	4,982	28,098	...	...	436	1.5	
39	5,493	30,811	...	...	2,713	9.6	
40	5,829	32,842	...	...	2,031	6.5	
41	6,225	35,414	...	...	2,572	7.8	
42	6,653	36,322	...	...	908	2.5	
43	6,972	39,206	...	...	2,884	7.3	
44	7,382	41,622	...	...	2,416	6.1	
大正元年	7,760	46,471	...	...	2,849	11.6	
2	8,017	46,909	...	...	438	0.9	

第1表 累年別人口及び世帯数 (続き) (市総務部庶務課)

区分	世帯数	人口			純増加数	純増加率	備考
		計	男	女			
大正3年	8,143	47,584	...	...	675	1.4%	
4	8,753	58,050	...	...	10,466	21.9	
5	9,708	61,748	...	...	3,698	6.3	
6	10,394	67,810	35,594	32,216	6,062	9.8	市制施行
7	11,063	71,184	37,412	33,772	3,374	4.9	
8	11,657	74,760	39,159	35,601	2,576	5.0	
9	12,264	77,822	40,737	37,085	3,062	4.0	
10	12,662	69,009	35,439	33,570	-8,813	-11.3	
11	12,743	71,263	36,282	34,981	2,254	3.2	
12	13,171	74,800	37,860	36,940	3,537	4.9	
13	13,274	76,183	38,489	37,694	1,383	1.8	
14	13,864	72,705	36,735	35,970	-3,478	-4.5	
昭和元年	13,931	75,438	38,085	37,353	2,733	3.7	
2	14,013	75,990	38,261	37,729	552	0.7	
3	14,253	76,950	38,784	38,166	960	1.2	
4	19,421	102,530	51,136	51,394	25,580	33.2	三川町編入
5	19,421	95,355	47,620	47,735	-7,175	-6.9	
6	19,358	96,854	48,230	48,624	1,499	1.5	
7	19,459	97,510	48,230	49,280	656	0.6	
8	19,569	98,072	48,713	49,359	562	0.5	
9	19,955	102,163	50,777	51,386	4,091	4.1	
10	20,329	106,631	53,022	53,609	4,468	4.3	
11	21,105	111,309	55,413	55,896	4,678	4.3	
12	21,619	115,139	57,047	58,092	3,830	3.4	
13	22,038	119,348	59,078	60,270	4,209	3.6	
14	22,696	123,863	61,231	62,632	4,515	3.7	
15	23,338	125,841	62,451	63,390	1,978	1.5	
16	34,308	179,338	89,961	89,377	53,497	42.5	銀水村・三池町・駛馬町・玉川村合併
17	35,418	183,110	90,479	92,631	3,772	2.1	
18	35,881	180,904	88,612	92,292	-2,206	-1.2	4月1日現在
19	36,293	179,574	87,587	91,987	-1,330	-0.7	
20	28,624	127,677	61,574	66,103	-51,897	-28.9	終戦の年
21	30,253	144,177	71,119	73,058	16,500	12.9	
22	35,500	166,500	82,577	83,923	22,323	15.4	10月1日国勢調査
23	37,875	179,687	89,630	90,057	13,187	7.9	8月1日常住人口調査
24	39,925	187,839	93,670	94,169	8,152	4.5	12月31日現在
25	39,855	191,978	94,818	97,160	4,139	1.9	10月1日国勢調査
26	41,309	194,459	96,044	98,415	2,481	1.6	12月31日現在
27	41,682	196,369	96,530	99,839	1,910	0.9	〃
28	42,006	198,141	96,952	101,189	1,772	0.9	〃
29	42,618	200,026	97,721	102,305	1,885	0.9	〃
30	41,227	201,737	98,127	103,610	1,711	0.8	10月1日国勢調査



# 増加して行く人口



(人像は 1 個 2 万人を示す)  
各年12月末人口  
30年のみ10月1日

第 2 表 校 区 別 人 口 及 び 世 帯 数

昭 和 3 0 年 1 2 月 末 日

(市総務部庶務課)

地区別	校 区 別		世 帯 数	人 口		
				計	男	女
旧 市 内	総	数	43,489	202,879	99,151	103,728
	小	計	25,754	114,495	55,633	58,862
	白	川	2,820	12,595	6,226	6,369
	平	原	2,300	10,034	4,769	5,265
	笹	林	1,374	6,081	2,897	3,184
	明	治	2,505	11,289	5,529	5,760
	中	友	2,576	11,109	5,117	5,992
	大	正	2,652	12,094	5,970	6,124
	上	官	1,860	8,053	3,931	4,122
	不	知	1,583	7,117	3,490	3,627
	三	川	2,416	10,430	5,079	5,351
	川	尻	1,668	7,353	3,612	3,741
	三	里	2,546	11,598	5,676	5,922
	諏	訪	1,454	6,742	3,337	3,405
銀 水	小	計	6,211	31,304	15,288	16,016
	倉	永	1,080	5,485	2,629	2,856
	手	鎌	1,816	9,013	4,407	4,606
	上	内	700	4,010	1,997	2,013
	銀	水	2,615	12,796	6,255	6,541
三 池	小	計	3,076	15,286	7,462	7,824
	三	池	1,889	8,977	4,371	4,606
	高	取	1,187	6,309	3,091	3,218
駛 馬	小	計	7,466	35,570	17,373	18,197
	駛	馬	2,770	12,584	6,043	6,541
	駛	馬	2,140	10,300	5,038	5,262
	笹	原	1,458	7,133	3,512	3,621
	天	道	1,098	5,553	2,780	2,773
玉 川	小	計	944	4,760	2,328	2,432
	玉	川	944	4,760	2,328	2,432
準 世 帯	小	計	38	1,464	1,067	397
	準	世	38	1,464	1,067	397

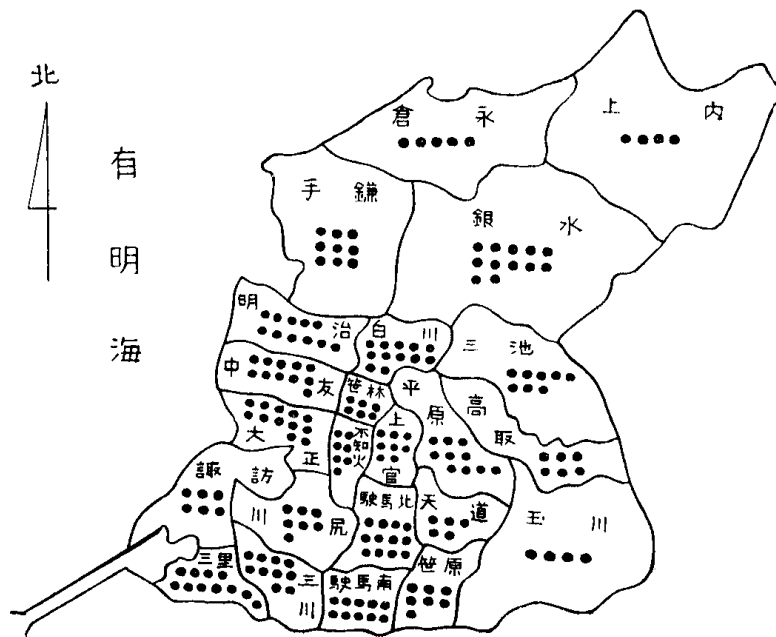
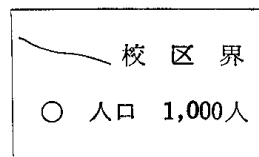
第3表 人口密度 昭和30年12月末 (市総務部庶務課)

区分	人口	比率	世帯数	比率	面積	比率	密度(km <sup>2</sup> )		1世帯 平均人員
							人口	世帯	
旧市内	114,495	56.4%	25,754	59.2%	18.33	23.6%	6,246	1,405	4.4
新市内	88,384	43.6	17,735	40.8	59.44	76.4	1,487	298	5.0
駒馬 玉川 三池 銀水	35,570	17.5	7,466	17.2	6.53	8.4	5,465	1,143	4.4
	4,760	2.4	944	2.2	7.69	9.9	619	123	5.0
	15,286	7.6	3,076	7.1	8.89	11.4	1,719	346	5.0
準世帯	1,464	0.7	38	0.1	—	—	—	—	38.5
計	202,879	100.0	43,489	100.0	77.77	100.0	2,609	559	4.7
福岡県	3,859,764	5.2	778,121	5.6	4,908.00	1.6	786	158	4.9
全国	89,275,529	0.2	17,958,284	0.2	369,517.00	0.02	241	48	5.0

註 県及び全国の人口及び世帯数は昭和30年10月1日国勢調査  
本市の面積には初島を除く(14,100平方m)

校区別に見た人口分布

(昭和30年12月末)



第4表 年令(5才階級)配偶関係及び男女別人口 昭和25年10月1日現在 (市総務部庶務課)

年 令	総 数			未 婚		有 配 偶		死 別		離 別	
	総 数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総 数	191,978	94,818	97,160	—	—	—	—	—	—	—	—
0~4	30,848	15,917	14,931	—	—	—	—	—	—	—	—
5~9	21,905	11,143	10,762	—	—	—	—	—	—	—	—
10~14	18,767	9,458	9,309	—	—	—	—	—	—	—	—
15~19	17,767	9,057	8,710	9,019	8,281	37	409	0	4	1	16
20~24	17,352	8,539	8,813	6,802	4,090	1,681	4,523	7	48	49	151
25~29	15,805	7,185	8,620	2,238	1,012	4,832	7,133	31	244	83	231
30~34	13,694	6,474	7,220	391	363	5,967	6,118	35	530	81	209
35~39	12,206	6,130	6,076	170	167	5,862	5,097	39	687	59	125
40~44	10,270	5,255	5,015	72	69	5,045	4,057	88	752	50	137
45~49	8,278	4,221	4,057	66	62	3,965	3,108	138	787	52	100
50~54	7,188	3,559	3,629	26	47	3,291	2,540	206	971	36	70
55~59	5,657	2,787	2,870	17	24	2,460	1,714	274	1,063	36	68
60~64	4,509	2,031	2,478	22	22	1,678	1,096	306	1,308	25	52
65~69	3,412	1,468	1,944	24	31	1,101	629	322	1,242	21	41
70~74	2,294	931	1,363	14	20	602	284	305	1,040	10	19
75~79	1,297	429	868	10	13	228	99	188	745	3	11
80以上	719	229	490	3	5	104	21	120	459	2	5
不 詳	10	5	5	2	1	3	3	0	1	0	0

第5表 労働力状態及び男女別14才以上人口 昭和25年10月1日現在 (市総務部庶務課)

地 域	総 数						割 合					
	総 数	労働力人口			非労働力人口	不詳	総 数	労働力人口			非労働力人口	不詳
		総 数	就業者	完 全 失業者				総 数	就業者	完 全 失業者		
大牟田市	124,078	67,291	63,498	3,793	56,769	18	100.0	54.2	51.2	3.1	45.8	0.0
地 域	男						女					
	総 数	労働力人口			非労働力人口	不詳	総 数	労働力人口			非労働力人口	不詳
		総 数	就業者	完 全 失業者				総 数	就業者	完 全 失業者		
大牟田市	60,135	49,090	46,458	2,632	11,035	10	63,943	18,201	17,040	1,161	45,734	8

第6表 職業(大分類)及び男女別14才以上就業者数

昭和25年10月1日現在

(市総務部庶務課)

職 業 大 分 類	総 数	男	女
総 数	63,498	46,458	17,040
1. 専 門 的 技 術 的 職 業	3,660	2,423	1,237
2. 管 理 的 職 業	933	898	35
3. 事 務 従 事 者	7,948	5,653	2,295
4. 販 売 従 業 者	6,957	3,841	3,116
5. 農夫、伐木夫、猟師、漁夫及び類似従業者	8,471	3,545	4,926
6. 採 鉱、採 石 的 職 業	7,084	6,828	256
7. 運 輸 的 職 業	875	864	11
8. 特殊技能工、生産工程従業者及び類似従業者	23,669	20,778	2,891
A. 特殊技能工、生産工程従業者及び類似従業者	(18,952)	(17,467)	(1,485)
B. 単純労働者(農場、鉱山及びサービスを除く)	(4,717)	(3,311)	(1,406)
9. サ ー ビ ス 職 業	3,850	1,586	2,264
10. 分類不能の職業及び不詳	51	42	9

第 7 表 産業（大分類）及び男女別14才以上就業者数

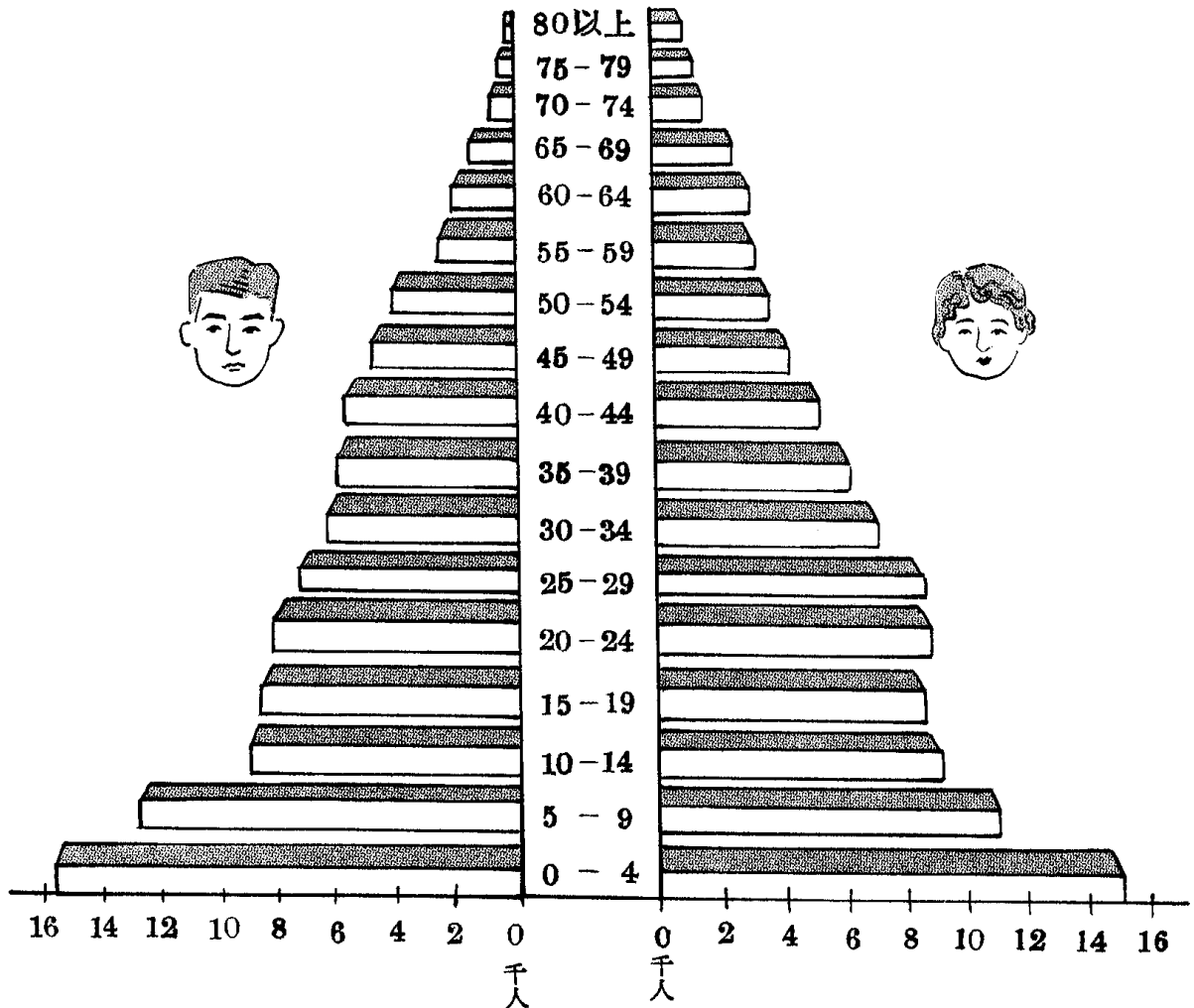
昭和 2 5 年 1 0 月 1 日 現在

(市総務部庶務課)

産 業 大 分 類	総 数	男	女
総 数	63,498	46,458	17,040
1. 農 業	8,261	3,374	4,887
2. 林業及び狩猟業（伐木業を含む）	17	14	3
3. 漁業及び水産養殖業	263	195	68
4. 鉱 業	13,227	12,237	990
5. 建設業	4,019	3,395	624
6. 製造業	17,212	14,655	2,557
7. 卸売及び小売業	8,351	4,525	3,826
8. 金融、保険及び不動産業	591	385	206
9. 運輸、通信及びその他の公益事業	4,403	3,824	579
10. サービス業	5,393	2,498	2,895
11. 公務員	1,723	1,326	397
12. 分類不能の産業	38	30	8

### 5才階級の人口構成

(昭和 2 5 年 1 0 月 1 日)



第 8 表 人 口 動 態 昭和25年～昭和30年 (市総務部庶務課)

区 分	総 人 口	人 口 1,000 人 に 対 す る		
		出 生 率	死 亡 率	増 減
昭 和 2 5 年	193,025	34.8 <sup>人</sup>	10.5 <sup>人</sup>	+24.3 <sup>人</sup>
2 6	194,459	31.9	9.9	+22.0
2 7	196,369	27.1	9.4	+17.7
2 8	198,141	25.1	9.2	+15.9
2 9	200,026	20.7	7.6	+13.1
3 0	202,879	19.1	6.0	+13.1

第 9 表 昭和25年～30年転入転出人口数 (市経済部商工課)

区 分	転 入			転 出		
	計	男	女	計	男	女
昭和25年	5,152	2,538	2,614	1,825	894	931
26	3,927	1,942	1,985	1,911	992	919
27	18,263	...	...	17,173	...	...
28	11,198	...	...	12,255	...	...
29	11,493	...	...	12,262	...	...
30	11,488	...	...	11,251	...	...
1月	784	...	...	751	...	...
2	784	...	...	795	...	...
3	990	...	...	1,118	...	...
4	1,141	...	...	1,158	...	...
5	836	...	...	926	...	...
6	804	...	...	686	...	...
7	806	...	...	666	...	...
8	997	...	...	826	...	...
9	1,092	...	...	1,099	...	...
10	1,076	...	...	1,080	...	...
11	1,054	...	...	1,021	...	...
12	1,124	...	...	1,125	...	...



第 3 編

行 政

---

1 執行機関

2 議決機関



## 第 3 編 行 政

### 市 政 の 概 況

平和憲法のもと、地方自治法の精神に則り、車の両輪の如き執行機関と議決機関の密接なる連けいと、市民の協力により、絶えず20万市民の福祉の増進を念願しつつ、地方自治の強化と市発展のため、重要懸案山積する中に、赤字財政の克服、農業並びに中小企業の育成振興、社会労働施設の強化、道路並びに下水の整備、そして教育の振興等を重点にとり上げ、遂次これが実現に努力している。

### 1 執 行 機 関

執行機関は議決機関の決定した意思に従つて、これを執行する機関である。一般行政事務の執行機関としては、市長のほか、次に掲げる特別の事項をつかさどる行政機関がある。即ち地方自治法で定める選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、教育委員会及び農業委員会、それから地方税法の定めによる固定資産評価審査委員会がある。

#### 市 長

市長は、市の行政を統轄し、市を代表する市の最高理事者であつて、市民によつて直接選挙され、任期は4ケ年である。市長は市の自治事務のほか、法令によつてその権限を委ねられた国の事務をも管理執行する職権を有している。現市長細谷治嘉氏は、公選による第4回目の第12代大牟田市長として、昭和30年4月30日の選挙で選出され、現在に至っている。

#### 補 助 機 関

市長の補助機関として、助役、収入役その他多数の補助職員が置かれている。助役は市長を補佐し市長に支障がある場合その職務を代理するもので、市議会の同意を得て市長が選任する。任期は4ケ年である。現助役坪沼寿義氏は、昭和30年11月18日選任せられ、現在に至っている。

収入役は、金銭の出納その他会計事務をつかさどり、助役と同じく市長が市議会の同意を得て選任する。任期は市長、助役と同じく4ケ年である。現収入役猿渡清一郎氏は昭和25年2月22日選任せられ、昭和29年3月6日再任されたものである。

### 2 議 決 機 関

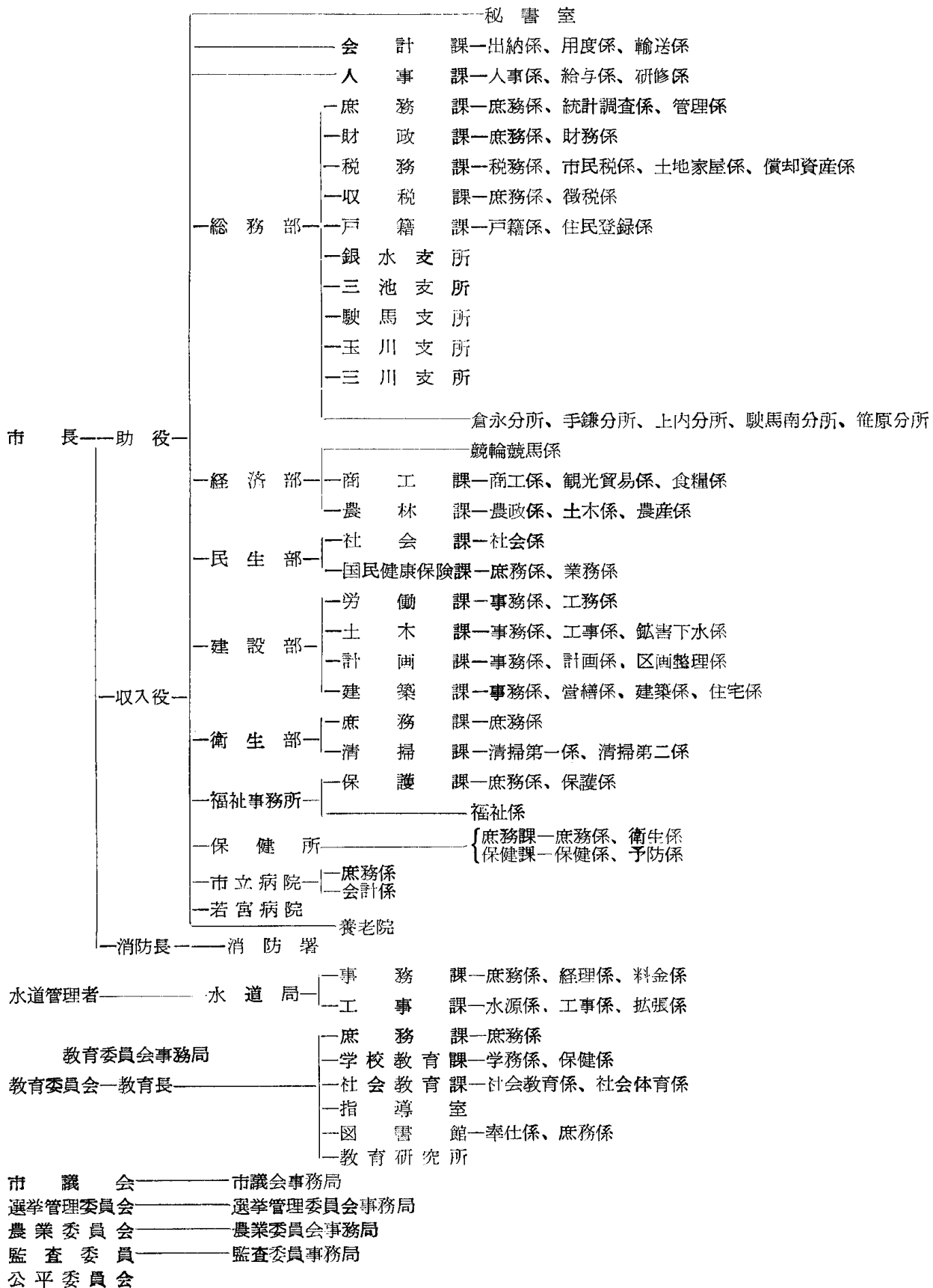
本市の議会を構成する議員の定数は40名で、現在の議員は昭和30年4月30日の選挙によつて選出され、その任期は4年である。会議は定例会の規程を以て3月、6月、9月、12月の4回と定め、必要に応じ臨時会が招集されている議決機関である市議会は、主なる権限として市政の事務処理に当つて、その最高方針を多数決により決定するものであるが、その議会の権限として、市長或は教育委員会、選挙管理委員会、監査委員等の各委員又は委員に事務報告を請求し、その事務の管理、議決に対する執行状況或は会計の検査等をも行う。

# 1 執行 機 関

第 1 表

## 行 政 機 構

昭 和 30 年 12 月 1 日 現 在



歴 代 三 役

第 2 表

市 長

(市総務部庶務課)

区分	氏 名	就 任	退 任	在任期間	区分	氏 名	就 任	退 任	在任期間
初代	瀧谷 忠順	大 6. 7. 3	大 10. 7. 2	4年0月	7代	田中 修	昭 17. 1.23	昭 21. 1.22	4年0月
2代	岩井敬太郎	〃 11. 3.23	〃 15. 3...	4年...月	8代	荒木万寿夫	〃 21. 1.31	〃 22. 4. 2	1年3月
3代	〃	〃 15. 4...	昭 4. 8.10	3年4月	9代	〃	〃 22. 4. 7	〃 22. 4.18	11日
4代	奥村 長作	昭 4.11.23	〃 8.11.22	4年0月	10代	田中 忠藏	〃 22. 6. 4	〃 26. 3.29	3年9月
5代	前田 慎吾	〃 9. 5. 4	〃 12.12. 4	3年7月	11代	田中 忠藏	〃 26. 4.26	〃 30. 4. 3	3年11月
6代	田中 修	〃 13. 1.23	〃 17. 1.22	4年0月	12代	細谷 治嘉	〃 30. 5. 2	現 在	

註 9代以降は公選による。

第 3 表

助 役

(市総務部庶務課)

区分	氏 名	就 任	退 任	在任期間	区分	氏 名	就 任	退 任	在任期間
初代	宇野 誠	大 6... ..	大 7... ..	1年0月	7代	中富鉄之助	昭 13. 2. 1	昭 17. 2. 4	4年0月
2代	吉田 齊	〃 7.11. 7	〃 11.11. 6	4年0月	8代	〃	〃 17. 2. 5	〃 21. 2. 4	4年0月
3代	竹屋 英敏	〃 11.11.30	〃 15.11.29	4年0月	9代	田中 忠藏	〃 21. 3. 8	〃 22. 5.17	1年2月
4代	鷲塚 正人	昭 2. 5.14	昭 6. 5.15	4年0月	10代	山田 亀一	〃 22.10.10	〃 26.10. 2	4年0月
5代	井上秀太郎	〃 7. 1.15	〃 11. 1.14	4年0月	11代	〃	〃 26.10.15	〃 30. 7. 8	3年8月
6代	〃	〃 11. 1.15	〃 12.12.14	1年11月	12代	坪沼 寿義	〃 30.11.18	現 在	

第 4 表

収 入 役

(市総務部庶務課)

区分	氏 名	就 任	退 任	在任期間	区分	氏 名	就 任	退 任	在任期間
初代	大坪虎次郎	.....	.....	.....	7代	井形政太郎	昭 15. 1.22	昭 19. 1.23	4年0月
2代	森 四郎	大 8. 2.26	大 12. 2.25	4年0月	8代	〃	〃 19. 1.24	〃 23. 1.23	〃
3代	〃	〃 12. 5.14	昭 2. 3.29	3年10月	9代	〃	〃 23. 1.23	〃 25. 1. 6	〃
4代	〃	昭 2. 5.14	〃 6. 5.13	4年0月	10代	猿渡清一郎	〃 25. 2.22	〃 29. 2.21	〃
5代	〃	〃 6. 7.18	〃 10. 7.17	4年0月	11代	〃	〃 29. 3. 6	現 在	
6代	井形政太郎	〃 11. 1.22	〃 15. 1.21	4年0月					

第 5 表

吏 員 定 員 数 (消防署除く)

昭和31年1月1日現在

( )内は実数

(市人事課)

吏 員			そ の 他 の 職 員				合 計	
事務吏員	技術吏員	計	雇 員		計			
			事務雇員	技術雇員	事務員	作業員		
469	146	615	182	100	79	313	674	1,289
(334)	(119)	(453)	(260)	(97)	(57)	(262)	(676)	(1,129)

## 2 議 決 機 関

第 6 表

歴 代 議 長

(市総務部庶務課)

区 分	氏 名	就 任	退 任	区 分	氏 名	就 任	退 任
初 代	福井福三郎	大 6. 5.12	大 7. 3.19	7 代	鶴 惣市	昭 12. 6. 1	昭 17. 5.20
2 代	森 時三郎	〃 7. 4.23	〃 10. 4.30	8 代	〃	〃 17. 6.20	〃 22.2 .14
3 代	吉田卯三郎	〃 10. 5.16	〃 14. 4.20	9 代	江上 平	〃 22. 2.22	〃 22. 4.29
4 代	臼田 久内	〃 14. 5. 8	昭 4. 4.30	10 代	藤津 潔	〃 22. 5.24	〃 24. 6.30
5 代	平山 喜録	昭 4. 5.11	〃 8. 4.30	11 代	坂井 又雄	〃 24. 6.30	〃 26. 4.29
6 代	〃	〃 8. 5.11	〃 12. 4.30	12 代	境 慧	〃 26. 5.10	〃 30. 5. 1
				13 代	〃	〃 30. 5.18	現 在

第 7 表

歴 代 副 議 長

(市総務部庶務課)

区 分	氏 名	就 任	退 任	区 分	氏 名	就 任	退 任
初 代	吉田卯三郎	大 9. 5.12	大 10. 4.30	8 代	吉永 節治	昭 12. 6. 1	昭 17. 5.20
2 代	浜田 義隆	〃 10. 5.16	〃 12.12.17	9 代	古賀喜太郎	〃 17. 6.22	〃 22. 2.13
3 代	平山 喜録	〃 13. 3.27	〃 14. 4.30	10 代	古賀 常吉	〃 22. 2.20	〃 22. 4.29
4 代	大道 常吉	〃 14. 5. 8	昭 4. 4.30	11 代	坂井 又雄	〃 22. 5.24	〃 24. 6.30
5 代	水町浅五郎	昭 4. 5.11	〃 7.12.13	12 代	境 慧	〃 24. 6.30	〃 26. 4.26
6 代	円仏 七藏	〃 7.12.19	〃 8. 4.30	13 代	加倉 広斗	〃 26. 5.10	〃 30. 5. 1
7 代	〃	〃 8. 5.11	〃 12. 4.30	14 代	江上 平	〃 30. 5.18	現 在

第 8 表

現 市 議 会 議 員

(昭 和 30 年 12 月 1 日)

(市議会事務局)

区 分	氏 名	住 所	電 話	区 分	氏 名	住 所	電 話
1	中川 末義	草木下42	会3033	21	湯村 元昭	三池654の1	自呼4231
2	石橋 進	松原町2丁目29	〃 4515	22	境 造	岩本1221	〃 4440
3	小宮 生計	歴木1551の1	〃 2286	23	古賀 常吉	栄町1丁目2	自2730
4	運尾信次郎	櫛野	〃 4127	24	井上 半吾	原山町1	〃 2101
5	井上 光次	一ノ浦町71	自2230	25	山浦勇次郎	大正町1丁目27	〃 2967
6	坂根庄太郎	正山町68	〃 2952	26	松本 勇	四山町58	会3032
7	境 慧	不知火町3丁目114	〃 2503	27	広沢 修功	新港町6	〃 6219
8	堀 弘	櫛野2627	自呼4441	28	森田 収藏	歴木1443	—
9	森 清	中浜田町5の1	自2645	29	堺 親義	草木1037	自4472
10	猿渡 義男	不知火町2丁目1	〃 2841	30	山崎 末光	龍湖瀬町9	会3281
11	渋谷 総磨	南船津町1丁目6の4	会5330	31	月足 康則	飯田町51	〃 3033
12	堀 昌治	草木818	〃 3261	32	江崎 善雄	白川927	自3126
13	樋口 種樹	松原町1丁目2	自呼3721	33	東山 岩男	三里町2丁目2の2	〃 6023
14	舛永 栄吉	草木426	〃 3769	34	田中 留吉	七浦町107	〃 4973
15	榎下 常雄	笹原町2丁目40	会3261	35	国友 俊文	山上町20	会3231
16	川畑昭二路	新港町6	〃 6154	36	徳永 潮	手鎌1978	自呼3662
17	加倉 広斗	手鎌1240	〃 4281	37	古賀 喜一	三里町3丁目5の6	自6052
18	田坂 純一	小浜町52の1	〃 3231	38	西山 源藏	橋628の1	〃 3006
19	羽島 寛猛	浄真町71	〃 2539	39	江上 平	正山町20	〃 2356
20	山中 未彦	小川町156	自4622	40	上野 栄雄	本町1丁目26	〃 2626

第 4 編

財 政

---

- 1 一般会計
- 2 特別会計
- 3 市 債
- 4 財 産





## 第4編 財 政

### 昭和29年度の財政概況

そもそも、地方自治なるものは、確固たる地方財政の上に立つてこそ、始めてその本旨に則つた行政が行われうるのであつて、今日のような行詰つた地方行政下では、折角育んできた民主政治の根幹をなす地方自治そのものの存立をも危くするものといつても、決して過言ではないかと思われる。

従つて、現下地方自治体の赤字趨勢については、当該地方公共団体は無論のこと、匡においても、これが阻止には躍氣にならざるを得ないのである。

因みに、全国地方自治体の29年度決算における赤字現況を紹介して見ると、次のようになる。

	総団体数	赤字団体数	%	実質赤字額
都道府県	46	34	(74%)	26,407百万円
特別区	23	3	(13%)	42
5大市	5	4	(80%)	6,624
その他の市	481	364	(75%)	21,536
町村	5,372	1,880	(35%)	10,271
計	5,927	2,181	(37%)	64,880

即ち上表で明かななように、29年度決算における実質赤字額は648億円に上り、これを更に既往に遡つてみると、26年度の100億円の赤字より発し、27年度300億円、28年度426億円という累増赤字が29年度に至つて648億円にまでふえたということになり、一度出した赤字は、等差級数的に累増するといわれる事を実証しており、地方自治体の前途は、まことに寒心にたえないものがあるといわねばならない。

ひるがえつてこれを当市の場合を見ると、29年度実質赤字額は62百万円で、26年度と27年度は黒字で、純繰越額はそれぞれ25百万円であつたが、28年度から赤字圏内に転落、実質赤字49百万円を生むに至つたのである。

先に述べた様に、一度出した赤字は、累増し勝ちな性質があるので、これが消滅には、覚悟を新たにして掛からねばならないことを特記し、市民各位の一層深い御理解と御支援の程を願う次第である。

29年度における一般会計及び特別会計の決算は、別表の通りであつて、特別会計に属する決算は、各会計とも予算内において収支の均衡を保持しているのであるが、一般会計については遺憾ながら上述通り再度赤字を出すの余儀なきに到つた。

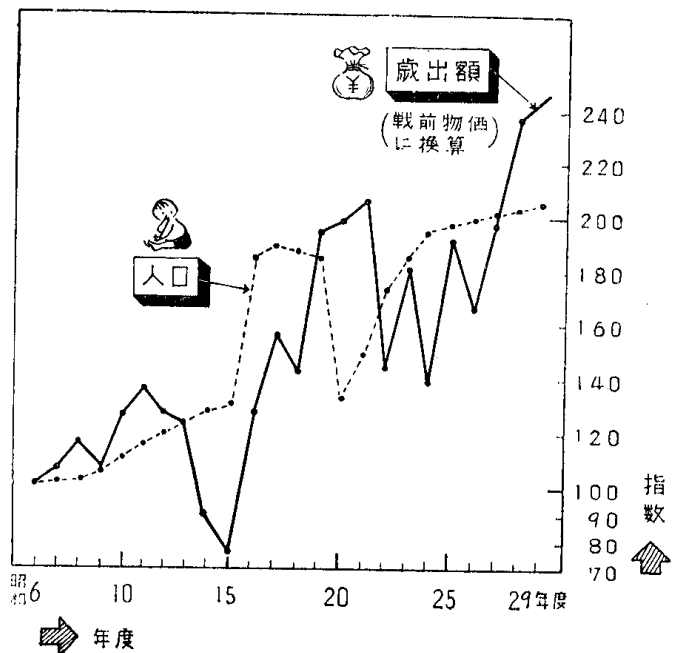
29年度最終予算額12億7千600万円に対して収入、支出の状況は次のようになっている。

収入済額	支出済額	差引収入不足額
1,136百万円	1,190百万円	54百万円

なお、上記の収入不足額、即ち赤字額は30年度の歳入を繰上充用して決算しているのである。

しかし、29年度に事業執行を予定して、諸種の事情により30年度に繰越されるものが697万円、国の指示に基づいて支払を繰延べた生活保護費が64万円あるので、実質赤字額は約62百万円となる。

第1図 一般会計  
歳出額（戦前物価換算）並に人口増加指数



# 1 一般会計

戦前物価換算

第1表

累年歳出決算額

(市総務部財政課)

区分	一般会計 歳出額	歳出決算額 指数 (昭9~11 平均=100)	物価指数 (日銀調) (東京卸売 (昭9~11平均=100))	物価指数で換算 した歳出額		人口	
				金額	指数	人数	指数
昭和6年度	千円 1,069	59	75	千円 1,430	100	人 96,854	100
7	1,251	70	83	1,507	105	97,510	101
8	1,578	89	95	1,660	116	98,072	101
9	1,491	85	97	1,537	107	102,163	105
10	1,790	102	99	1,808	126	106,631	110
11	2,008	113	104	1,946	136	111,309	115
12	2,286	129	126	1,818	127	115,139	119
13	2,312	132	133	1,742	122	119,348	123
14	1,873	106	147	1,276	89	123,863	128
15	1,780	101	164	1,078	75	125,841	130
16	3,228	183	176	1,837	128	179,338	185
17	4,270	242	191	3,240	157	183,110	189
18	4,160	236	205	2,035	142	180,904	186
19	6,429	364	232	2,776	194	179,574	185
20	9,960	565	350	2,852	199	127,677	132
21	47,311	2,680	1,627	2,941	206	144,177	149
22	99,365	5,645	4,815	2,058	144	166,500	172
23	332,127	13,167	12,793	2,592	181	179,687	185
24	505,825	28,691	20,876	1,849	129	187,839	194
25	674,323	38,249	24,681	2,732	191	191,808	198
26	813,678	46,153	34,253	2,375	166	194,459	200
27	990,241	56,168	34,922	2,829	198	196,369	202
28	1,189,771	67,485	35,398	3,405	238	198,141	204
29	1,190,498	67,527	36,525	3,259	242	200,026 (12月末)	206

第2表

一般会計及び特別会計

累年別決算額

(市総務部財政課)

区分	一般会計			特別会計		東京卸売物価指数 (日本銀行調)	
	歳入	歳出	歳出 指数	歳入	歳出	昭和9~11 平均=100	昭和20年 =100に換算
昭和20	千円 14,724	千円 9,960	100	千円 366	千円 258	(年平均) 350	100
21	54,043	47,311	475	560	446	1,615	461
22	115,242	99,365	998	1,630	1,583	4,815	1,376
23	388,572	232,128	2,331	5,393	4,570	12,792	3,655
24	538,858	505,771	5,078	153,407	131,005	20,876	5,967
25	664,806	674,275	6,770	194,376	165,854	24,680	7,051
26	852,576	813,610	8,169	383,850	367,298	34,253	9,787
27	1,038,112	990,203	9,942	341,297	311,678	34,935	9,980
28	1,159,805	1,189,771	11,945	365,472	338,445	35,398	10,114
29	1,136,373	1,190,498	11,953	481,456	471,394	36,525	10,436

註 特別会計には水道事業も含む

第 3 表

一般会計・特別会計相互間  
累年別繰出・繰入額調

(市総務部財政課)

区 分	昭和20年	21	22	23	24	25	26	27	28	29
一般会計より特別会計へ繰出額	千円 85	千円 203	千円 1,023	千円 2,733	千円 26,731	千円 9,672	千円 14,656	千円 13,811	千円 11,830	千円 13,535
一般会計へ特別会計より繰入額	0	0	0	0	7,900	10,500	13,004	6,700	875	3,590
差引繰出超過	85	203	1,023	2,733	18,831	(繰入超過) 828	1,652	7,111	10,955	9,945

註 繰出額は、国民健康保険会計その他への繰出 繰入額は、競輪、競馬からの繰入

第 4 表

一般会計 歳入累年別決算額

(市総務部財政課)

区 分	昭和25年度		26		27		28		29	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
市 税	千円 407,029	60.4	千円 609,081	71.4	千円 721,059	69.5	千円 653,665	56.4	千円 683,968	60.2
公営企業及び財産収入	13,047	2.0	17,202	2.0	12,463	1.1	10,262	0.9	16,257	1.4
使用料及び手数料	7,171	1.1	9,938	1.2	15,152	1.5	16,825	1.4	23,775	2.1
国庫支出金	89,927	13.5	132,631	15.5	151,759	14.6	223,992	19.3	275,084	24.2
県支出金	12,112	1.8	14,443		11,372	1.1	9,412	0.8	23,464	2.1
寄附金	0		0	1.7	5	—	0		0	
繰入金	0		521	0.1	0		0		15,000	1.3
繰越金	30,033	4.5	82	—	38,893	3.8	47,871	4.1	0	
雑収入	35,344	5.3	21,588	2.5	30,862	3.0	77,498	6.7	30,369	2.7
市債	53,626	8.1	45,090	5.3	46,900	4.5	107,730	9.3	66,250	5.8
地方財政 平衡交付金	16,517	2.5	2,000	0.2	9,642	0.9	12,550	1.1	2,166	0.2
計	664,806	100	852,576	100	1,038,112	100	1,159,805	100	1,136,373	100
翌年度繰上充用金	9,600		0		0		29,966		54,125	
合計	674,406		852,576		1,038,112		1,189,771		1,190,498	
(実質赤字)							△ 48,775		△ 61,736	

第 5 表

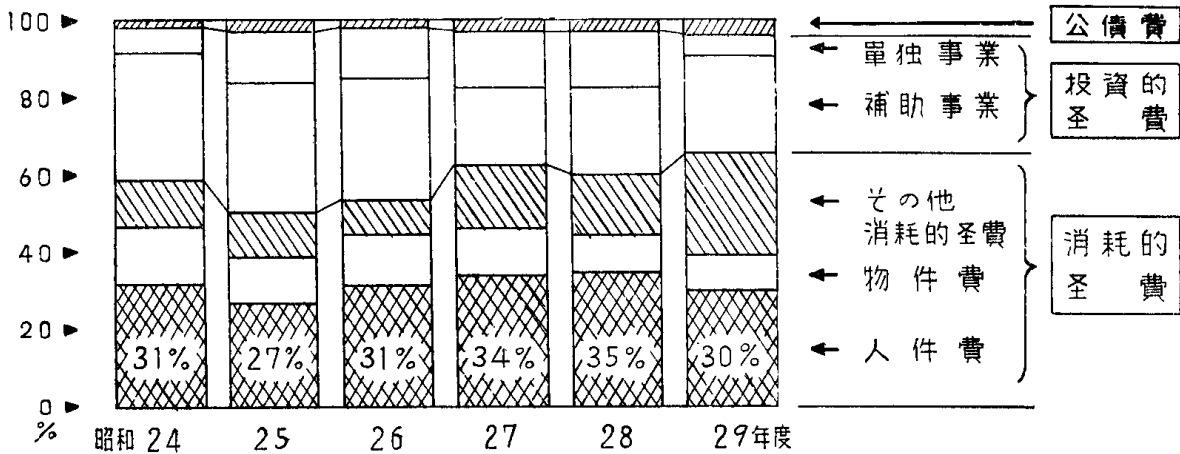
一般会計 累年別決算額

(市総務部財政課)

区 分	昭和25年度		26		27		28		29	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
議 会 費	千円 10,314	1.5	千円 17,792	2.2	千円 21,680	2.2	千円 25,980	2.2	千円 22,023	1.9
市 役 所 費	90,319	13.4	125,170	15.4	146,956	14.8	164,181	13.8	215,245	18.1
警 察 消 防 費	90,339	13.4	113,753	14.0	146,632	14.8	170,044	14.3	83,288	7.0
土 木 費	30,991	4.6	37,702	4.6	64,656	6.5	72,565	6.1	57,687	4.9
教 育 設 施 費	182,318	27.0	152,966	18.8	172,124	17.4	236,341	19.9	182,205	15.3
社 会 及 び 勞 働 施 設 費	52,169	7.7	78,462	9.6	103,423	10.5	163,978	13.8	201,264	16.9
保 健 衛 生 費	46,375	6.9	59,015	7.3	78,140	7.9	90,995	7.6	69,207	5.8
産 業 振 興 費	33,405	5.0	41,459	5.1	44,528	4.5	26,206	2.2	40,115	3.4
地 方 復 興 費	6,303	0.9	0		0	0	0		0	
失 業 対 策 費	38,585	5.7	56,289	6.9	59,681	6.0	52,617	4.4	35,352	3.0
財 産 調 査 費	31,635	4.7	52,066	6.5	63,690	6.4	87,824	7.4	143,392	12.0
統 計 費	2,680	0.4	3,583	0.4	3,841	0.4	2,892	0.2	6,377	0.5
選 挙 費	1,370	0.2	375	—	632	0.1	592	—	621	—
公 債 費	3,163	0.5	3,861	0.5	5,182	0.5	5,355	0.5	6,266	0.5
諸 支 出 費	20,634	3.1	17,439	2.1	24,465	2.5	30,689	2.6	44,030	0.7
計	33,675	5.0	53,678	6.6	54,574	5.5	59,463	5.0	83,426	7.0
					990,203		1,189,722		1,190,498	

註 警察署は29年7月1日より国家警察となる

第2図 一般会計歳出決算額 経費性質別比率



第6表 経費性質別

一般会計歳出累年決算額

(市総務部財政課)

区分	昭和24年度		25		26		27		28		29	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
①消耗的経費	296	59	335	50	427	53	617	62	717	60	777	65
内訳												
人件費	155	31	185	27	251	31	340	34	421	35	355	30
物件費	81	16	83	12	109	14	122	12	104	9	112	9
維持修繕費	28	6	30	4	47	4	26	5	20	2	20	2
その他	31	6	38	6	37	5	107	11	168	14	290	24
②投資的経費	199	39	318	47	359	45	349	35	441	37	369	31
内訳												
補助事業	171	34	232	35	259	32	216	22	267	22	311	26
単独事業	28	6	86	13	100	13	133	13	174	15	58	5
③公債費	11	2	21	3	17	2	24	3	31	3	44	4
計	506	100	674	100	804	100	990	100	1,190	100	1,190	100

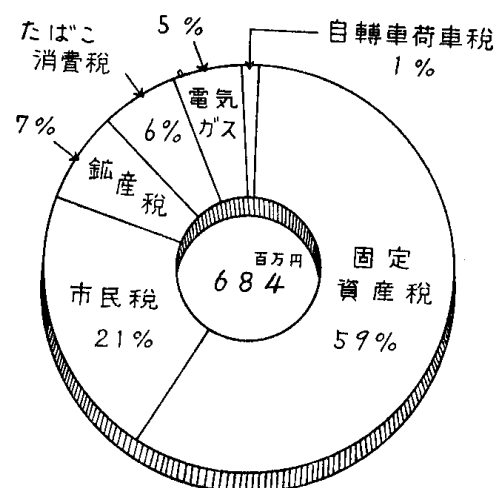
第7表 一般会計

累年別黒字又は赤字額

(市総務部財政課)

区分	歳入	歳出	差引 黒字又は 赤字額	事業繰越 及び 支払繰延	実質黒字 額又は 赤字額
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
昭和24年度	536	506	30	9	21
25	665	674	▲10	6	▲16
26	853	814	39	13	25
27	1,038	990	48	23	25
28	1,160	1,190	▲30	20	▲49
29	1,136	1,190	▲54	8	▲62

第3図 (29年度) 市税収入決算額





## 2 特別会計

第 10 表

昭和29年度 市税徴収成績調

昭和 30 年 6 月 末 現 在

(市総務部 税務課)

区 分	予算額	調定額	収入落額	収 入 歩 合	不 納 欠 損 額	滞 納 繰 越 額	予算対調定の増減		予算対収入増減				
							金 額	%	金 額	%			
総 計	656,164	764,100	683,968	89.5	10,749	69,383	107,936	116.4	27,804	105.2			
1. 普通税合計	655,654	748,783	683,163	91.2	2,151	63,469	93,130	114.2	27,509	104.2			
内 訳	① 市 民 税	現 年 度	89,050	105,540	99,537	94.3	0	6,003	16,490	118.5	10,487	111.8	
		個 人 法 人	39,810	41,698	41,039	98.4	0	659	1,888	104.7	1,229	103.1	
		小 計	128,860	147,238	140,577	95.5	0	6,662	18,378	114.3	11,717	109.1	
		過 年 度	0	12	8	63.1	0	4	12	—	8	—	
		繰 越	4,850	32,477	5,642	17.4	2,151	24,683	27,627	669.6	792	116.3	
	計	133,710	179,727	146,226	81.4	2,151	31,350	46,017	134.4	12,516	109.4		
	② 固 定 資 産 税	土地・家屋	現年度	226,500	246,628	233,265	94.6	0	13,364	20,128	108.9	6,765	103.0
		繰越	400	20,285	7,806	38.5	0	12,479	16,285	507.1	3,806	195.1	
		過年度	0	25	14	57.2	0	11	25	—	14	—	
		小計	230,500	266,938	241,085	90.3	0	25,853	36,438	115.8	10,585	104.6	
	償却資産	現年度	154,500	161,005	160,001	99.4	0	1,004	6,505	—	7,322	—	
	繰越	0	3,813	1,615	42.4	—	2,198	3,813	—	1,615	—		
小計	154,500	164,818	161,616	98.1	—	3,206	10,318	106.7	7,116	104.6			
計	385,000	431,756	402,701	93.3	—	29,055	46,756	112.1	17,701	104.6			
③ 自転車荷車税	7,078	7,967	7,108	89.2	0	859	888	112.6	30	100.4			
たばこ消費税	40,000	39,728	39,728	100.0	0	0	△ 272	99.3	△ 272	99.3			
④ 電 気 ガス 税	現年度	34,885	36,768	35,666	97.0	0	1,102	3,820	—	1,614	104.6		
	繰越	0	1,937	833	43.0	0	1,104	0	—	0	—		
	小計	34,885	38,705	36,499	94.3	0	2,206	3,820	111.0	1,614	104.6		
鉱産税	54,981	50,901	50,901	100.0	0	0	△ 4,080	92.6	△ 4,080	92.6			
2. 旧法による税合計	510	15,316	805	5.3	8,597	5,914	14,806	—	295	157.8			
内 訳	過 年 度 分	県税附加税	10	1	1	100.0	0	0	9	—	9	7.7	
		独立税	0	2	1	87.5	0	—	2	—	1	—	
		小計	10	2	2	91.6	0	—	7	—	△ 8	21.7	
	滞 繰 越 納 分	県税附加税	450	12,062	516	4.3	7,735	3,811	11,612	—	66	114.7	
独立税	50	3,252	286	8.8	861	2,103	3,202	—	236	57.2			
小計	500	15,314	803	5.2	8,597	5,914	14,814	—	303	160.5			

第 11 表

特別会計 総合累年決算額

(市総務部 財政課)

区 分	昭和25年度		26		27		28		29	
	歳 入	歳 出	歳 入	歳 出	歳 入	歳 出	歳 入	歳 出	歳 入	歳 出
国民健康保険	21	20	31	29	37	37	51	49	61	59
市立病院	96	15	29	24	26	23	27	28	76	74
公益質屋	16	3.8	8.2	7.5	8.5	7.6	8.7	7.4	8.8	7.4
競輪	14	14	147	145	74	73	60	60	150	150
競馬	62	62	91	90	86	85	73	73	55	55
水道	66	72	78	71	105	82	135	121	131	127
計	215	185	383	367	337	308	365	338	481	471

註 単位未満を四捨五入したため計とは一致しない。

第12表 特別会計 決算 額

(市総務部財政課)

区 分	歳 入			歳 出		
	区 分	28年度	29	区 分	28年度	29
国民健康保険	国民健康保険料	千円 22,642	千円 27,532	事務費	千円 10,064	千円 11,500
	使用料及び手数料	118	368	保険給付費	37,179	42,319
	国庫支出金	16,796	16,019	保険施設費	850	601
	県支出金	897	629	諸支出金	842	4,497
	繰入金	7,500	12,620			
	繰越金	504	2,380			
	雑収入	84	1,131			
	市債	2,774	0			
計	51,315	60,679	計	48,935	58,917	
市立病院	使用料	21,515	26,198	病院費	27,983	72,058
	繰入金	3,100	3,522	公債費	325	1,607
	繰越金	2,823	9,159			
	雑収入	29	49			
	市債	10,000	37,000			
計	37,467	75,928	計	28,308	73,665	
公益質屋	貸付金収入	5,529	6,552	公益質屋費	6,281	6,258
	繰入金	1,230	915	公債費	1,152	1,151
	繰越金	1,911	1,271			
	雑収入	34	32			
	計	8,704	8,770	計	7,433	7,409
競輪	入場料	75	426	国庫納付金	0	1,256
	車券発売金	59,245	149,147	交付金	1,777	4,475
	勝者投票事故収入	59	156	競輪場費	825	3,047
	雑収入	17	36	競輪開催費	9,910	22,018
	繰越金	497	181	払戻金	44,498	111,134
				勝者投票事故補足金	3	8
				繰出金	1,075	2,590
				諸支出金	1,625	5,180
計	59,893	149,946	計	59,713	149,708	
競馬	競馬事業収入	72,709	55,146	競馬事業費	73,025	54,044
	繰越金	343	73	諸支出金	171	1,035
	雑収入	17	17			
	繰入金	200	0			
計	73,269	55,236	計	73,196	55,079	
水道	水道事業収益	87,626	107,632	水道事業費	79,357	91,895
	資本収入	47,198	23,266	建設改良費	39,045	28,751
				企業債償還費	2,459	5,969
計	134,824	130,898	計	120,860	126,615	

### 3 市 債

第 13 表

市債 各年度末現在高

(市総務部財政課)

区 分	27 年度	28	29 年 度			
			発行高	償還額	残 高	%
総 計	千円 351,135	千円 472,884	千円 105,300	千円 24,957	千円 553,227	100
① 一般会計分	245,031	340,394	66,250	17,923	388,721	70
教育費	102,812	120,789	11,900	6,232	126,457	23
警察消防費	967	896	0	73	823	0.2
保健衛生費	376	5,337	2,000	41	7,296	1
普通土木費	4,514	12,303	9,500	226	21,577	4
社会及び労働施設費	61,338	78,988	36,500	5,123	110,365	20
災害復旧費	12,363	39,290	5,350	387	44,253	8
戦災復旧費	54,227	59,390	1,000	5,218	55,172	10
その他	8,434	23,401	0	623	22,778	4
② 特別会計分	106,104	132,490	39,050	7,034	164,506	30
水道事業費	97,288	111,899	2,050	5,969	107,980	20
公益質屋費	2,596	1,597	0	1,065	532	0.1
市立病院費	5,000	15,000	37,000	0	52,000	9
国民健康保険費	1,220	3,994	0	0	3,994	1

### 4 財 産

第14表 市有財産

(各年度12月現在)

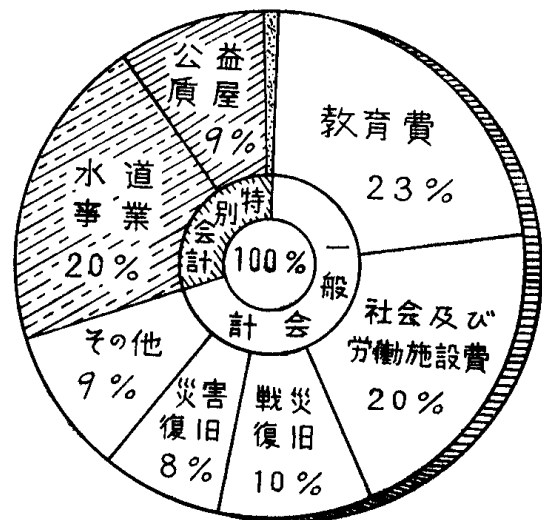
(市総務部財政課)

区 分	有価証券	基金	貸付金	土地	建 物 (建坪)
27年度	千円 159	千円 15,589	千円 6,000	反 1,789	坪 42,223
28	100	15,928	6,000	1,775	44,161
29	250	1,689		1,881	50,216

目的別市債

昭和30.3.30現在

(553百万円)





第 5 編

産 業

---

- |   |   |     |
|---|---|-----|
| 1 | 鉱 | 業   |
| 2 | 工 | 業   |
| 3 | 電 | 力   |
| 4 | ガ | ス   |
| 5 | 水 | 道   |
| 6 | 農 | 業   |
| 7 | 畜 | 産   |
| 8 | 水 | 産 業 |
| 9 | 干 | 拓   |



## 第 5 編 産 業

### 1 鉱 業

#### 鉱 業 の 概 況

本市における鉱業は、遠く480年前より始まり、稻荷山、平野山、生山の開採より始まり、明治6年官有となり、同年大浦斜坑、同15年七浦堅坑、同20年宮浦堅坑の開鑿を開始し、産出額は年を逐つて増加した。

明治22年1月三井家がこれを譲り受け、勝立坑、万田坑(荒尾市域内)四山堅坑を開き、鋭意設備の改善と事業拡張とに努めた結果、長足の進歩を遂げ、更に昭和12年9月三川坑の開鑿を開始し、同15年10月から出炭を見るに至つた。三川坑は特に近代諸設備の充実や規模の雄大を以て聞え、機械化のモデルマインとなつた。

昭和24年5月天皇陛下が三川鉱坑内までお下りになり、切羽まで御視察になつたことは周知の通りである。

かくの如き鉱業の発達は、石炭産業を母体として、その上に化学工業のコンビネートにまで発展をかもした。

現在稼行中のものは、三川坑、四ツ山坑、宮の浦坑であり、有明海底を採掘している。

#### 炭 質 及 び 用 途

炭質は、特異な淡赭色を帯び、強粘結性で、長火焰、発熱量高くガス分に富み、夾雑物が少ないので、鍛冶用として優秀なるのみならず、汽罐用やガス並にコークス製造用に適する。輸出移出の外、船舶燃料として愛用されている。

(三池鉱業所)

区 分	水 分%	灰 分%	揮 発 分%	固 定 炭 素%	硫 黄%	性 状	発 熱 量 カ ロ リ ー
本 層 炭	0.61	7.68	42.45	49.26	2.50	強 粘 結	8,008
上 層 炭	0.85	12.06	42.85	44.24	2.50	強 粘 結	7,522
盤 下 層 炭	1.22	27.36	36.06	35.36	3.00	中 粘 結	6,301

第 1 表

三池鉱業所月別従業員

(三池鉱業所)

区 分	坑 内	坑 外	総 数			職 員
			総 数	男	女	
昭和29年4月	9,474	4,214	13,688	12,971	717	1,491
5	9,462	4,211	13,673	12,958	715	1,486
6	9,480	4,172	13,652	12,939	713	1,501
7	9,419	4,218	13,637	12,926	711	1,495
8	9,376	4,244	13,620	12,911	709	1,492
9	9,374	4,233	13,607	12,899	708	1,492
10	9,368	4,220	13,588	12,883	705	1,488
11	9,362	4,217	13,579	12,875	704	1,486
12	9,368	4,199	13,567	12,863	704	1,487
昭和30年1月	9,375	4,186	13,561	12,859	702	1,484
2	9,364	4,183	13,547	12,846	701	1,486
3	9,446	4,199	13,645	12,945	700	1,484

第 2 表

昭和24年～29年度出炭高

(三池鉱業所)

区 分	操業日数	出 炭 高	1 月 当	従 業 員		
				総 数	男	女
昭和24年	294	2,105,600 吨	175,467 吨	24,716	22,858	1,858
25	307	2,118,600	176,550	21,874	20,373	1,501
26	308	2,098,500	174,875	17,471	16,592	879
27	309	2,001,100	166,758	17,198	16,324	874
28	307	1,644,400	137,033	13,681	12,989	692
29	306	2,059,800	171,600	13,645	12,945	700

第3表 三池炭鉱月別出炭量 (三池鉱業所)

区分	宮浦	四山	三川	総数
総数	615,600 屯	465,200 屯	979,000 屯	2,059,800 屯
昭和29年4月	56,200	36,300	94,000	186,500
5	54,300	35,200	90,200	179,700
6	55,700	42,700	93,100	191,500
7	51,500	40,100	89,500	181,100
8	43,000	29,500	65,700	138,200
9	52,600	35,900	78,100	166,600
10	50,800	37,100	75,600	163,500
11	48,800	41,500	80,600	170,900
12	49,800	42,900	74,200	166,900
昭和30年1月	49,000	39,900	72,800	161,700
2	49,800	40,700	80,700	171,200
3	54,100	43,400	84,500	182,000

第4表 昭和27年度～28年度炭鉱事故による人的被害状況 (三池鉱業所)

区分	27年度				28年度				29年度			
	件数	被害			件数	被害			件数	被害		
		死亡	重傷	軽傷		死亡	重傷	軽傷		死亡	重傷	軽傷
総数	2,120	10	1,456	680	1,053	6	767	305	1,846	6	1,097	743
落盤	585	4	423	158	262	4	209	62	405	2	265	138
鉱車破	191	6	147	38	118	—	96	29	133	—	94	39
電機	3	—	3	—	—	—	—	—	0	—	—	—
機械	3	—	3	—	5	1	2	2	4	—	2	2
その他	71	—	50	21	48	—	41	7	39	—	29	10
その他	1,293	—	830	463	620	1	419	205	1,265	4	707	554

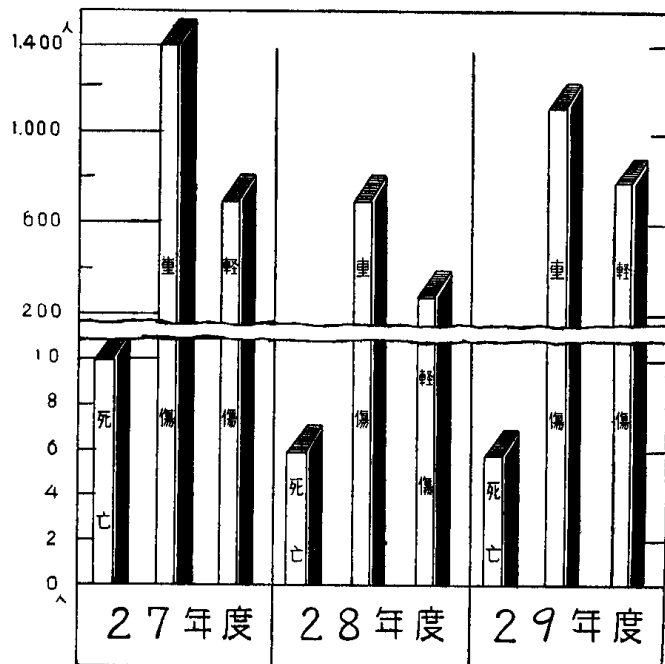
## 2 工業

### 工業の概況

昭和29年12月末現在で実施された工業調査によつて、本市の産業分類別工場数をみると、食料品工業が181工場で最も多く、第2位が製材木製品工業の30工場、第3位は印刷製本工業の24工場、以下家具建具工業及び化学工業の夫々17工場、紡織工業12、ガラス土石の11工場、金属品工業11、機械工業10、衣服身廻品工業7工場等となつている。

ついで出荷額についてみれば、本市の主要工場(旧三井関係)を含む化学工業が圧倒的で、16.537百万円で全体の77%を占めている。第2位は機械工業の1,008百万円で4.7%を示し、第3位は食料品工業の776百万円で3.6%、以下金属品工業が190百万円の0.9%で外あまり目立つものではなく、以上の出荷額が鉱工業都市としての本市の性格を充分に裏付していることが分るであろう。

昭和27年度から29年度までの炭鉱の人的被害 (三池鉱業所分)



第 5 表 工業中分類別工場及び年間出荷額累年比較

各年12月末現在

(市総務部庶務課)

区 分	昭 和 27 年			2 8			29		
	工場数	出 荷 額	比 率	工場数	出 荷 額	比 率	工場数	出 荷 額	比 率
総 数	333	18,287,674	100.0	330	22,057,897	100.0	338	21,468,696	100.0
食 料 品 工 業	181	494,219	2.7	184	698,919	3.2	181	775,696	3.6
紡 織 "	14	121,475	0.7	11	160,419	0.7	12	26,453	0.1
衣服身廻品 "	8	11,592	0.1	7	28,924	0.1	7	17,780	0.1
製材及び木製品 "	24	92,727	0.5	28	138,497	0.6	30	145,309	0.7
家具及び建具 "	20	39,259	0.2	13	27,748	0.1	17	40,815	0.2
紙及び紙製品製造業	4	47,494	0.3	4	54,919	0.3	6	50,951	0.2
印刷製本業	19	51,280	0.3	19	66,394	0.3	24	61,107	0.3
化学工業	20	13,564,291	74.1	19	16,858,390	76.4	17	16,537,609	77.0
石油及び石炭 "	2	X	X	3	2,608,429	11.8	2	X	—
ガラス及び土石 "	12	33,133	0.2	13	83,359	0.4	11	59,290	0.3
金 属 品 "	9	86,080	0.4	8	40,060	0.2	11	189,790	0.9
機 械 "	10	1,303,361	7.1	11	1,139,743	5.2	10	1,008,280	4.7
電気機械製品 "	1	X	X	—	—	—	1	X	—
輸送用機械器具製造業	4	24,595	0.1	2	X	—	2	X	—
第一次金属製品工業	2	X	X	4	146,359	0.6	4	18,020	0.1
その他工業	2	X	X	3	2,709	0.1	3	X	—
修 理 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 6 表

工業中分類別工場数・従業員数及び出荷額

昭和29年12月末現在

(市総務部庶務課)

区 分	総 数				3 人 以 下 の 工 場					
	工場数	計	男	女	工場数	計	男	女	工場数	計
総 数	338	14,977	13,160	1,817	153	369	255	114	153	134,534
食 料 品 工 業	181	1,054	666	388	105	253	156	97	105	87,298
皮 革 製 品 "	1	X	X	X	X	X	X	X	X	X
紡 織 "	12	65	45	20	3	8	8	0	3	4,396
衣服身廻品 "	7	60	12	48	—	—	—	—	—	—
木材木製品 "	30	209	178	31	10	22	19	3	10	13,631
家具建具 "	17	117	109	8	7	20	20	0	7	7,600
紙及び類似品 "	6	88	28	60	2	X	X	X	2	X
印刷出版類似 "	24	270	178	92	8	15	11	4	8	5,165
化 学 "	17	9,734	8,940	794	6	15	9	6	6	5,942
石油及び石炭 "	2	X	X	X	—	—	—	—	—	—
ゴ ム 製 品 "	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ガラス及び土石製品 "	11	179	118	61	X	X	X	X	X	X
第一次金属 "	4	60	52	8	—	—	—	—	—	—
金 属 "	11	246	231	15	4	12	12	0	4	3,975
機 械 "	10	1,793	1,727	66	X	X	X	X	X	X
電気機械製品 "	1	X	X	X	—	—	—	X	—	—
輸送用設備 "	2	X	X	X	2	X	X	X	2	X
特殊機械 "	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
そ の 他 "	2	X	X	X	2	X	X	X	2	X

第6表 (続き)

(市総務部庶務課)

区 分	4人～29人の工場					30人～99人の工場					100人以上の工場				
	工場数	計	男	女	出荷額	工場数	計	男	女	出荷額	工場数	計	男	女	出荷額
	千円					千円					千円				
総 数	159	1,658	1,152	506	984,963	17	847	508	339	669,300	9	12,093	11,236	857	19,677,806
食 料 品 工 業	72	657	433	224	573,353	4	144	77	67	115,045	—	—	—	—	—
皮 革 製 品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
紡 織	8	57	37	20	22,058	1	x	x	x	x	—	—	—	—	—
衣 服 身 廻 品	6	60	12	48	17,780	1	x	x	x	x	—	—	—	—	—
木 材 木 製 品	19	187	159	28	131,678	1	x	x	x	x	—	—	—	—	—
家 具 建 具	10	97	89	8	33,215	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
紙 及 び 類 似 品	3	37	16	21	8,018	1	x	x	x	x	—	—	—	—	—
印 刷 出 版 類 似	13	153	96	57	39,979	3	102	71	31	15,963	—	—	—	—	—
化 学	3	42	20	22	30,465	1	x	x	x	x	7	9,636	8,902	734	16,422,595
石 油 及 び 石 炭	—	—	—	—	—	1	x	x	x	x	1	x	x	x	x
ゴ ム 製 品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ガ ラ ス 及 び 土 石	9	147	97	50	50,550	1	x	x	x	x	—	—	—	—	—
第 一 次 金 属	4	60	52	8	18,020	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
金 属	5	69	63	6	28,401	2	x	x	x	x	—	—	—	—	—
機 械	6	92	78	14	31,446	1	x	x	x	x	1	x	x	x	x
電 気 機 械 製 品	1	x	x	x	x	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
輸 送 用 機 械 器 具	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特 殊 機 械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第7表

主要工場生産数量及び金額(歴年)

(市総務部庶務課)

区 分	23年	24	25	26	27	28	29	会 社 工 場 名
蒸溜亜鉛 (水 平)	4,265吨 226,472千円	7,317 519,507	10,070 1,127,840	11,988 2,973,024	14,147 ...	16,992 ...	16,982 ...	三井金属鉱業株式会社 三池製煉所
電 気 亜 鉛	1,988〃 111,727〃	4,024 363,752	6,571 768,807	6,803 1,700,750	7,239 ...	7,317 ...	7,049 ...	
亜 鉛 板	2,381〃 209,409〃	3,319 315,305	3,312 414,000	3,793 1,137,900	3,763 ...	4,390 ...	3,258 ...	
硫 酸	8,536〃 17,976〃	15,429 90,445	22,637 149,404	29,063 279,005	32,388 ...	28,694 ...	30,858 ...	
耐 火 煉 瓦	1,918〃 33,112〃	3,113 51,920	3,404 57,267	4,246 ...	4,210 ...	3,994 ...	3,620 ...	
電 気 カドミウム	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	29 ...	30 ...	
蒸 溜 亜 鉛 (堅 型)	x ...	x ...	x ...	x ...	x ...	x ...	5,426 ...	
電 気 銅	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	83 ...	
亜 鉛 末	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	2,866 ...	2,735 ...	
亜 鉛 華	... ...	... ...	... ...	... ...	... ...	1,265 ...	1,007 ...	



### 3 電 力

#### 電 力 の 概 況

本市における電力の生産は、港第1、港第2発電所において行われる。港第1発電所は昭和6年9月三池炭鉱の自家用として7,000kwタービン2台と、36屯ボイラー2罐の小規模の設備で創設せられた。その目的は、三池炭鉱の粗炭を使用し、湧水の多い同鉱に、安定確実な電力を豊富に供給する為であつた。その後大牟田地区各産業の急速なる発展に伴い、電力の需要が急カーブに上昇するので之れに対応し4期に亘り増設が重ねられ、現在設備容量147,000kw迄増大した。今日では戦前に優るとも劣らない出力を確保し、九州における主力発電所として、産業界に華々しい役割を演じている。港第2発電所は港第1発電所の老朽による出力低下と生産の拡充に伴う需要増加に対処するため、出力54,000kwタービン1基、汽罐2罐をもつ発電所で、昭和16年1月から着工したが、戦時中工事中止となり、昭和22年7月、汽機及び一号汽罐が完成し、8月より認可出力20,000kwにて営業運転をなし、昭和23年10月2号汽罐が完成し、54,000kwの出力を有するようになった。又熱効率向上のため汽罐設備の入替工事事も昭和29年2月に第1期工事が竣工した。第8表第9表をみると、年を追つて生産は増大し出力を確保しつつあることが示されている。

第 8 表 昭和24年度～29年度電力生産量 (九州電力株式会社)

区 分	港 第 二	港 第 一	総 計
昭和24年	202,989 千KWH	282,198千KWH	485,180千KWH
25	260,301	395,048	655,349
26	423,652	429,685	853,337
27	537,969	425,941	963,910
28	548,523	522,862	1,071,386
29	430,237	296,843	727,081

第 9 表 昭和29年度月別電力生産量 (九州電力株式会社)

区 分	操業 日数	港 第 二	操業 日数	港 第 一	総 数
		電 力 量 千KWH		電 力 量 千KWH	
昭和29年 4月	30	52,077千KWH	30	35,870千KWH	87,947千KWH
5	31	28,811	29	6,435	35,247
6	30	26,757	30	15,219	41,977
7	31	25,399	31	24,081	49,480
8	31	23,484	31	22,989	46,473
9	29	18,890	30	26,798	45,689
10	30	26,081	31	26,606	52,688
11	30	37,184	30	34,556	71,740
12	31	54,623	31	41,626	96,249
昭和30年 1月	31	57,776	30	43,282	101,059
2	28	50,876	29	18,764	69,641
3	30	28,274	6	613	28,887



## 4 ガ ス

### ガスの概況

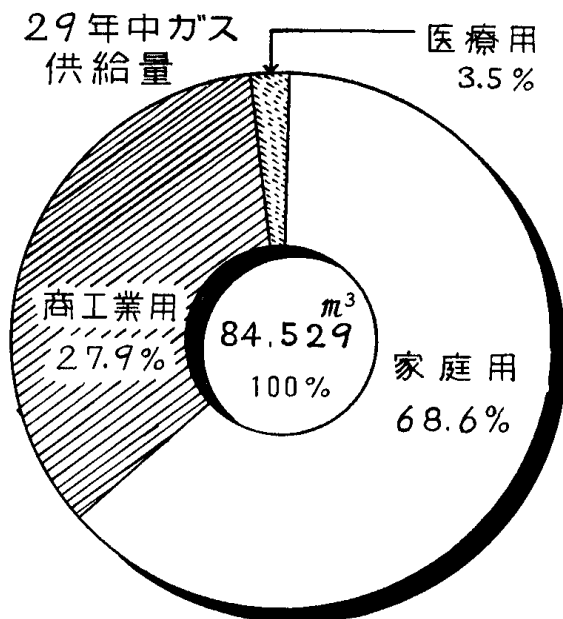
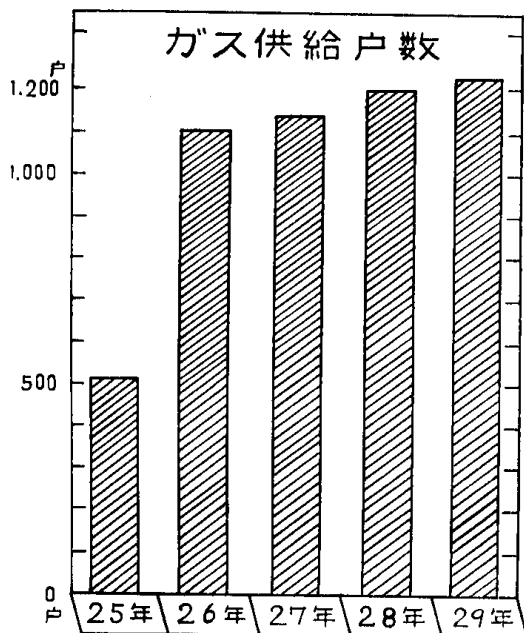
本市におけるガスは、三池染料工業所よりの買受ガスを市内一円に供給し、常時2,700戸のガス需要家を擁していたが、昭和15年戦時状態に入るや軍需工業地なるが為め、再三の空襲且つ強制疎開等により、需要家600戸を撤除し需要減のやむなきに至つた。続いて昭和20年6月7日の2回に亘る大空襲により、全供給区域に甚大な被害を受け、ガス工作物に致命的損害を蒙つたので、戦後これが復興に努力し、空襲被害によるガス工作物の復旧その他苦心の結果、漸く市内直送管のガス送入に成功し、なお染料工業所の復興に伴いガス送出の円滑に並行して漸次市内各方面の供給に成功した。従来需要家戸数の増加に重点を置き、昭和29年末で1,316戸を算するに至つたが、需要家戸数3,000戸を近き将来の目標として市内各方面の設備拡充に努め、本年度内には1,640戸の需要家数に到達すべく企画遂行中である。尙又東洋高圧工業株式会社分譲ガスの送入計画完了と相俟つて、多年の宿案であつた公益事業令に基く熱量によるガス供給を開始し、ガス送出の増大を計り、益々発展の途上にある。

第10表 ガス供給戸数及び孔口数  
(大牟田瓦斯株式会社)

区 分	総数	家庭用	商工業用	孔口数
昭和24年末	503	483	19	905
25	539	471	63	970
26	988	871	107	1,280
27	1,168	1,006	151	2,234
28	1,279	1,148	120	...
昭和29年1月	1,245	1,117	118	2,614
2	1,259	1,126	120	2,643
3	1,256	1,127	115	2,638
4	1,264	1,124	126	2,654
5	1,249	1,108	127	2,622
6	1,275	1,119	138	2,678
7	1,275	1,124	133	2,675
8	1,283	1,131	133	2,694
9	1,291	1,144	129	2,712
10	1,296	1,152	126	2,722
11	1,305	1,171	117	2,740
12	1,316	1,179	120	2,750

第11表 ガス供給量  
(大牟田瓦斯株式会社)

区 分	総数	家庭用	商工業用	医療用
昭和25年末	27,383	18,980	8,132	271
26	56,829	38,517	17,656	656
27	21,483	16,934	4,209	340
28	76,344	51,007	24,809	528
昭和29年1月	83,096	57,562	24,893	641
2	82,561	58,045	23,636	880
3	70,511	49,646	20,083	782
4	82,435	57,095	23,245	2,095
5	73,200	49,070	22,046	2,084
6	74,140	47,177	24,570	2,393
7	67,554	43,378	21,769	2,407
8	71,038	47,366	21,490	2,182
9	69,472	47,876	19,511	2,085
10	76,660	51,463	22,830	2,367
11	79,802	56,137	21,021	2,644
12	84,529	58,019	23,538	2,972



第 12 表

ガ ス

(大牟田瓦斯株式会社)

区 分	ガ ス 管 延 長			口 孔 数		需用戸数
	本 枝 管	供 給 管	屋 内 管	燈 用	熱 用	
昭和24年末	m 11,792	m 12,800	m <sup>3</sup> 4,000	ヶ —	ヶ 905	戸 503
25	11,968	14,080	4,320	—	970	539
26	13,422	22,289	8,096	—	1,820	1,012
27	14,437	25,779	8,636	8	2,226	1,241
28	24,443	21,600	6,398	10	2,922	1,332
29	27,431	22,822	7,314	—	2,750	1,316

## 5 水 道

### 水 道 の 概 況

本市の市街地は地勢的に低く、窪地を埋立て家屋を建築する状態であつたので、井戸水も極めて汚水で（そのまま飲料に適する井戸6.07%濾過すれば飲料に適するもの4.15%、煮沸すれば飲料に適するもの6.35%、飲料に適しないもの83.41%）市民は飲料水を求めることに非常な困難を来していた。明治38年以来上水道施設が提唱されてより、種々調査研究の結果大正8年水源を熊本県玉名郡清里村及び長洲町に求め、当時大牟田市及び三池郡三川町の一部に給水すべく、深井戸3本の鑿井が着工せられ、大正11年に給水を開始した。その後市勢の発展、人口の増加により創設当時の施設では給水に不安を生ずるに至つたので、源井三池配水池一池の増設配水管の延長を計画し、昭和3年3月着工、同7年7月完成して取水及び配水の機能を増大した。昭和10年水源地施設の一大改修と更に水源井二井を鑿井し従来の各源井毎にポンプ設備を廃し、総合ポンプ場を設くべく工事に着手し、同17年3月竣工をみた。この2回に亘る拡張工事も、支那事変以来の軍需物資の増産に伴う人口の急激な増加のための需用量の増大により水源井の老朽と相俟つて、本市上水道の機能の限界を越え、昭和14年には遂に時間給水のやむなきに至つたので、昭和18年3月応急対策として、第9源井の鑿井に着手したが、工事資材の入手困難と物価の高騰による資金難により中止するのやむなきに至つた。（終戦後昭和22年5月この残工事を施行し同11月竣工）

昭和19年市民の保健衛生の安定及び防火上の万全を期するため、従来の濶極的な拡張計画を変更し、三井三池鉱業所簡易水道熊本県葦地川源水を1日取水量1万立方分米分水する拡張計画を樹て、これが認可申請した処、同年7月工事認可となつたので、直ちに工事に着手したが、終戦後に至り、物価高騰は資材入手困難のために工事の進捗がはばまれる一方、源井は益々老朽し、従来の送水管は銹瘤のため送水量は減退するに至つたため、昭和25年度より従来の送水管には中継ポンプ場を新設し、水源には第10源井が計画され、本格的第4次拡張工事が軌道に乗り、昭和26年7月には葦地川源井の送水及び第10源井の送水を開始し、10年間に亘る時間給水を解消した。その外三井三池鉱業所に於ける簡易水道の施設があつて、事業所隣務工場建物並びに社宅等給水徹底を期している。

第 13 表

水 源

2 9 . 4 . 1

(市水道局工事課)

源 井 名	計画1日湧水量	深 さ	吸 取 管 内 径	竣 工 年 月	備 考
第1源井	3,670立米	144米	12インチ	大正 9.12	
第2 〃	3,670	86	12	〃 10. 2	
第3 〃	3,670	151	12	〃 9. 9	
第4 〃	3,670	142	12	昭和 2. 5	
第5 〃	3,670	157	12	〃 6. 1	
第6 〃	3,670	152	12	〃 6. 1	
第7 〃	3,670	103	15	〃 16. 8	
第8 〃	3,670	152	15インチ12	〃 13. 9	
第9 〃	3,670	109	15	〃 22.	
第10 〃	3,500	150	15 12	〃 26.	

第 14 表 昭和24年～29年給水栓及び戸数類別 (市水道局事務課)

区 分		24 年	25	26	27	28	29
給水栓	計	10,165	11,166	12,045	12,541	13,166	13,370
	専用栓	8,179	9,216	10,115	10,628	11,293	11,496
	共用栓	1,986	1,950	1,930	1,913	1,873	1,874
給水戸数	計	20,435	21,262	21,355	21,791	22,011	22,104
	専用栓使用	9,680	10,575	11,035	11,635	12,169	12,414
	共用栓使用	10,755	10,687	10,320	10,156	9,842	9,690
給水類別	計	20,435	21,262	21,355	21,791	22,011	22,104
	家官営	19,779	20,540	60,229	20,213	20,314	20,297
	衛所	—	—	142	151	125	128
	その他	608	671	750	1,117	1,936	1,467
	業務	43	46	46	46	49	52
	屋敷	—	—	179	202	185	158
	揚場	2	2	2	2	2	2
	船舶	3	3	7	6	—	—
	用	—	—	—	—	—	—
	用	—	—	—	—	—	—

第 15 表 昭和24年～29年給水料金 収入済会計年度による (市水道局事務課)

区 分		24年度	25	26	27	28	29
総計	専用	29,268,177	31,346,499	33,638,325	64,079,603	77,566,869	87,292,294
	共用	17,615,416	19,162,685	21,112,847	40,153,951	51,100,828	59,964,188
	その他	11,053,761	12,183,814	12,525,478	23,925,652	26,466,041	27,328,106

## 6 農 業

### 農 業 の 概 況

本市の四辺は、山岳と海にかこまれた交通条件が悪い畑地が多く、且つ天然水系に恵まれない小盆地に、近々3～40年の間に 稀有の地下炭の開発を中心とする関連産業の集つたことによつて、旧来の都市の持つ経済的発展の条件の下においては到底斯る都市の誕生しがたい土地に忽然として一大鉱工都市の誕生を見たものであり、市街地は他都市と同じく此の狭隘なる農地の中、最も平坦沃野地の中心に形成せられ、現在農村地帯の風格は、僅に比較的山岳地の周辺地区に残存するに過ぎないけれども、人口密度耕地率から云えば多分に農村的性格を現している。これらの中に見出される特異性は農家の中堅たるべき労働力が鉱工業に吸引せられ、収入源を大大資本工業に依存する度合強く、結果的には農地の細分化による農業の零細性をもたらしていることである。

第 16 表 経営規模別専業兼業別農家戸数 (以下本資料は昭和28年8月1日現在線 合計画基礎調査(当市農林課独自の調査)による (市農林課))

区 分	(比率) 農家数	(比率) 専業農家数	兼 業 農 家 数			1950年世界 センサス	1947年臨時 センサス
			計	兼業を主とする農家	農業を従とする農家		
3反未満	(41.4) 1,549	(18.8) 292	1,257	(4.5) 69	(76.7) 1,188	1,986	1,625
3反～5反	(24.7) 922	(30.7) 283	639	(10.2) 94	(59.1) 545	982	907
5反～10反	(28.6) 1,086	(46.5) 497	571	(25.8) 275	(27.7) 296	1,243	1,076
10反～15反	(5.0) 186	(64.0) 119	67	(33.8) 63	(2.2) 4	281	223
15反以上	(0.3) 11	(72.7) 8	3	(27.3) 3	0	26	11
合 計	(100) 3,736	(32.1) 1,199	2,537	(13.5) 504	(54.4) 2,033	4,527	3,842
1950年世界 センサス	4,527	1,073	3,454	1,025	2,429		
1947年臨時 センサス	3,842	1,225	2,617	1,291	1,317		

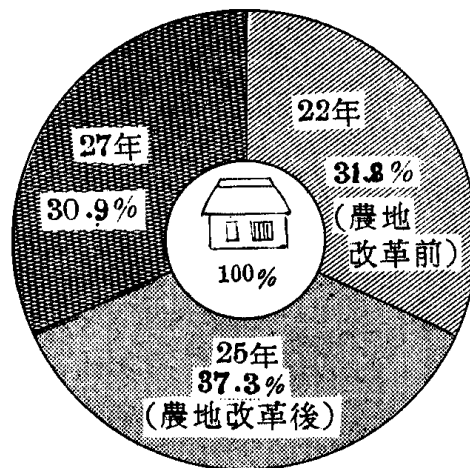
第 17 表

経営規模別地区別農家数

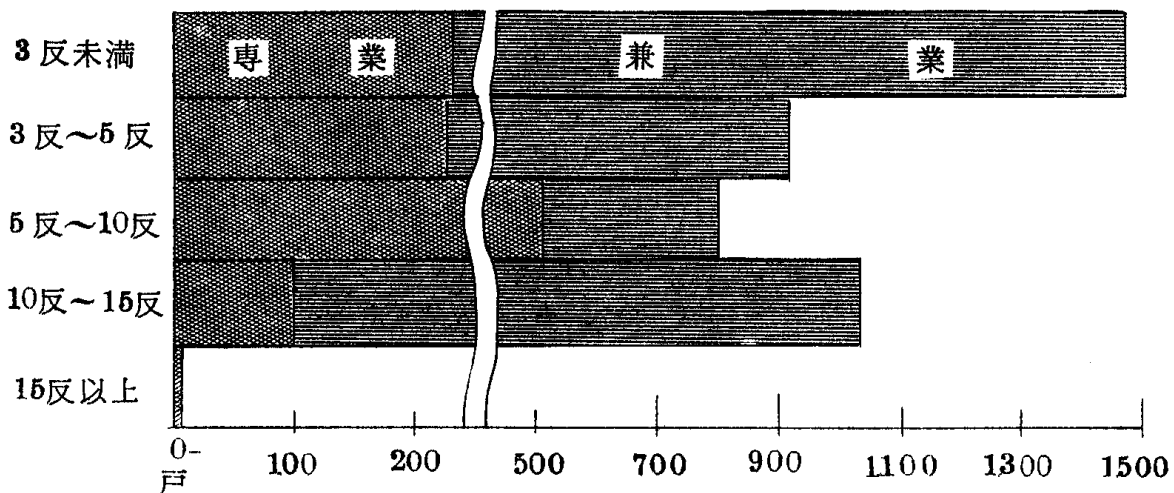
(市經濟部農林課)

区 分	3反未満	3反~5反	5反~1町	1町~1町5反	1町5反以上	計	1950世界 センサス	1947臨時 センサス
銀 水	243 (38.1)	151 (23.7)	206 (32.3)	37 (5.7)	—	637	640	632
手 鎌	314 (47.5)	181 (27.4)	154 (23.3)	11 (1.7)	1 (0.1)	661	725	731
倉 永	133 (28.8)	98 (21.2)	186 (40.2)	42 (9.1)	3 (0.7)	462	514	418
上 内	128 (25.0)	142 (27.7)	195 (38.0)	45 (8.8)	3 (0.5)	513	541	512
三 池	127 (32.9)	117 (30.3)	118 (30.6)	24 (6.2)	—	386	580	361
玉 川	181 (43.3)	94 (22.5)	121 (28.9)	20 (4.8)	2 (0.5)	418	546	415
駛 馬	165 (56.7)	75 (25.8)	47 (16.1)	3 (1.0)	1 (0.4)	291	363	323
大 牟 田	258 (70.1)	64 (17.4)	41 (11.1)	4 (1.1)	1 (0.3)	368	618	450
計	1,549 (41.5)	922 (24.7)	1,068 (28.6)	186 (4.9)	11 (0.3)	3,736	4,527	3,842
1950年世界 センサス	1,994 (44.1)	982 (21.7)	1,243 (27.5)	281 (6.2)	27 (0.5)	4,527	—	—
1947年臨時 センサス	1,625 (42.3)	907 (23.6)	1,076 (28.0)	223 (5.8)	11 (0.3)	3,842	—	—

過去 3 ケ 年 農 家 数 の 比



専業及び兼業別農家数 (27.8.1)



## 7 畜 産

### 畜 産 の 概 況

本市においては、大消費地を有して生産物の販路にも極めて恵まれた条件下にあり、戦前においては専業として畜産を営むものも少なくなかった。就中乳牛、養豚、兎について繁栄した飼育家もかなりあつた。又役牛馬の飼育も経営規模に応じた生産手段の一端としては、相当数にのぼつた。これらが第2次大戦に遭遇して、優良馬の軍用徴発、栄養源としての牛、鶏の買付となり、併せて農家労働力は兵役又は軍需産業に吸収せられて家畜の飼育も許されない情勢となり、従つて家畜数も激減の止むなきに至つた。戦後においてはこれら悪条件が解消し、農家人口の急激なる増加は農労働に余剰を来たしたので、農家経済の安定とも相俟つて、一面消費生活の欲求からして、国家政策としても畜産問題が大きく取上げられて来た。下表は昭和28年8月現在農業総合計画基礎調査(農林課独自調査)によつて見れば即ち役牛馬について耕種役畜として経営耕地面積の大なるに従つてその飼育率は高くなり、1町歩以上の農家に在つては、その殆どが飼育している。3反未満の農家で飼育する59頭は、他の兼業に使用されるものが多い、乳牛は戦後始めて農家経営部内に取入れられ、玉川、上内の両酪農組合を中心に飼育も高まりつつある。

#### 経営規模別家畜の養育数

第 18 表

昭和28.8.1現在

(市経済部農林課)

区 分	農家戸数	馬	役 牛	乳 牛	鶏	豚	緬 羊	山 羊
3反~未満	1,549	19	40	—	4,376	23	3	24
3反~5反	922	38	201	1	4,792	5	1	20
5反~10反	1,068	260	522	7	5,118	2	4	47
10反~15反	186	114	65	6	1,195	1	27	7
15反以上	11	9	3	2	258	—	18	2
合 計	3,736	440	831	16	15,739	31	53	100
1950年 センサス	—	—	—	—	12,899	218	—	—
1947年 センサス	—	478	744	9	—	—	—	—

第 19 表

昭和24年~29年屠畜状況

(市衛生部庶務課)

区 分	24年	25	26	27	28	29
牛	606	955	531	611	529	753
馬	4	63	100	61	210	180
小 牛	1	2	3	2	12	26
豚	326	735	414	880	1,119	1,176

## 8 水 産 業

### 水 産 業 の 概 況

有明海の本市地先は、干満の差極めて大きく遠浅であり、従つて自然発生の貝類が多く棲息し、これらの養殖に最も恵まれ、その採貝は極めて盛んである。又藻類採取においては、潮流との相関において海苔養殖に恵まれてをり、その質においては他に類をみない優良品を産出している。特に最近においては労働条件の好転と、資材の改善により逐年増加し本市水産物の加工は、「たいらぎの粕漬」「貝のかんづめ」等本市産物中の名物として今後共に大いに有望視されている。

第 20 表 就労状況別世帯員数 (昭29.1.1漁業センサス) (市総務部庶務課)

区 分	世帯員数以上	組者数加入	自営漁業従事者			漁業被備者			自営農業	漁業以外の農業	他産業被備者			内行職商	その他	
			総数	漁業に従事せず	漁業に従事せず	総数	従事せず	従事せず			総数	事務技術員	常雇			日雇
総 数	3,142	775	1,141	1,080	61	4	4	—	704	78	786	119	519	148	29	1,049
個人経営者世帯	総 数	519	132	210	193	17	2	—	35	9	108	21	74	13	7	209
	無動力	190	52	60	59	1	2	—	5	4	44	6	31	7	3	89
	有動力 ~1屯	135	28	42	41	1	—	—	4	2	32	4	27	1	—	61
	有動力 1~3㌧	44	10	16	16	—	—	—	10	—	9	3	5	1	2	17
	有動力 3~5㌧	9	3	7	6	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	2
浅海養殖	141	39	85	71	14	2	2	—	16	3	22	7	11	4	2	40
従業者世帯	総 数	2,623	643	931	887	44	2	—	669	69	678	98	445	135	22	840
被備なし	自営漁業	590	185	292	285	7	—	—	199	40	—	—	—	—	12	172
被備あり	自営漁業	2,033	458	639	602	37	2	—	470	29	678	98	445	135	10	668

第 21 表 主なる漁業種類別経営体数 (昭29.1.1漁業センサス) (市総務部庶務課)

区 分	総 数	無 動 力	有 動 力		
			~ 1 屯	1 ~ 3 屯	3 ~ 5 屯
総 数	128	72	31	22	3
一面釣延縄漁業 その他漁業 その他浅海養殖	釣延縄漁業	62	37	22	—
	その他漁業 { 採貝採藻 }	12	8	—	3
	その他漁業 { 採貝採藻 }	18	7	6	4
	その他浅海養殖	36	20	3	12

第 22 表 漁 獲 高 (昭29.1.1漁業センサス) (市総務部庶務課)

区 分	総 数	総 高		魚 種 別			総 額
		数 量	金 額	魚 類	貝 類	その他水動物	
総 数	15,583,550	42,352	8,157,050	11,279	26,788	4,285	7,431,500
無 動 力	2,754,400	16,127	2,754,400	4,409	11,588	130	—
	2,996,100	7,276	2,996,100	4,451	50	2,775	—
有 動 力	1,155,000	7,263	1,155,000	1,123	5,300	840	—
	624,000	5,040	224,000	40	5,000	—	400,000
浅 海 養 殖	8,059,050	6,646	1,027,550	1,256	4,850	540	7,031,500

## 9 千 拓

### 1. 三池干拓建設事業概要

① 地 区 名

農林省三池干拓建設事業区

② 所 在 地

福岡県大牟田市地先(大牟田工区)

福岡県三池郡高田村地先(高田工区)

③ 計画地区の現況

イ. 位 置……大牟田市の北端県立公園黒崎山を中心として、北は矢部川河口より、南は大牟田市堂面川河口に至る沖合、凡そ1,000mに亘る干潟地である。

ロ. 地 勢……地区東部の海岸線の高位部の標高は+1.60mで、沖方に約1/500緩やかな傾斜で低くなり、沖合約1,000mの沖堤防では標高-0.8mである。背後地には大牟田市に明治開、深倉開、有明開等の古い干拓地がある。

ハ. 質及び土性……地質は第4期沖積層で、可溶性有機物を多量に含み、地味は極めて肥沃である。

二. 潮 位 (観測所三池港務所)

区 分	記 号	潮 位 (m)
暴 潮 位	H.H.W.L	+3.60
最 低 潮 位	L.L.W.L	-3.05
大潮平均満潮位	H.W.O.S.T	+2.77
小 潮 〃	H.W.O.N.T	+1.47
平 均 潮 位	M.T	+0.32
小潮平均干潮位	L.W.O.N.T	-0.82
大 潮 〃	L.W.O.S.T	-2.54

④ 工 事 計 画

イ. 計画の要旨……計画地域を潮受堤防で囲み、地区内及び背後からの排水は排水門から自然排水して農地を造成する。

ロ. 用 水 計 画

日 減 水 深 9 mm

全 用 水 量 高田工区0,24m<sup>3</sup>/sec、大牟田工区0,26m<sup>3</sup>/sec

用 水 源 地区外の余水、溜堀及び地下水

⑤ 排 水 計 画

排水は潮受堤防沿いに設けた潮遊池に一時溜め干潮時に排水門から排水する

イ. 排 水 門 の 断 面

区 分	地 区 内 側			限 川 側			敷 高 m
	高さ m	巾 m	連	高さ m	巾 m	連	
大牟田工区	2.00	2.00	6	—	—	—	-1.40
高田工区	2.00	2.30	4	2.50	2.30	3	-1.40

ロ. 排水門の構造……鉄筋コンクリート造水門式

⑥ 潮受堤防及潮止計画

沖堤防返標高 +7.00m 盛土標高+6.00m

河川堤防波返標高 +6.50m 〃+5.50m

堤 防 延 長

区 分	沖 堤 防 m	河 川 堤 防 m	計 m
計	3,954	3,430	7,384
大牟田工区	2,264	1,023	3,287
高田工区	1,690	2,407	4,097

潮 止 口

大牟田工区 70m(通水部) 2ヶ所

高田工区 70m(通水部) 2ヶ所

⑦ 工事に要する費用

総 工 費 1,060百万円

反当事業費 197千円

⑧ 工事より利益を受ける面積

区 分	大 牟 田 ha	高 田 ha	計 ha
計	274	260	534
田	226	210	436
宅道	6	6	12
水堤	6	5	11
	23	24	47
地路	13	15	28
路防			

⑨ 工事によつて得られる増産見込量

区 分	総 量	反 当	備 考
計	24,178		以上の造成地から、直接増産の外、背後
米	15,386	3.5石	地の排水改良、災害防止による間接増産
麦	8,792	2.0	が期待される。

## 2. 人工島概況

元来石炭鉱業は、採掘場所が年々深くなるので、此の海底採掘の常として、高温、多温、メタンガスの発生、多量の湧水等のため、労働条件は甚だしく悪化するので、これを解決するために、採炭現場近くに堅坑を下し、新鮮な空気を送入し、不純な空気を排出する必要に迫られ、昭和24年10月人工島初島の堅坑掘鑿に着手し、昭和26年これが完成を見、更に現在第二の人工島を築造工事中である。

昭和26年8月に竣工したこの人工島初島は陸地より2,500メートルの沖合に高さ海底より11メートル、直径は上部134メートル、下部で180メートルにして、上部に高さ1.0メートルの胸壁(パラベット)を有する緩傾斜捨石護岸であり、施工は4部分に分れ、先ず最下部に栗石、下面に18纏目川崎式金網を円環状に敷き、栗石の沈下を防ぎの第一段築堤にかかり、この築堤が終れば、千馬力、ポンプ船により海中、土砂を円環状築堤の中に吹込み沈澱させ、内部を埋立をなす。かかる工法を四回繰返し完成したものである。工費は約1億円、工期17ヶ月を要して完成したものである。現在築造工事中の第2の人工島は四山鉱の坑内通気堅坑開鑿のため、三池港南突堤横南側海面に海拔6メートル50、直径90メートル、面積6,358平方メートルで、周囲は硬石を2段階に捨石して護岸を築き、内部は海中の土砂を吹上げて埋立をなす。又暴風雨による崩壊を防ぐため、島の周囲には最も風当度の強い南西側を中心に延長200メートル、高さ2メートルのバリケードを、松、竹杭で張る。なお築島工事は工期6ヶ月、工事費約2千万円である。

## 3. 堂面川地先干拓概況

本計画は大牟田市新開、健老町地先の干潟に、南北それぞれ大牟田川、堂面川の線に沿い、西は新開沖2軒現在の初島を結ぶ延長8軒に亘つて堤防を築き、その内側約530町歩を一挙に干拓する。堤内の排水は遊水池を設けて、ポンプに依り堤外に排出し、潮止工の設置をなすものである。即ち宮浦鉱稼行区域の海面を干拓し、陸地化することにより、宮浦鉱のみならず三池全山の断層又は陥没による海水の浸入を防止すると共に、従業員社宅並に鉱工業用地を造成するものである。

面 積 530町歩 堤防延長 7331米 工 期 6ヶ年～10ヶ年



第 6 編

經 濟

---

- 1 商 業
- 2 物 価
- 3 金 融
- 4 貿 易



## 第 6 編 経 済

### 1 商 業

#### 1 商業調査の一般的説明 (通商産業省調査)

調査期日 昭和29年9月1日

調査範囲

卸売及び小売業の全般に亘るものである。すなわち一定の場所をもつて、主として卸売及び小売「物品の仕入販売(製造小売を含む)及び代理又は仲立」を営んでいる商業事業所に限つて調査を実施した。

調査対象外の商業事業所

①街路上にある露店、屋台②神社の境内、公園又は広場等にある店③行商人、旅商人④駅のホーム内にある売店⑤劇場、映画館、野球場等の中にある売店⑥官公庁、学校、会社、工場、病院等の中にある厚生施設としての売店⑦統轄事務を主とする鉱工業会社の本店及び本社又金融業、証券業、倉庫業及び保管業、不動産業電気ガス業、水道、衛生業、製造卸売業サービス業(旅館)洗濯業、写真屋、理髪店、美容院等は本調査の対象ではない他の産業に属するものである。

調査単位

この調査で商業事業所とは一区画を占めて商品の売買業務に従事しているところである。すなわち商業を営んでいる場所が一つの単位となる。したがつて営業をしている場所ごとに調査が実施された。

### 2 結果の概況

終戦後10年、市民の消費水準も一応戦前に復し、消費客も量より質を選ぶ傾向に転じ、又店舗も年々店頭の装飾、サービスの改善、商業道德の昂揚、広告宣伝戦の展開競争はますますはげしくなり、異常なる発展を示している。ここに昭和29年商業統計調査の結果を観察して見よう。昭和27年の調査においては総店舗数3,112であつたが、昭和29年においては総店舗数2,660で1,532店舗減少している。(これは副業を調査しなかつたため)総店舗数は2,960であり、この構成比率は一般卸売業7.4%(220商店)に対して小売業は82.2%(2,432商店)すなわち卸売業に対して小売業は圧倒的多数を示している。

更に従業者数をみてみよう。総数8,480人で、1店当りの従業者数は2.8となり一般卸売業が6.3人で、小売業は2.5人となり、飲食店において2.8人小売業よりやや上廻つている。総数8,480人中、家族従業者は4,676人(55%)雇傭従業者は3,804人(45%)で家族従業者を主とする零細企業の生産本位の色彩が強いことが推測されよう。

更に1店当り1ヶ月間の商品売上高(昭和29年8月分)を検討してみると一般卸売業者は1,623千円であり小売業は214千円、飲食店に於て68千円にして一般卸売業(法人経営大半)の商業的企業性に対し、小売業の生産本位の経営状態が売上高にも明瞭に現はれているのである。

以上本市の商業調査の結果を概略をのべてみたが、特に注目すべきことは、本市商業発展の一つの方法として、市内主要事業所の厚生施設として各商店の存在に対する施設方策を模立する必要がきわめて急を要する事ではないかと考えられることである。

第 1 表 業種別店舗数、従業者数及び商品売上高

調査対象のうち、法人組織の商店及び常傭労働者を使用している個人商店について調査したものである。調査範囲については「一般的説明」欄参照 (市総務部庶務課)

区 分	店 舗 数	従 業 者 数			売 場 面 積	商 手 持 品 高	商 品 年 間 高	商 売 上 高	一 店 当 り				
		家 族 従 業 者	雇 傭 従 業 者	計					従 業 者 数	売 場 面 積	商 品 手 持 高	商 品 年 間 高	商 品 年 間 高
総 数	766	944	3,786	4,770	11,493	701,851	8,354,203	679,969	6.2	15	917	10,920	896
一般卸売業	154	140	1,105	1,245	2,043	297,364	4,033,022	324,589	8.1	13.2	1,931	26,188	2,107
代理商及仲立業	5	—	81	81	1,920	—	—	—	16.2	58.4	—	—	—
各種商品小売業	1	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
専門品小売業	481	591	2,275	2,866	5,925	402,627	165,425	340,569	5.9	12.3	837	8,659	708
飲 食 店	125	213	325	538	1,605	1,860	15,756	14,811	4.3	12.8	14	1,246	118

- 註 1.臨時日傭の従業者、修理料及びサービス料は含まない。  
 2.商品売上高は8月1ヶ月分である。  
 3.個人事業主は家族従業者に、会社及び有給役員は常用労働者の中に含めた。

## 第2表 業種別営業支出額

調査対象のうち、法人組織の商店及び常備労働者を使用している個人商店について調査したものである。調査範囲については「一般的説明」欄参照 (市総務部庶務課)

区 分	店舗数	有給従業者数				営業支出 千円単位			帳簿組織			
		会社及 団体有 給役員	常用 労働者	臨時 日傭	計	給与額	その他の 営業支出	合計	有			無
									単式	複式	計	
総 数	766	457	3,329	70	3,856	365,398	459,287	824,685	302	269	566	194
一般卸売業	154	148	957	36	1,141	119,753	204,953	324,706	50	95	145	9
代理商及仲立業	5	15	66	—	81	20,745	39,848	60,593	—	5	5	—
各種商品小売業	1	X	X	X	X	X	X	X	—	X	X	—
専門品小売業	481	284	1,991	26	2,301	210,409	201,785	412,194	202	161	363	118
飲食店業	125	10	315	8	333	14,491	12,701	27,192	50	8	58	67

## 第3表 業種別店舗数、従業者数及び商品売上高

調査対象のうち個人商店で常備労働者を使用していない商店について調査したものである。調査範囲については「一般的説明」欄参照 (市総務部庶務課)

区 分	店舗数	従業者数			売場面積	商手持 品高	商間 売上高	商売 上 品高	一店当り				
		家従 業者	雇従 業者	計					従者 業数	売面 場積	商手 持 品高	商年 売上 品高	商売 上 品高
総 数	2,194	3,732	—	3,732	—	—	218,444	1.7	—	—	—	100	
一般卸売業	66	140	—	140	—	—	32,523	2.2	—	—	—	492	
代理商及仲立業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
各種商品小売業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
専門品小売業	1,951	3,274	—	3,274	—	—	180,186	1.6	—	—	—	93	
飲食店	177	318	—	318	—	—	5,735	1.8	—	—	—	32	

- 註 1.臨時日傭の従業者は含まない。  
 2.商品売上高は8月1ヶ月分である。  
 3.売場面積、商品手持高及び商品年間売上高は調査していない。

## 2 物 価

### 消費者物価の概況

大牟田市の消費者物価指数は、昭和30年1月以降、各指数においては若干の変動が見られるが、総合指数においては殆んど横這い状態を続けている。以下指数の推移について見てみよう。

#### 1 総合指数

総合指数は、7月において特に騰費を示し、前月に対し4.9%騰費を示した。これを費目別に見ると、食糧費、被服費、住居費、雑費の4指数が、盆を控え闇米の騰費並びに被服費の騰費を示し、それぞれ5.6%、4.5%、2.7%、2.6%の値上りを示し、総合指数の騰費の主因を示した。

#### 2 食糧費指数

食糧費指数は、6月に対し7月は5.6%の上昇を示したが、これは闇米、野菜、煮物、漬物、調味料、菓子、果物の各指数の値上りにもよるものである。

これに反し、肉類、獣乳、鳥卵、飲料の値下りもあつた。



### 3 金 融

#### 金 融 の 概 況

金融は合種産業の盛衰をもたらし、市の経済を集約的に現わすものであり、その実情を把握すると同時に、市民生活との関連において当面金融の情勢を総合的に検討することは極めて大切なことである。

大牟田市銀行協会勘定による預貯金対貸付金残の比をみると24年度40.5%、25年度50.4%、26年度49.7%、27年度48.4%、28年度54.5%、29年度49.9%であり、低いけれども、これは市内に本店経理等を有する会社が少ないことが主な原因である。

#### 1 銀 行

第 5 表 銀行諸勘定 昭和24年度～29年度 (銀行協会)

区 分	預 貯 金						
	総 額	当座預金	普通預金	通知預金	定期預金	定期積金	そ の 他
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
昭和24年度	1,052,976	239,393	438,282	15,021	215,010	90,142	55,128
25	1,355,323	316,699	502,396	12,685	365,237	92,225	66,081
26	1,748,971	284,510	648,255	27,134	542,208	119,950	126,914
27	2,498,994	475,316	825,271	30,530	828,956	201,523	137,398
28	2,552,694	431,575	610,931	22,367	816,018	204,373	346,813
29年4月	2,713,204	317,540	909,985	34,834	1,019,282	243,879	187,684
5	2,649,678	329,248	833,830	37,579	1,022,408	238,517	188,096
6	2,567,478	299,255	838,700	33,461	1,027,398	229,793	138,871
7	2,711,527	332,600	871,658	49,261	1,034,731	234,935	188,242
8	2,531,754	307,755	816,050	41,399	1,045,542	237,808	83,200
9	2,635,883	338,345	796,919	45,389	1,051,604	241,122	162,504
10	2,665,422	320,803	842,825	43,821	1,068,428	235,362	154,183
11	2,646,036	306,530	806,400	46,076	1,085,589	221,601	179,840
12	2,714,321	344,307	907,088	57,988	1,113,774	224,929	66,235
30年1	2,814,877	351,633	877,346	60,288	1,155,718	227,735	142,157
2	2,838,433	342,439	884,897	52,325	1,174,505	226,674	157,593
3	2,912,268	367,371	931,224	55,000	1,196,458	229,038	133,177

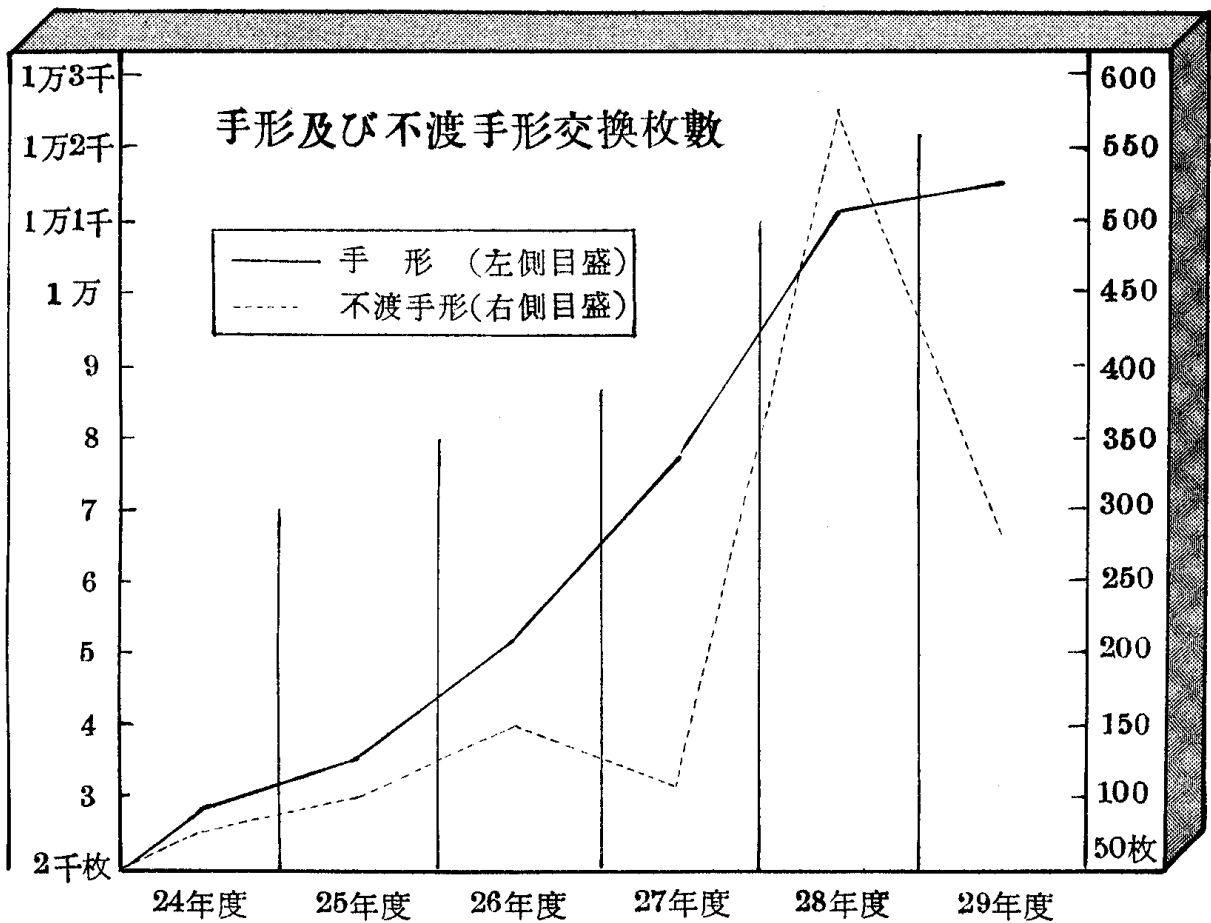
第 6 表 銀行諸勘定 昭和24年度～29年度 (銀行協会)

区 分	貸 付 金							コ ー ル ロ ー ン	所 有 有 価 証 券	現 金	預 け 金
	総 額	手形貸付	証書貸付	当座貸越	割引手形	荷為替 手 形	千円				
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
昭和24年度	426,911	265,059	7,947	440	153,465	—	—	—	133,731	—	
25	683,056	320,614	533	526	361,383	—	—	—	126,351	—	
26	869,805	418,370	100	911	450,164	260	—	—	224,514	—	
27	1,209,777	617,140	18	9,299	583,320	—	—	—	471,807	—	
28	1,391,404	729,135	56,528	1,542	554,372	—	—	—	371,511	346	
29年4月	1,406,370	757,314	60,923	1,377	586,756	—	—	—	341,507	—	
5	1,397,716	735,991	66,043	1,580	594,102	—	—	—	320,291	—	
6	1,327,938	678,215	66,084	885	582,754	—	—	—	247,770	—	
7	1,367,886	677,926	70,282	928	618,750	—	—	—	333,536	2,000	
8	1,372,026	676,786	98,562	862	595,816	—	—	—	243,845	3,000	
9	1,428,816	758,658	64,859	965	604,334	—	—	—	363,828	7,000	
10	1,440,720	725,643	86,800	703	627,574	—	—	—	346,012	3,380	
11	1,475,469	809,219	50,852	2,058	613,340	—	—	—	326,558	2,081	
12	1,399,069	708,977	65,510	656	623,926	—	—	—	294,916	5,000	
30年1	1,426,346	736,559	63,870	1,140	624,777	—	—	—	337,566	—	
2	1,475,564	771,400	51,233	1,253	651,678	—	—	—	407,734	2,000	
3	1,453,146	756,526	49,321	1,997	645,302	—	—	—	448,923	4,373	

第7表 手形交換高 昭和24年度~29年度

(銀行協会)

区分	交換日数	手形交換高			不渡手形		
		枚数	金額	差額	人員	枚数	金額
昭和24年度	...	2,579	647,261,461	377,560,953	56	57	6,541,355
25	...	3,522	802,163,506	451,508,924	68	101	7,064,549
26	...	5,359	913,457,910	488,577,768	94	153	8,263,753
27	...	7,837	1,247,146,265	509,735,634	83	109	6,355,982
28	...	11,151	1,405,876	530,378	210	561	35,985
29年4月	25	9,547	1,377,497	407,358	183	426	31,472
5	23	10,076	1,311,891	506,185	177	407	32,542
6	26	10,459	1,313,532	460,044	151	426	41,320
7	27	10,423	1,252,267	392,926	137	347	17,711
8	26	10,379	1,276,912	466,569	147	339	22,659
9	25	9,554	1,093,779	380,385	138	320	15,094
10	26	9,105	1,152,724	376,514	131	265	13,776
11	24	10,159	1,394,624	525,485	135	332	16,106
12	27	13,008	1,628,906	581,111	147	337	16,424
1	23	9,097	1,289,500	470,807	119	256	13,232
2	24	9,815	1,143,188	353,937	106	235	11,150
3	26	11,480	1,460,425	488,962	121	267	13,467



第 8 表 郵便貯金 (本局分) (大牟田郵便局)  
昭和24年度～29年度

区 分	預 入			払 出		
	口 数	金 額	一口当り預入高	口 数	金 額	一口当り払出額
		千円	円		千円	円
昭和24年度	15,855	47,790	3,014	18,653	40,791	2,186
25	21,205	54,975	2,592	16,231	49,612	3,056
26	21,796	56,385	2,586	14,160	53,206	3,757
27	19,230	60,462	3,489	12,438	59,008	5,160
28	17,897	70,807	3,956	12,907	73,160	5,668
29年4月	1,555	6,254	4,022	1,102	5,864	5,322
5	1,773	6,543	3,691	1,035	5,263	4,086
6	1,941	6,737	3,471	989	4,378	443
7	1,916	7,429	3,878	1,067	5,903	5,533
8	1,644	8,168	4,969	1,016	6,395	6,294
9	1,514	5,600	3,699	1,090	6,723	6,168
10	1,562	5,687	3,641	1,056	6,617	6,267
11	1,351	5,064	3,749	964	6,595	6,842
12	1,597	13,269	8,309	966	7,770	8,019
30年1	1,564	7,310	4,674	673	5,614	8,343
2	1,454	5,315	3,656	1,002	6,318	6,305
3	1,366	5,656	4,141	1,190	7,348	6,175

第 9 表 定額貯金 (本局分) (大牟田郵便局)  
昭和24年度～29年度

区 分	預 入			払 出		
	口 数	金 額	一口当り預入高	口 数	金 額	一口当り払出額
		千円	円		千円	円
昭和24年度	49,240	16,664	338	32,585	13,123	402
25	389,974	41,730	107	170,255	29,796	175
26	56,167	45,764	814	233,551	40,590	173
27	33,152	53,384	...	26,716	35,060	...
28	2,191	88,059	40,191	2,396	50,140	20,927
29年4月	230	7,325	31,849	209	3,646	17,446
5	161	4,084	25,369	236	3,529	14,954
6	172	4,637	26,959	135	3,197	23,686
7	192	5,487	28,580	227	3,609	15,901
8	161	5,495	34,136	206	5,443	26,446
9	777	7,957	10,242	233	5,349	22,958
10	136	4,598	33,810	246	4,623	18,795
11	102	3,868	37,924	185	3,470	18,761
12	196	12,590	64,235	204	3,911	19,175
30年1	181	4,808	26,566	197	2,959	15,006
2	718	9,039	12,590	212	4,911	23,169
3	164	6,015	36,679	285	5,872	20,604



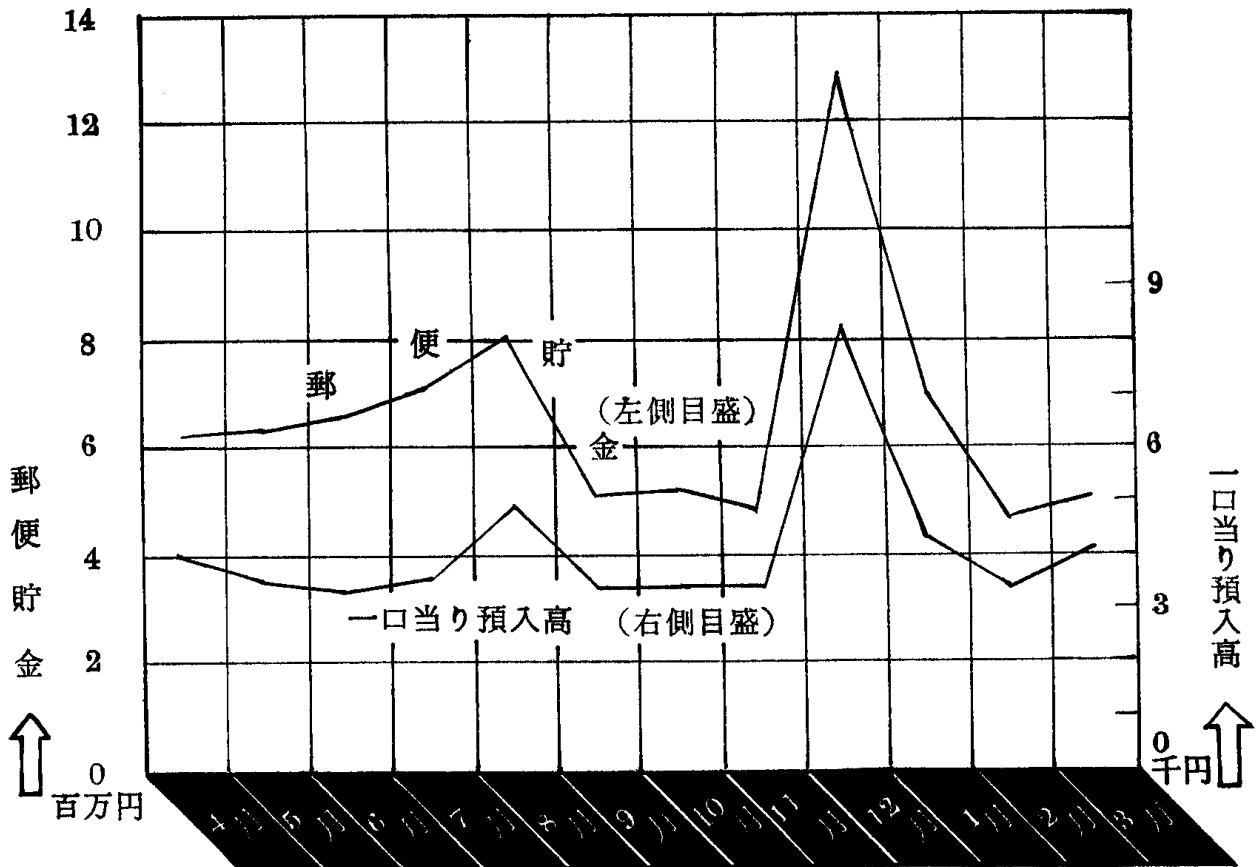
第 10 表 積 立 貯 金 (本局分)

昭和24年度~29年度

(大牟田郵便局)

区 分	預 入			払 出		
	口 数	金 額	一口当り預入高	口 数	金 額	一口当り払出高
昭和24年度	19,083	10,058	527	906	1,330	1,468
25	20,622	9,990	484	2,778	7,806	2,810
26	31,207	15,660	501	3,321	13,074	3,936
27	49,853	24,293	...	1,684	10,653	...
28	61,159	33,581	550	4,144	26,640	6,429
29年4月	5,537	3,071	555	657	4,628	7,045
5	5,799	3,368	581	594	2,512	4,230
6	5,849	3,555	608	712	3,385	4,755
7	6,190	3,910	632	565	3,691	6,533
8	4,769	3,545	744	332	1,360	4,096
9	6,083	3,672	604	205	1,054	5,145
10	6,580	4,134	628	149	1,054	7,080
11	5,859	3,886	663	149	1,198	8,046
12	7,050	4,612	654	192	1,521	7,923
30年1月	7,004	4,582	654	183	1,926	10,528
2	5,595	3,710	663	287	3,085	10,749
3	6,413	4,410	688	613	4,201	6,853

普通郵便貯金と一口当り預入高 (大牟田郵便局)



## 4 貿易

### 貿易の概況

輸出入貿易の内容は、土地の産業構成に呼応して左右されるものである。本市における産業構成は、石炭を中心とする炭鉱業や化学肥料並び染料等の化学工業の割合が大きいため、これらの生産品が輸出品の大部分を占めている。輸入品についてみると、硫化鉄鉱工業、塩、無煙炭等の化学工業の原料が多い。

三池港は我国有数の開港場で、主として外国貿易を行い、大牟田港においては帆船による内国取引が盛んである。

第 11 表 三池港輸出入貨物

昭和24年～29年

(三池税関支署)

区 分	輸 出		輸 入	
	数 量	価 格	数 量	価 格
昭和24年	287,740 屯	1,152,174 千円	24,047 屯	111,161 千円
25	127,570	676,135	11,279	53,761
26	46,335	752,942	72,449	1,559,834
27	103,681	1,147,335	57,007	645,495
28	197,314	2,448,036	32,545	530,907
29	184,281	2,513,978	45,429	666,116

第 12 表

昭和29年移出入貨物

(三池港務所)

区 分	積 荷		区 分	揚 荷	
	輸 出	移 出		輸 入	移 入
石 炭	72,719 屯	391,977 屯	石 炭	3,500 屯	56,159 屯
コ ー ク ス	—	36,666	硫 化 鉄 礫	—	35,769
硫 安	99,764	2,300	塩	25,067	—
亜 鉛	—	280	外 米	5,446	—
その他雑貨	349	6,329	オイルコークス	2,308	—
計	172,832	437,552	そ の 他	—	2,781
			計	36,321	94,709

第 13 表

昭和29年大牟田港移出入貨物

(大牟田土木事務所)

区 分	輸 移 入		区 分	輸 移 出	
	数 量	価 格		数 量	価 格
人 造 肥 料	39,500 トン	円 …	土 石	332,834 トン	円 …
セ メ ン ト	7,840	…	木 製 品	74,400	…
コ ー ク ス	5,600	…	材 木	21,693	…
金 属 製 品	70	…	コ ー ク ス	4,159	…
薬 品	5	…	魚 獲 物	3,152	…
計	53,015	…	計	436,238	…

第 7 編

交 通

---

- 1 道 路
- 2 国 鉄
- 3 私 鉄
- 4 バス 其の他
- 5 船 舶
- 6 通 信
- 7 報 道



# 第 7 編 交 通

## 陸 上 運 輸 の 概 況

鹿児島本線は大牟田市の中央を南北に走り、大牟田駅は、明治24年築町に設置され、同44年不知火町に移転した。第二次大戦末期の昭和20年7月の空襲により焼失し、その後再建計画が進められ昭和25年7月竣工なり、炭都玄関にふさわしくスマートな近代建築の偉容を誇示している。

明治29年三井鉱山株式会社専用鉄道の接続工事が竣工し、石炭及び工業原料、その他製品の運輸に至大なる利便を与え、港湾と相呼応して、炭都としての大牟田の発展を推進した。

大正11年7月金百万円を以て大牟田電気軌道会社が創立され、爾後工事に着手し、昭和2年12月旭町四山間4.6キロ単線運転でその開通を見るに至つた。逐年道路は改善、拡張、新設され、自動車、トラック、バス等の文化のスピード機関は進歩発達し、遂に昭和13年11月には九州鉄道株式会社（現西日本鉄道K.K）の電車（福岡—久留米）が築町まで、同14年7月大牟田駅まで開通を見たのである。これにより市内（外）の運輸機関は一応整備せる観を呈し、鉱工業の隆盛と港湾の施設とは更に市並びに近接町村の繁栄を促し、人口は此処に集まり、鉱工業都市として飛躍的隆昌と繁栄を遂げつつあつたのであるが、今次大戦末期の空襲により殆んどの市街地は烏有に帰し、各運輸機関も大打撃を蒙り、その損害は少なからざるものがあつた。産業経済の基幹であり、文化の尺度と云われる道路は、戦時中の酷使により荒廃の極に達し、晴天には砂塵、雨天には泥濘となり、通行者を悩ましたのであるが、27年に至り漸く築町—不知火町間のメインストリートの舗装完成し、逐次整備の段階にある。又戦後自動車交通の発達が目覚ましく、桜町、勝立、黒崎、築港等の市内各線の外、遠く南関、山鹿、久留米及び高瀬方面等近接市町村間に張られている定期自動車網があり、戦前を遙かに凌駕している現状である。更にタクシーの活動となり、昭和10年当時の70台をオーバした実情にあり、市民の足としてその快適とスピードを誇っている。しかし昭和2年12月開通し長年市民の足として親しまれていた市内電車が昭和27年1月廃止されたのは一抹の淋しさを感ずる。

## 1 道 路

第 1 表 道 路 延 長 調

昭 和 2 9 年 1 2 月 末

(市土木課 県土木事務所)

区 分	路 線 数	主要延長	主要延長内訳		幅 員 別 内 訳				
			道 路	橋 梁	7.5m以上	7.5~5.5	5.5~4.5	4.5~3.6	3.6m未満
総 数	706 <sup>本</sup>	435,457 <sup>m</sup>	433,352 <sup>m</sup>	2,132 <sup>m</sup>	50,401 <sup>m</sup>	37,847 <sup>m</sup>	35,840 <sup>m</sup>	31,315 <sup>m</sup>	280,054 <sup>m</sup>
二級国道	1	10,977	10,708	269	10,977	—	—	—	—
県 道	20	64,798	64,751	74	13,934	3,002	10,840	6,693	30,329
市 道	685	359,682	357,893	1,789	25,490	34,845	25,000	24,622	249,725

第 2 表 舗 装 道 路 区 分 別 調

昭 和 2 9 年 1 2 月 末

(市土木課 県土木事務所)

区 分	高級舗装道路		簡易舗装道路		計	砂 利 道	合 計	舗装の歩合
	セメント	瀝青系	セメント	瀝青系				
総 数	6,797 <sup>m</sup>	15,765 <sup>m</sup>	2,104 <sup>m</sup>	2,420 <sup>m</sup>	27,086 <sup>m</sup>	406,582 <sup>m</sup>	433,668 <sup>m</sup>	6.2%
二級国道	44	10,833	—	100	10,977	—	10,977	100.0
県 道	2,113	2,456	257	—	4,826	59,972	64,798	7.4
市 道	4,640	2,476	1,847	2,320	11,283	346,610	357,893	3.2

## 2 国 鉄

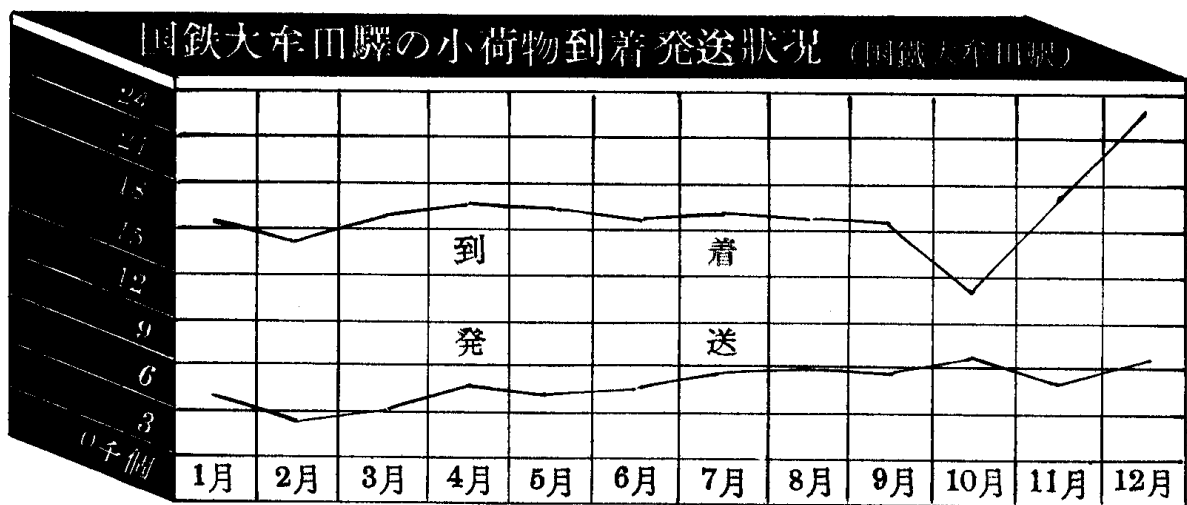
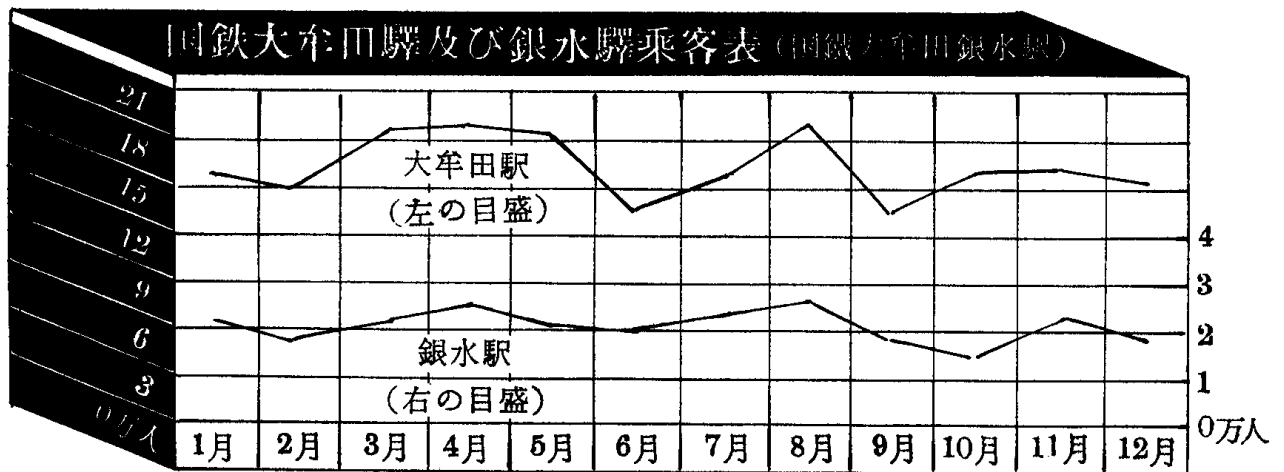
第 3 表 昭和24年～29年大牟田駅乗降客及び手荷物調 (大牟田駅)

昭和29年小荷物関係の( )内は小荷物のみの実箇数で下段は雑誌郵便を含有したものの数である。

区 分	乗車旅客数	降車旅客数	手 荷 物		小 荷 物	
			発 送	到 着	発 送	到 着
昭和24年	3,343,480	3,268,675	9,335	12,941	15,597	115,354
25	3,682,360	3,617,118	9,905	11,515	24,089	160,472
26	4,602,248	4,533,003	11,456	12,028	33,678	185,552
27	3,619,162	3,573,424	11,940	13,273	46,909	203,513
28	2,558,039	2,538,938	12,434	15,472	33,442 (44,427)	147,673 (119,183)
29	1,968,070	1,950,955	12,882	14,850	57,476 (2,556)	204,333 (8,735)
1月	161,769	161,452	1,462	1,244	4,202	15,326
2	150,706	147,766	961	1,098	(2,723)	(8,841)
3	184,684	183,343	1,193	1,425	2,890 (3,057)	14,595 (10,389)
4	191,408	191,545	1,498	1,355	3,265 (3,049)	16,232 (10,528)
5	183,317	186,782	930	1,319	4,740 (3,104)	17,702 (10,291)
6	142,041	140,584	681	938	4,034 (3,328)	17,490 (9,138)
7	154,335	152,265	684	1,169	4,193 (3,968)	15,839 (9,021)
8	190,005	189,582	1,216	1,249	4,861 (3,968)	16,192 (7,777)
9	143,500	141,519	1,215	1,121	5,388 (4,358)	15,675 (8,635)
10	153,165	150,205	1,336	1,229	5,760 (4,704)	15,523 (11,320)
11	1578,53	154,894	893	1,157	6,253 (4,410)	18,664 (10,710)
12	152,287	151,018	813	1,546	5,505 (5,202)	17,478 (13,798)
					6,385	23,617

第 4 表 昭和24年～29年銀水駅乗降客及び手荷物調 (銀水駅)

区 分	乗車旅客数	降車旅客数	手 荷 物		小 荷 物	
			発 送	到 着	発 送	到 着
昭和24年	295,421	271,084	1,165	1,034	2,921	9,060
25	336,539	319,879	883	820	2,336	9,084
26	372,173	359,719	946	2,120	805	3,138
27	273,765	270,019	6,361	8,666	2,391	12,009
28	214,073	206,830	960	1,050	1,916	14,677
29	252,855	242,946	1,048	1,174	2,432	3,086
1月	21,921	21,047	122	80	141	174
2	19,707	19,437	73	95	162	244
3	20,828	20,249	125	151	170	297
4	25,110	23,484	132	105	351	310
5	21,188	20,309	81	74	180	276
6	20,270	20,019	51	57	153	236
7	22,290	21,764	63	79	329	229
8	26,946	25,517	108	132	177	229
9	19,278	18,506	86	88	163	282
10	14,507	13,410	92	89	219	280
11	21,358	20,422	64	107	160	205
12	19,452	18,782	51	117	227	324



第 5 表 昭和24年～29年国鉄貨物取扱数

大牟田駅

(大牟田駅)

区 分	発		送		到		着	
	小 件 数	口 扱 量	車 件 数	扱 数 量	小 件 数	口 扱 量	車 件 数	扱 数 量
昭和24年	9,469	1,791	30,362	650,509	20,049	3,445	24,438	420,302
25	6,743	1,528	34,948	716,282	19,976	3,527	25,980	464,369
26	6,726	1,606	49,483	923,738	25,655	4,476	26,444	454,136
27	17,589	3,420	44,931	833,425	41,246	6,782	29,194	531,037
28	28,022	4,541	43,246	779,753	53,849	8,455	30,350	600,504
29	28,742	4,148	51,629	831,227	54,223	7,705	41,000	610,482
1月	2,295	323	4,397	66,832	3,474	548	5,593	84,537
2	2,156	302	3,571	52,728	3,738	603	5,132	77,420
3	2,209	338	4,815	78,801	4,419	646	4,532	67,916
4	2,302	352	4,864	79,833	4,418	659	5,051	44,964
5	2,495	367	4,728	78,220	4,551	694	2,919	43,605
6	2,342	365	4,734	78,576	4,300	714	2,868	42,553
7	2,349	377	4,065	69,435	4,332	687	2,764	41,038
8	2,517	376	4,121	65,475	4,581	672	3,011	44,926
9	2,318	322	4,141	63,518	4,255	622	2,628	37,908
10	2,291	336	3,788	58,107	4,658	637	2,722	39,879
11	2,401	291	3,873	62,317	4,192	540	2,611	38,123
12	3,067	399	4,532	77,385	5,305	683	3,169	47,613

第 6 表 昭和24年~29年国鉄貨物取扱数

銀 水 駅

(銀水駅)

区 分	発 送				到 着			
	小 口 扱		車 扱		小 口 扱		車 扱	
	件 数	数 量	件 数	数 量	件 数	数 量	件 数	数 量
	件	キロ	件	トン	件	キロ	件	トン
昭和24年	1,864	537,031	725	9,690	1,824	280,600	505	7,856
25	1,104	293,165	616	8,490	1,187	198,789	378	5,721
26	823	225,402	443	6,266	1,412	218,492	828	12,013
27	1,905	385,235	275	3,816	2,411	305,117	737	12,366
28	1,721	307,218	286	3,994	2,966	365,954	597	10,403
29	1,843	298,666	126	1,536	2,926	347,293	532	9,055
1月	160	28,795	12	141	257	24,651	51	733
2	108	28,445	17	230	272	31,186	55	1,100
3	163	36,354	9	110	283	40,340	27	378
4	175	27,896	8	89	339	35,025	37	799
5	170	28,840	13	168	233	20,620	83	1,618
6	127	21,035	7	81	226	21,116	83	1,219
7	98	14,028	7	83	212	25,034	33	444
8	56	18,004	6	58	216	20,212	28	397
9	146	20,682	11	119	229	31,675	33	498
10	183	21,699	11	125	107	40,915	45	827
11	208	24,926	18	255	241	25,565	30	465
12	249	27,962	7	77	311	30,954	27	577

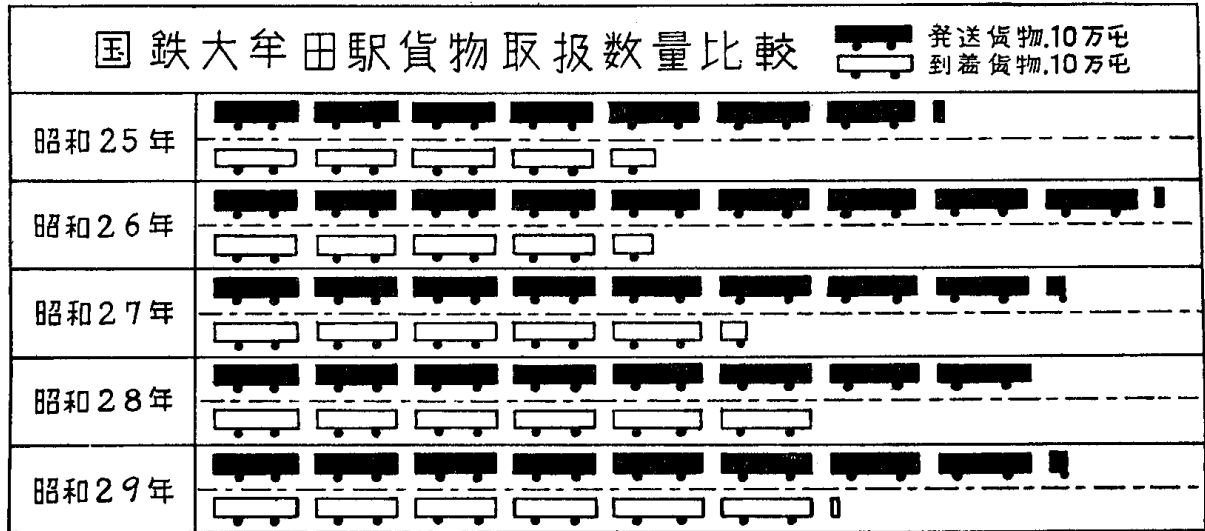
3 私 鉄

第 7 表 昭和29年西日本鉄道乗降客数

(西日本鉄道K.K)

区 分	大 牟 田 駅				栄 町 駅			
	乗 客 数		降 客 数		乗 客 数		降 客 数	
	一 般	定 期	一 般	定 期	一 般	定 期	一 般	定 期
総 数	575,840	892,390	625,520	892,390	710,495	1,169,624	687,118	1,169,624
1月	52,440	76,090	57,940	76,090	65,025	101,789	63,044	101,789
2	39,930	65,060	44,140	65,060	54,000	87,250	52,791	87,250
3	49,260	61,100	54,280	61,100	66,403	86,783	64,200	86,783
4	54,800	81,080	58,360	81,080	61,529	113,158	59,490	113,158
5	57,400	81,300	58,680	81,300	62,682	99,603	60,604	99,603
6	36,040	80,620	39,020	80,620	48,253	95,127	46,654	95,127
7	42,230	71,870	46,280	71,870	56,450	96,535	54,578	96,535
8	60,530	61,530	65,730	61,530	67,792	80,340	65,545	80,340
9	43,520	86,210	48,100	86,210	52,869	110,463	51,117	110,463
10	54,540	76,360	59,140	76,360	64,070	104,631	61,947	104,631
11	45,120	81,270	49,090	81,270	54,300	101,071	52,500	101,071
12	40,030	69,900	44,760	69,900	56,522	92,874	54,648	92,874





## 4 バス・その他

第8表 西鉄大牟田バス路線網 (大牟田自動車営業所)

路線名	起 点	終 点	経 由 地	料 程
南 関	大牟田駅	南 関	東新町・草木・三池中町・上内中尾	17.0
桜 町	〃	〃	上官町・勝立・庄山・賢木・落合	16.7
〃	〃	〃	築町・上官町・新道四角・一部橋	4.1
〃	〃	〃	〃	5.1
〃	〃	〃	〃	6.0
勝 立	〃	〃	築町・上官町・下高田	5.3
〃	〃	〃	〃	5.8
〃	〃	〃	〃	4.2
〃	〃	〃	〃	8.0
〃	〃	〃	〃	6.0
〃	〃	〃	〃	6.7
〃	〃	〃	〃	43.0
〃	〃	〃	〃	43.2
〃	〃	〃	〃	6.0
〃	〃	〃	〃	10.7
〃	〃	〃	〃	5.3
〃	〃	〃	〃	8.6

第9表 西鉄バス輸送調 昭和29年度 (大牟田自動車営業所)

区分	車輛数	従業員数	乗 客 数	運 賃	一 日 平 均		
					運転車輛数	乗 客 数	運 賃
1月	64	279	1,290,746	14,947,845	54	41,800	482,000
2	64	279	981,590	11,534,660	53	41,000	412,000
3	67	279	1,053,413	12,846,265	53	34,000	414,000
4	67	279	1,161,032	14,213,542	54	39,000	474,000
5	67	279	1,209,641	14,320,155	56	39,000	464,000
6	67	290	1,086,499	12,185,708	55	36,000	362,000
7	69	296	1,254,467	14,557,645	56	40,400	462,000
8	69	296	1,311,312	16,365,255	56	42,400	530,000
9	71	296	1,082,478	12,705,445	56	36,200	364,000
10	71	314	1,187,499	13,792,805	56	38,200	450,000
11	71	314	1,052,598	12,266,985	57	35,000	408,000
12	73	312	1,128,671	13,442,135	57	36,200	434,000
計	820	3,513	13,799,946	163,178,445	663	459,200	5,256,000

第10表 産 交 バ ス (産交バス大牟田営業所)

路線名	起 点	終 点	経 由 地	料 程
産業線(山手)	(玉立市願寺)	大牟田駅前	荒尾市 (金山野原)	26.1
腹赤線	(玉高市願)	〃	腹赤長洲 荒尾駅前 四ツ山	32.1

第 11 表 昭和29年産交バス輸送調 (産交バス大牟田営業所)

区 分	車 輛 数	従 業 員 数	乗 客 数	運 賃	一 日 平 均		
					運 転 車 輛 数	乗 客 数	運 賃
1月	—	2	6,416	233,300	5	207	7,626
2	—	2	4,708	171,810	5	170	6,136
3	—	2	5,722	208,050	5	185	6,711
4	—	2	6,603	234,450	5	220	7,815
5	—	2	5,854	206,790	5	189	6,671
6	—	2	4,072	144,670	5	136	4,822
7	—	2	4,946	175,665	5	160	5,667
8	—	2	7,247	236,690	5	234	7,667
9	—	2	3,831	199,585	5	128	6,653
10	—	2	6,280	241,335	5	203	7,783
11	—	2	5,682	223,160	5	190	7,439
12	—	2	6,552	239,600	5	211	7,729

### 海上運輸の概況

産業文化の発達に良港を求め、良港の施設は産業文化の発達を助成する。よつて海上交通の重要性もここにあり、本市に於ける海上交通機関は、三池港並に大牟田港であつて、三池港を遠く世界文化との接触点とするならば大牟田港は近く国内の諸港に通ずる門戸と言えよう。

#### 1 三池港

市の西南端有明海上はるかに突出せる2条の突堤こそ、石炭の補給港として世界的な築港三池港である。本港は全く人工による港で、明治35年着工以来明治41年の完成に至るまで約6年の歳月と巨入の資料により竣工、同年4月6日勅令第75号を以て開港場に指定された。港は幅20米の閘門によつて内港と船渠とに区劃されて、汽船は此の狭い閘門を曳船し曳船され船渠に出入する。船渠には東岸に1万噸級の汽船3隻を同時に横付けし得る全長400米の繫船壁と南岸に普通貨物の荷役に使用する長さ90米の鉄製棧橋がある。汽船は繫船岸で石炭を積込むので積込の迅速を期するためにトンネル棧橋貯炭設備と毎時480噸の積込能力を有する三池式船積機の設備がある。これによつて良炭を廉価に且迅速に供給し得るようになってゐる。三池港の海上輸送はこれを支機として劃期的な発展を遂げ船舶陸續として三池港に集り外匡船の来港も漸次増加の一途をたどり石炭積出港としての三池港はその面目を一新した。しかるに当港が1万噸より巨大なる船舶の船渠入港は不可能なるため専ら大型船石炭積込用として大正15年4月内港東岸に全長91米の繫船壁築造工事に着手し昭和2年5月竣工した。これによつて1万噸級より巨大の船舶も容易に接岸して荷役できるようになつた、かくして西日本における開港場としての面目を益々發揮して内地は勿論遠く中国、南洋、北米、歐洲各国との交易が一層盛んになつた。滿洲事変以来本邦における化学工業の発展は急激に躍進し、三池港の背後に三池炭を原料とする三池重工業地帯の出現を招来し、その原料及び製品の取扱は驚異的な増加を來たすに至り石炭積出港としてのみならず、雜貨港としての大規模な設備改善をなすべく昭和9年10月内港北側に雜貨岸壁の構築を着手、同12年10月竣工更に昭和26年4月重要港灣の指定をうけ石炭積出とともに雜貨の取扱量も増加の一途をたどりつつある。

#### 2 大牟田港

大牟田港は、昭和7年県告示を以て県費支弁港灣に編入されて、地方産業開発上大いに囑望された。しかし狭く且つ浅い大牟田川の川口を利用した港であるために干潮時は僅かに300噸内外の船舶の出入を得るのみであるが出入は繁く、九州沿岸は素より全国各地との交易に活躍している。本港は三池港開港前迄は大牟田唯一の石炭積出港としてその繁栄を誇つたが、今日もなお長崎、島原、瀬戸内海沿岸への石炭の移出及び工業原料、日常生活物資の交易は多く本港を通して行はれている。大正10年川口より約730米の南方に木造柱建の荷揚場が設備され荷役の利便を講ぜられたがその規模は狭少であつた。その後都市の発展につれて移入出額も漸次増加し出入船舶数も千数百隻に達した、かくて港の隆盛につれて船舶は輻輳を加えるに至り、適當なる船溜場と埠頭の設備によつて工業品及び本地方の需給関係を充す雜貨の吞吐を便ならしめて地方商工発達のため昭和9年多額の費用を投じ県営5ヶ年継続事業として本港改修に着手した。大牟田川川口左岸の地は市の中核に連続して鹿児島本線の駅に近く位置最も適當なるため左岸の三井埋立地域内に293,000平方メートルの土地を区劃して千噸以下の汽船の碇泊得るし埠頭及び帆船、漁船等の船溜場の築設計画を樹立され斯くて昭和14年完成の予定であつたが恰も滿洲事変勃発の影響により昭和24年略ぼ完成に至りたるもいまだ陸上施設の不備、殊に道路棧橋、上屋倉庫等の設備の緊要にせまられ目下之れが建設計画中でありこれら施設の完備と相俟つて躍進するであろう。

第 12 表 昭和24年～29年三池島原間渡船乗降調 (島原観光汽船)

区 分	24 年	25	26	27	28	29
乗 客 数	62,084	60,916	65,525	77,070	108,386	105,661
降 客 数	69,636	64,858	69,617	79,389	102,415	114,367

第 13 表 昭和29年三池～島原間渡船月別乗降人員数調 (島原観光汽船)

区分	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
乗客数	4,569	4,489	8,428	11,774	23,181	6,004	5,032	11,160	6,576	12,139	7,569	4,740	105,661
降客数	5,965	5,927	9,404	10,690	20,125	7,530	5,505	12,429	7,377	13,976	10,189	5,250	114,367

### 5 船 舶

第 14 表 昭和29年三池港入港船舶調 (海運局)

区 分	総 数		汽 船		機 帆 船	
	隻 数	吨 数	隻 数	吨 数	隻 数	吨 数
総 数	1,946	763,573	417	660,313	1,529	103,260
日 本 船	100吨未満	1,185	42,447	—	1,185	42,447
	100～500	358	66,330	14	5,517	60,813
	500～1,000	241	186,486	241	186,486	—
	1,000～5,000	119	264,785	119	264,785	—
	5,000～10,000	5	30,110	5	30,110	—
	10,000吨以上	—	—	—	—	—
外 国 船	1,000吨未満	1	875	1	875	—
	1,000～5,000	23	76,530	23	76,530	—
	5,000～10,000	14	96,010	14	96,010	—
	10,000吨以上	—	—	—	—	—

### 6 通 信

第 15 表 昭和24年度～29年度小包郵便 (大牟田郵便局)

区 分	引 受 数			配 達 数		
	普 通	書留その他	計	普 通	書留その他	計
昭和24年度	10,825	9,984	20,809	22,347	39,772	62,119
25	12,612	15,368	27,980	24,975	39,079	64,054
26	14,433	16,483	30,916	40,796	41,481	82,277
27	14,846	16,807	31,653	50,874	36,219	82,093
28	16,071	9,991	26,062	61,232	34,177	95,409
29	17,884	9,368	27,252	65,735	32,407	98,142
4月	1,381	714	2,095	5,199	2,729	7,928
5	1,292	635	1,927	5,278	2,285	7,663
6	1,180	571	1,751	5,269	2,378	7,647
7	1,658	763	2,421	5,708	2,698	8,406
8	2,141	1,076	3,217	5,865	3,147	9,012
9	1,417	533	1,950	4,565	2,225	6,790
10	1,211	661	1,872	5,071	2,545	7,616
11	1,106	593	1,699	4,780	2,374	7,154
12	2,762	2,136	4,898	8,819	4,977	13,796
30年 1月	1,218	562	1,780	5,105	2,187	7,292
2	1,060	555	1,615	4,674	2,232	6,906
3	1,458	569	2,027	5,402	2,530	7,932

第 16 表 昭和24年～29年電信発着数 (大牟田電報局)

区 分	發 信			着 信			内外中継
	内 国	外 国	計	内 国	外 国	計	
昭和24年	139,718	140	139,858	147,574	188	147,762	51,439
25	142,177	135	142,312	148,792	202	148,994	48,736
26	156,821	157	156,978	165,294	208	165,502	50,430
27	141,764	151	141,915	147,245	190	147,435	43,127
28	145,475	68	145,543	153,594	52	153,646	51,744
29	122,772	94	122,866	126,317	50	126,360	40,257
1月	9,951	8	9,959	9,898	8	9,906	3,527
2	9,709	4	9,713	10,405	2	10,407	3,176
3	12,174	22	12,196	12,777	10	12,780	4,538
4	10,630	16	10,646	11,078	3	11,081	3,954
5	10,015	12	10,027	10,009	2	10,011	3,241
6	9,019	4	9,023	9,210	8	9,218	2,745
7	9,306	5	9,311	9,461	2	9,463	3,130
8	9,778	5	9,783	10,342	1	10,343	3,363
9	9,490	1	9,491	10,202	2	10,204	3,123
10	10,248	8	10,256	10,575	4	10,579	2,871
11	8,992	4	8,996	9,358	1	9,359	2,626
12	13,460	5	13,465	13,002	7	13,009	3,963

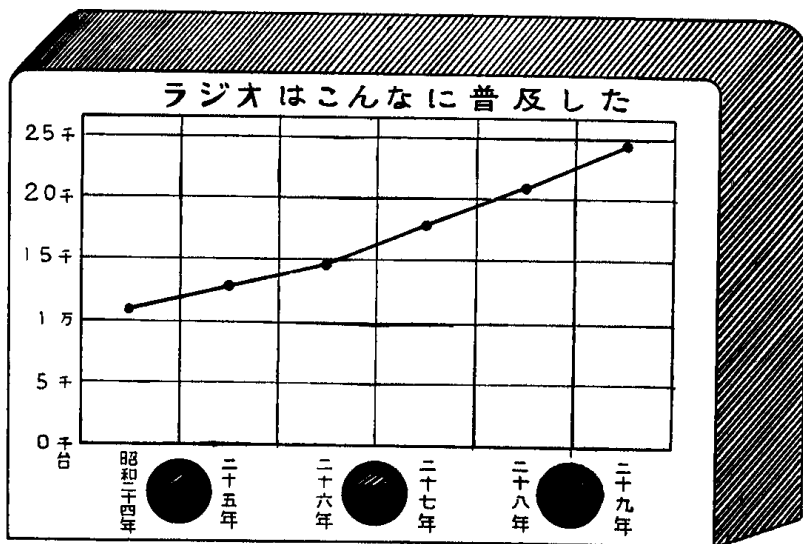
第 17 表 電話による電報発信配達状況 (大牟田電報局)

区 分	発 信			着 信		
	発信通数	電話による発信	割 合	配達通数	電話による配達	割 合
昭和28年	145,475	78,125	54%	151,091	55,835	37%
29	122,866	73,141	59	137,843	56,775	41
1月	9,959	5,669	56	10,438	4,235	40
2	9,713	5,728	59	11,305	4,628	41
3	12,196	7,170	59	13,857	5,480	32
4	10,646	6,235	59	12,454	4,806	39
5	10,027	5,912	58	11,136	4,536	41
6	9,023	5,255	58	10,373	4,440	43
7	9,311	5,759	62	10,787	4,469	41
8	9,783	6,024	60	11,572	4,632	40
9	9,491	6,051	62	11,457	4,902	43
10	10,256	6,471	63	11,912	5,048	42
11	8,996	5,678	63	10,304	4,375	42
12	13,465	7,189	53	12,248	5,224	43

7 報 道

第 18 表 昭和24年～29年月別ラジオ聴取台数 (福岡放送局)

区分	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和24年	8,642	9,161	9,825	9,936	10,050	10,493	10,711	10,925	11,139	...	...	...
25	...	...	...	...	...	...	...	...	...	12,867	12,884	12,933
26	12,992	13,151	13,173	13,205	13,222	13,661	13,785	13,877	14,132	14,290	14,357	14,821
27	14,959	15,230	15,347	15,520	16,009	16,284	16,590	17,091	17,022	17,232	17,377	17,402
28	17,628	18,022	18,317	18,532	19,236	19,593	19,853	20,253	20,513	21,149	21,254	21,293
29	21,715	22,308	22,275	22,498	22,873	22,921	23,542	23,943	23,751	23,906	24,140	24,187



第 8 編

司法及び警察

---

- 1 司 法
- 2 警 察



## 第 8 編 司 法 及 び 警 察

### 1 司 法

第 1 表 司 法 機 関 昭和30年12月31日現在 (市総務部庶務課)

名 称	所 在 地	判 事	判 事 補	検 事	副 検 事	書 記 官	書 記 官 補	事 務 官	雇 員	計
福岡法務局 大牟田出張所	大牟田市白金町101	—	—	—	—	—	—	2	3	5
福岡地方検察庁 大牟田支部	〃 〃 大字三池	—	—	—	—	—	—	1	1	2
福岡地方裁判所 大牟田支部	〃 〃 白金町101	—	—	1	—	—	—	4	4	9
福岡家庭裁判所 大牟田支部	〃 〃 〃	—	—	—	1	—	—	2	2	5
福岡家庭裁判所 大牟田支部	〃 〃 〃	2	—	—	—	1	6	1	6	15
福岡家庭裁判所 大牟田支部	〃 〃 〃	1	—	—	—	1	4	1	3	10
福岡家庭裁判所 大牟田支部	〃 〃 〃	(2)	—	—	—	(1)	(1)	2	4	(4)6

註 ( )内は兼務 福岡家庭裁判所大牟田支部は雇員の中(3人)は備人

第 2 表 昭 和 2 9 年 登 記 件 数 (福岡法務局大牟田出張所 〃 〃 三池出張所)

区 分	登 記			登 記 以 外 の 事 件			
	件 数	筆 数	登 記 税	謄抄本交付	閱 覧	手 数 料	
不 動 産	土地建物	4,977	12,508	10,818,613	3,420	2,645	163,630
	船舶	5,034	6,273	11,276,850	2,718	1,698	99,860
	船団	12	12	85,030	74	1	1,860
	計	76	77	2,526,600	310	—	7,440
商 業	会社	12	—	23,185	391	3	8,940
	合名	30	—	71,749	398	5	12,610
	合資	426	—	734,855	4,720	56	175,860
	有限	125	—	373,050	42,646	18	58,150
	支店	5	—	2,400	66	—	1,800
	商号登記	4	—	2,700	—	—	60
計	602	—	1,207,939	8,221	82	257,420	
そ の 他	153	—	—	1,028	—	29,795	
合 計	10,854	18,870	25,915,032	15,771	4,426	560,005	

### 2 警 察

#### 警 察 の 概 況

昭和23年、自治体警察として発足以来6年、この間公安委員会の管理のもとに困難な諸情勢の中にあつてよく民主警察の具現と、治安の保全に努め民主警察としての使命を果たしてきたが、昭和29年5月警察法改正案が国会を通過したので市警察署は廃止され、同7月1日から国警大牟田警察署として新発足した。

第 3 表 大牟田警察署実員数 昭和30年12月31日 (大牟田警察署)

警 視	警 部	警 部 補	巡 査 長	巡 査	計	三 務 級 吏 事 員	雇 員	備 人	運 転 手	小 使	掃 除 婦	電 交 換 話 手	保 健 婦	計	合 計
2	7	16	31	208	264	2	18	3	4	2	1	5	1	36	300

註 定員数不明のため実員数を掲載した。

第 4 表 昭 和 2 6 年 ~ 2 9 年 交 通 事 故 数 (大牟田警察署)

区 分	26 年	27	28	29
発 生 件 数	3 9	7 3	1 0 3	1 3 7
死 者	3	1 4	1 0	1 0 4
負 傷 者	4 4	5 6	7 6	6

(註 昭和29年7月より高田村を含む)

第 5 表

昭和25年～29年刑法犯市内発生検挙状況

(大牟田警察署)

区 分	25 年		26		27		28		29	
	発生	検挙	発生	検挙	発生	検挙	発生	検挙	発生	検挙
公務執行妨害罪	10	10	4	4	2	2	4	4	4	4
逃走罪	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—
放火罪	3	3	1	1	—	—	5	5	4	4
失火罪	12	12	9	9	12	12	18	18	17	17
往來を妨害する罪	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2
住居を侵す罪	8	8	12	12	19	19	15	15	15	13
文書偽造の罪	28	28	7	7	7	11	6	7	77	76
有価証券偽造の罪	1	1	—	—	—	—	3	3	1	1
印章偽造の罪	—	—	1	1	—	—	2	2	3	3
偽証の罪	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—
虚偽の告白の罪	2	2	1	1	—	—	2	2	1	1
わいせつ罪	—	—	6	6	—	—	3	3	5	4
強姦罪	2	2	4	4	7	8	4	4	4	4
普通賭博罪	14	14	12	12	2	2	1	1	3	2
常習賭博罪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
織礼拜所墳墓に関する罪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
職権濫用罪	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—
賄賂罪	14	14	14	14	5	5	19	20	44	44
殺人罪	5	5	11	11	11	11	7	7	2	2
えい児殺罪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
殺人未遂罪	4	4	5	5	4	4	6	6	10	10
殺人予備罪	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—
自殺関与罪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
傷害罪	148	148	122	122	206	207	182	182	167	167
傷害致死罪	2	2	4	4	—	—	—	—	—	—
単純暴行罪	88	88	67	68	95	99	78	80	55	55
業務上過失致死罪	20	20	17	17	26	26	30	30	55	54
過失傷害致死罪	2	2	1	1	7	7	5	5	—	—
脅迫罪	11	11	4	4	7	7	7	7	5	5
業務に対する罪	5	3	2	2	—	—	4	4	—	—
信用並に業務に対する罪	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1
窃盗罪	4,932	3,760	5,655	3,874	4,755	3,681	4,693	3,777	4,095	2,464
強盗殺人罪	1	1	—	1	—	—	1	1	1	—
強盗傷人罪	3	2	2	2	1	1	—	—	3	3
強盗強姦罪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
強盗並びに準強盗罪	15	14	7	4	3	4	10	7	8	7
詐欺並びに準詐欺罪	1,085	1,129	678	648	502	560	351	365	416	389
背任罪	—	—	—	—	—	—	4	4	1	1
恐喝罪	329	329	136	145	96	96	65	69	43	43
横領罪	161	174	103	108	116	122	91	112	106	109
業務上の横領罪	68	68	30	31	45	46	41	44	30	28
占有離脱物横領罪	2	2	—	—	—	—	11	11	1	1
財物に関する罪	367	445	313	344	359	392	139	154	21	21
賭博開帳罪	1	1	—	—	2	2	—	—	—	—
その他毀棄罪	25	25	4	4	10	10	—	—	12	6
その他刑法犯	—	—	—	—	—	—	—	—	9	19
計	7,373	6,332	7,233	5,467	6,299	5,334	5,808	4,950	5,220	3,560

(註 昭和29年7月より高田村を含む)



第 6 表

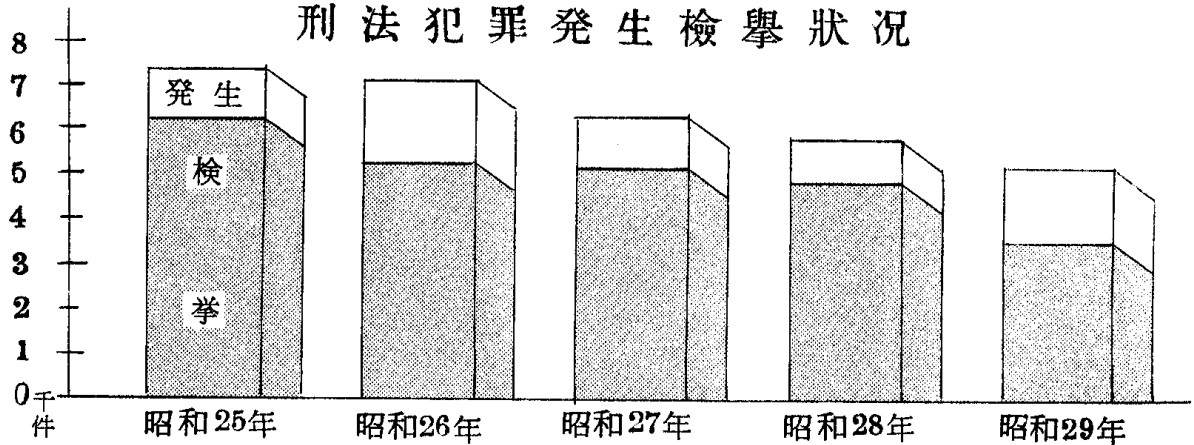
昭和29年青少年犯罪者数

(大牟田警察署)

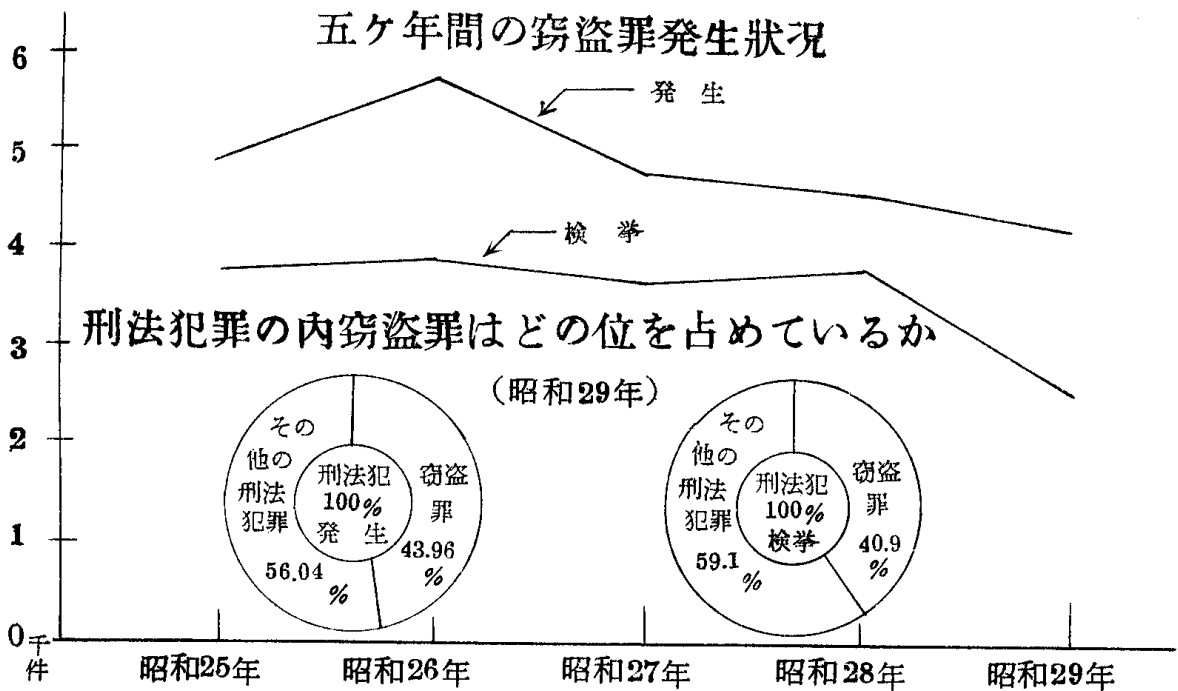
区 分	大学生		高校生		中学生		小学生		工 員		事務員		商 業		農 業		漁 業		日 備 労務者		無 職		その他		計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
殺強暴傷恐	人 人		森 森		行 行		害 害		喝 喝																			
	—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—	
	—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—	
	—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—	
窃盗	普		通																									
	—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—	
詐横その他	欺		領																									
	—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—	
計		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		—		

(註 昭和29年7月より高田村含む)

刑 法 犯 罪 発 生 検 挙 状 況



五ケ年間の窃盗罪発生状況





第 9 編

# 消 防

---

1 消 防



## 第 9 編 消 防

### 1 消 防

#### 消 防 の 概 況

本市の公設消防は、古くは明治27年勅令消防組規則公布の頃より町消防組が結成され、大正6年市制施行と共に市消防組となり、昭和5年1月には初めて常備消防隊が設置され、昭和14年4月に至り、消防組を警防団に改組昭和22年には更に消防団と改められた。これよりさき昭和18年7月官設大牟田消防署が開設され都市防火の第一線を担当して来たが、昭和23年3月消防組織法施行に伴い消防業務は挙げて地方自治体に移管せられ、市民の消防として新たに市消防本部及び市消防署が発足した。

現在消防職員は消防長以下108名が兼任配置され、消防本部は2課1隊制にて消防行政の運営に当り消防署は本署の外日出町、三川町の2出張所に消防自動車1(台(内3台は予備車))を配置し水火災害の警戒防護に従事している。消防団は概ね校区単位に19ヶ分団42部編成にて団長以下905名が配置され自動車ポンプ10台小型動力ポンプ26台、その他機械が装備されて団一体となり統制ある活動の下に消防の任務を果しつつある。この外私設消防機関としては各主要事業所には自衛消防隊の組織があり、自動車ポンプ9台、小型動力ポンプ22台の装備を以つて初期防火に備えている。団の機械装備は現在の処稍劣勢で、その生命である自動車ポンプの殆どは耐用命数を過ぎ、性能上期待し難く火災通報設備、水利施設の不完備と相俟つて、本市の消防力は不足し、匡家消防本部の都市等級調査では第7級都市として施設装備の改善を指摘されている。

一方、市内の建築物の状況は近年目覚しい戦災復興の進捗に伴い、木造建物が漸増し、火災の発生件数も逐年上昇の一途をたどり、前年度30~4(件)に過ぎなかつたのが、27年には8(件)を突破し特に28年に於ては93、29年には101件建物焼失1,555坪、損害額も28年の約6,300万円に比し12,130万円にも及び、公共福祉の増進を阻んでいる実情である。思うに都市防火の完べきを期するには都市不燃化を促進すると共に、市民の消防に対する理解と協力により火災予防の徹底を図り、且つ消防自体にあつては科学化、合理化を図つて隊員の教養訓練を強化することが必要であるが、特に恒久的対策としては基準要員の確保、老朽消防車の更新、火災報知機の新設、通信施設、水道消火栓の改良、貯水槽の増設等を必要とする段階に来つつある。

第 1 表 消 防 設 備

昭和29年12月末

(市消防署)

区 分	自動車ポンプ		三輪車 ポンプ	手挽ガソ リンポン プ	小型動力 ポンプ	腕 用 ポンプ	特殊車	司令車
	タンク車	普通車						
計	3	22	4	31	51	3	3	1
公 設 消 防 自 衛	消防本部	(予備)3	—	—	—	—	2	1
	消防署	1	3	—	—	—	1	—
	出張	2	1	—	—	—	—	—
	消防団	—	9	1	4	26	—	—
消防隊	—	6	3	27	22	—	—	

第 2 表 昭和24年~29年火災損害見積額

(市消防署)

区 分	総 額		建 物 火 災		山林、原野火災		船船車数及びその他の火災	
	件数	損害見積額 円	件数	損害見積額 円	件数	損害見積額 円	件数	損害見積額 円
昭和24年度	46	16,603,116	36	16,244,116	4	30,700	6	328,300
25	48	9,736,280	43	9,690,780	3	45,000	2	500
26	56	9,723,480	45	9,696,580	4	15,500	7	11,400
27	84	9,723,950	65	9,016,450	12	153,200	7	554,300
28	93	62,749,968	67	62,408,100	10	182,000	16	159,868
29	101	121,321,765	71	121,024,715	14	34,000	16	263,050

第 3 表 昭和24年~29年火災統計表

(市消防署)

区 分	24 年	25	26	27	28	29	
計	46	48	56	84	93	101	
件 数	原因別	42	43	53	77	83	92
	失放不	2	3	2	2	5	5
	明の	—	2	1	3	—	3
	延	2	—	—	2	5	1
	火火	6	6	3	3	6	10
	他	20	13	17	32	30	27
	焼	20	29	36	49	57	64

第 3 表 昭和24年～29年火災統計表 (続) (市消防署)

区 分				24 年	25	26	27	28	29
家	住家	全半	焼	11棟	4棟	3棟	5棟	8棟	19棟
			焼	5	8	2	6	10	10
屋	非住宅	全半	焼	17	11	11	9	17	9
			焼	6	3	3	3	4	2
			失坪	1,032坪	521坪	491坪	397坪	1,234坪	1,542坪
山	林野	世帯	焼	13	8	4	14	14	22
			焼	11	25	22	41	22	48
死傷者	件	失	焼	4	3	4	12	10	14
			失	7.3町歩	3.0町歩	3.8町歩	32.4町歩	10.3町歩	7.3町歩
死傷者	死傷	者	者	—	3	—	4	—	1
			者	1	15	8	16	17	39

第 4 表 昭和24年～29年中時刻別火災発生件数 (市消防署)

区 分	○	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	計
	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	
昭和24	1	1	2	1	3	—	2	—	2	4	5	2	4	2	3	2	2	1	2	1	2	2	1	1	46
25	—	3	3	—	3	—	1	1	2	1	2	2	2	3	5	5	2	2	4	2	1	3	1	—	48
26	2	1	1	—	1	—	—	—	—	3	4	5	5	3	—	3	4	2	5	3	2	5	2	5	56
27	2	1	4	3	2	1	5	—	4	5	7	4	7	3	6	4	4	1	4	3	5	2	2	7	84
28	4	1	1	1	1	1	1	1	5	3	8	3	7	2	12	3	5	8	2	9	5	2	1	7	93
29	3	3	2	—	3	1	3	2	2	2	7	2	9	7	10	11	5	4	8	3	6	1	—	7	101

第 5 表 昭和24年～29年月別火災発生件数 (市消防署)

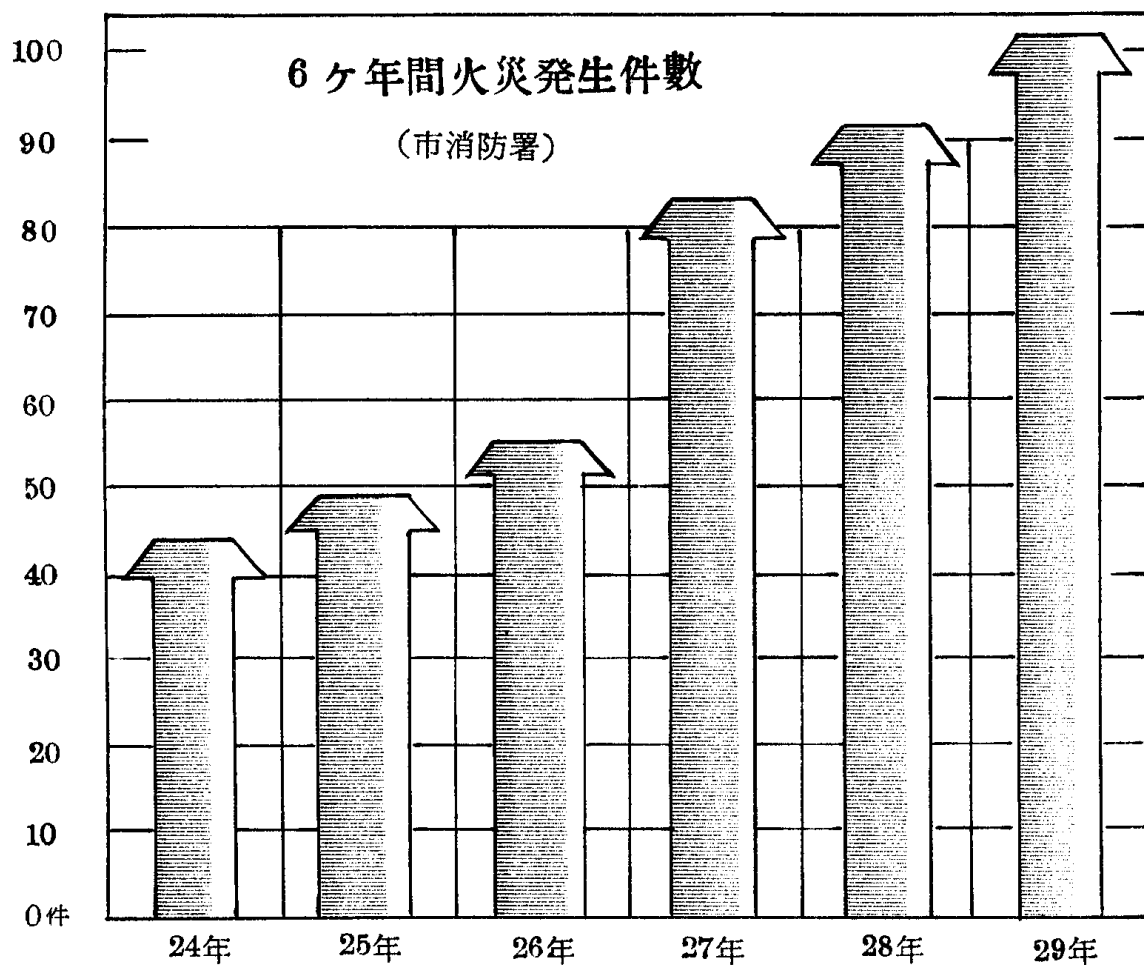
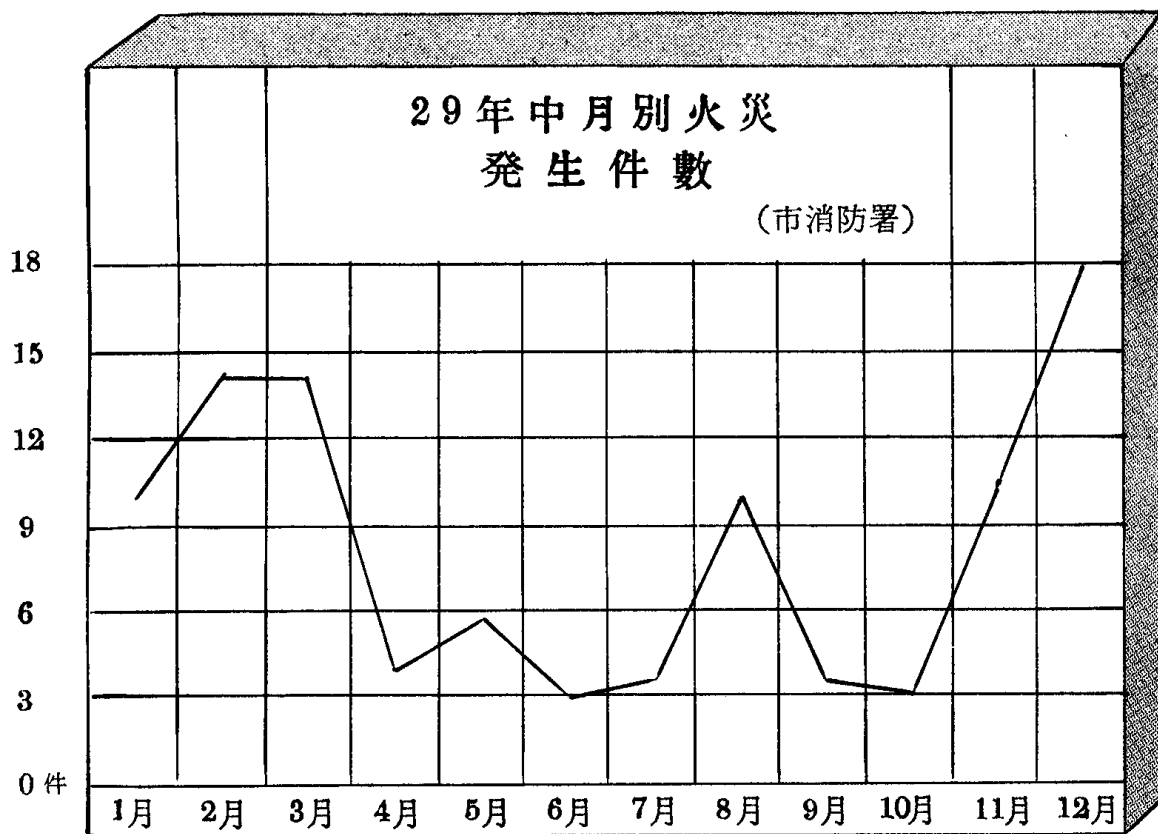
区 分	各 月 別												合 計	平 均
	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
昭和24年	5	4	5	8	2	3	4	5	1	3	2	4	46	3.8
25	8	2	4	5	6	4	3	3	4	4	1	4	48	4.0
26	2	7	6	5	1	2	1	9	4	3	7	9	56	4.7
27	12	9	15	9	2	3	3	4	2	3	13	9	84	7.0
28	7	13	8	15	3	2	9	3	6	8	9	10	93	7.8
29	10	14	14	5	6	3	4	10	4	3	10	18	101	8.4
平 均	7.3	8.2	8.7	7.8	3.3	2.8	4.0	5.7	3.5	4.0	7.0	9.0	71.3	5.9

第 6 表 消防本部及び消防署人員配置表 (定員)

昭和30年4月1日現在

(市消防署)

区 分	消 防 吏 員						その他の吏員			合 計
	監 査	司 令 長	司 令	司 令 補	士 長	消 防 士	事 務 吏 員	書 記	備 入	
消 防 本 部	1	1	2	4	2	5	1	2	2	20
消 防 署	—	—	—	2	9	41	—	—	—	52
	—	—	—	—	2	8	—	—	—	10
	—	—	—	—	4	22	—	—	—	26
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1	1	2	6	17	76	1	2	2	108







第 10 編

# 教 育

---

1 学校教育

2 社会教育

3 図書館



## 第 10 編 教 育

### 1 学 校 教 育

#### 昭和29年度の学校教育の概況

本市教育も、年々向上充実を見ているが、29年度において特に注目すべき点を拾つて見るならば、次の諸点であろう。

- ① 小学校児童の急激な増加のため、これを収容すべき教室を大量に増築せねばならなかつたこと。
- ② 学校教育の内容面において、基礎学力の充実と、道德教育の徹底とに主力を注ぐことになつたこと。

以上2点であるが、まず第1の点を見ると、29年度当初予算において、教育費は1億8千6百余万円であつて、これは市の一般会計予算の約17%に当るが、この内約8千万円は、学校々舎建築費である。即ち教育予算の約4割に当る多額の予算が、児童増による教室の建築に費されたわけで、29年度には約2千名以上の児童が増加し、60教室ばかりが新しく建てられている。

各小学校とも児童が増加し教室が不足を来たしたが、中でも笹原校は、児童数2千を越すという状態となつてきたため、新しく小学校を増設する必要に迫られた。色々の都合で、勝立中学校を新たに玉川支所の近くに新築して、旧校舎を小学校とする計画が立てられた。

次に、このような学校建築費の多額の支出は、限られた教育予算としては、当然教育内容充実のための予算に響いて来るわけで、消耗品や備品、とりわけ教用備品も削減のやむなきに至つたことは遺憾であつた。

もしそのために、教育効果を減ずるようなことになつては由々しき問題であるが、これらの不備を補うためには、何といたつても、教職員の質の向上と、その研究努力とにまつ外はない。幸に本市は教職員志願者が急激に増加して、学芸大学の新卒業生のみでも欠員補充するに充分という状態で、殆ど全部有資格者をもつてあてられることになり、男女教員比率も、次第に均衡を回復する方向に進んで来た。しかも、各学校とも、教育方法の研究に真剣に努力される態勢となり、近年問題となりつつある学童基礎学力の養成並に道德教育の徹底については、本市全学校の中心課題として力を注いだところである。

以上29年度の本市の学校教育を概観してみたが、勿論まだ本市はその教育施設においても、教育内容においても、これからやらねばならぬ問題は山積している。百教室余に及ぶバラック校舎や周辺部の老朽校舎の改築をはじめ、特別教室、講堂、プールなどの新設等は常に問題となるところであり、大学の誘致もぜひ実現したいところである。

第 1 表 昭和26年度～30年度学校調 (市教委事務局)

区 分	年 度	学 校 数	学 級 数	教 員 数	生 徒 数			対前年増減
					男	女	計	
小 学 校	昭和26	21	512	608	13,249	12,761	26,010	1,278
	27	21	518	593	13,032	12,530	25,562	△ 448
	28	22	510	593	13,099	12,578	25,677	116
	29	22	538	631	13,967	13,468	27,435	1,758
	30 (7.1)	(1) 24	609	716	15,409	14,740	30,158	2,723
中 学 校	26	10	217	347	5,502	5,446	10,948	△ 50
	27	11	225	349	5,592	5,455	11,047	99
	28	11	241	382	6,124	5,845	11,969	922
	29	11	266	410	6,671	6,501	13,172	1,203
	30 (7.1)	(1) 市立11 私立 1	264 8	394 31	6,783 0	6,213 414	12,996 414	176 414
高 等 学 校	26	7	136	283	4,598	1,505	6,103	497
	27	8	148	307	4,797	2,103	6,900	797
	28	8	159	327	5,128	2,410	7,538	638
	29	8	163	312	5,155	2,750	7,905	367
	30	8	{ 全日124 定時 40 計 164	{ 279 70 349	{ 4,684 1,140 5,824	{ 2,009 174 2,181	{ 6,691 1,314 8,005	{ } △ 100

註 29年度迄は4月1日現在 30年度からは7月1日現在

第2表 昭和29年度～30年度児童体位表

( )内は県平均 (7月1日現在)

(市教委事務局)

区分	男女	年度	年齢									
			6才	7	8	9	10	11	12	13	14	
身長 (cm)	男	29	109.71	114.96	120.22	124.44	128.77	133.59	137.96	144.04	150.04	
		30	109.90 (110.38)	114.96 (115.47)	119.83 (120.46)	124.87 (125.32)	129.18 (129.48)	133.50 (133.81)	138.92 (138.95)	144.61 (144.43)	151.02 (150.72)	
	女	29	108.98	113.79	119.31	124.01	128.66	134.32	139.88	144.96	146.83	
		30	109.02 (109.21)	114.21 (114.58)	119.02 (119.28)	124.30 (124.79)	129.38 (129.62)	134.43 (134.83)	140.58 (141.12)	145.18 (145.35)	148.54 (148.34)	
体重 (kg)	男	29	18.62	20.53	22.69	24.65	26.97	29.37	32.35	36.78	42.23	
		30	18.70 (18.64)	20.63 (20.49)	22.60 (22.52)	24.90 (24.85)	27.06 (26.92)	29.60 (29.29)	33.23 (33.53)	37.44 (30.09)	42.55 (42.95)	
	女	29	18.03	21.08	22.06	24.63	26.68	30.05	34.34	39.05	42.85	
		30	18.14 (18.06)	19.97 (19.92)	22.09 (21.83)	24.43 (24.43)	27.14 (27.16)	30.40 (29.93)	34.95 (36.00)	39.23 (39.12)	43.23 (43.80)	

第3表 中学及び高校30年3月卒業生の進路

(昭和30年7月1日現在)

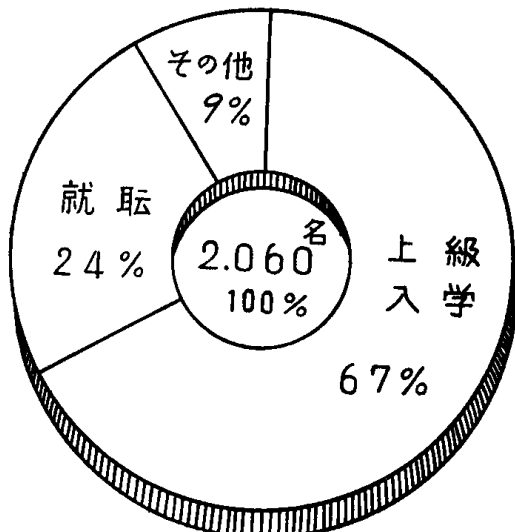
(市総務部 庶務課)

	中学校	高等学校																					
		高校合計		普通科								職業科											
				三池高校		大牟田南		大牟田北		不知火		明光		大牟田南		三池農業		三池工業		大牟田高校			
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%				
卒業生総数	男	2,060	100	1,126	100	258	100	181	100	125	100	0	100	0	100	131	100	80	100	196	100	153	100
	女	1,925	100	864	100	173	100	158	100	134	100	221	100	95	100	32	100	46	100	0	100	0	100
上級入学者	男	1,371	67	266	24	74	29	113	62	35	28	0	—	0	—	18	14	7	9	8	4	11	7
	女	1,078	56	155	13	71	41	29	18	34	25	3	1	9	10	9	28	0	—	0	—	0	—
就職決定者	男	501	24	391	35	14	5	31	18	3	3	0	—	0	—	54	41	56	70	138	71	95	62
	女	425	22	188	22	29	17	74	47	26	19	14	8	10	10	23	72	12	26	0	—	0	—
その他	男	188	9	467	41	170	66	37	20	87	69	0	—	0	—	59	45	17	21	50	25	47	31
	女	422	22	521	65	73	42	55	35	74	56	204	92	76	80	0	—	34	74	0	—	0	—

註 ①高校は全日制のみ ②中学校には私立(明光)を含む

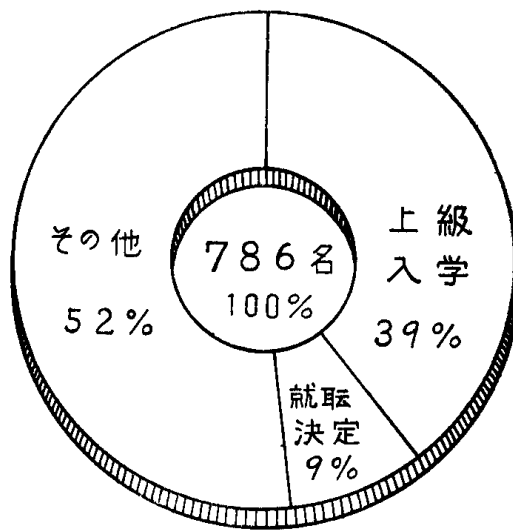
中学校 30年3月卒業生の卒業後の進路

(男子) 昭和30年7月1日現在



高校 30年3月卒業生の進路

(普通科、全日制男子) 昭和30年7月1日現在



## 2 社会教育

### 昭和29年度の社会教育の概況

29年度において、本市の社会教育活動において特筆すべきことは、中央公民館(市民会館)の完成により、公民館活動が本格化され、本市の公民館運動に一時期を画したことである。

即ち、中央公民館の完成により、中央公民館活動はその場を得て、市民の生々しい生活問題と取組めることになり、或は文化講座や成人学級の開設に、或は知名士の講演に、或は協議会、懇談会の開設にと、多彩な活動ができることになった。これに即応して、社会教育課は挙げて中央公民館内に移つて、その活動を容易にした。

また市民の要望にこたえて、公営結婚をここにおいて実施することになり、毎月20乃至30組に及ぶ。厳粛にして簡素な結婚式が挙行されて、生活改善の一端が実現したことは喜ばしいことである。

なおまた、各地域における公民館の施設も、急激に増設せられて来て、80を数え、地域課題解決のための学習がたかまつて来ていることも、見落しえない事実である。

次に、社会体育の足跡を省みるに、由来本市はスポーツ界には早くから名を知られているが、29年度も国民体育大会に県選手として北海道の地に目覚ましい活躍をした選手は40名を越え、また県青年日駅伝競走には久しぶりに優勝の栄冠を得るなど、立派な成績を残している。

市民大会も、年々盛んになり、バレーボール、ソフトボールなどには老若男女多数のチームが出場し、市民全般へ普及して、スポーツを楽しむ風もようやく萌えつつある。

以上、29年度の社会教育活動について回顧してみたが、公民館分館の育成、総合グラウンドの完成その他、あとには幾多の大きな問題が残されている。

第 1 表 公民館数 (30年3月末現在)

中央公民館	校区公民館	分 館	分館施設数
1	2 3	2 2 6	独立 4 5 転用 7 4

第 2 表 昭和29年度公民館活動状況 (教育委員会社会教育課)

種類	校 区 公 民 館		中 央 公 民 館	
	校 内	校 外	種 類	内 容
講習・講座	料 理	1,640	視 聴 覚	映 画
	その他	50,497		
学 級	衛生	200	成人学校	(家庭) 洋裁・編物
	養 老	16,323		
体育	産業	183	文化講座	(美術) 美術
	経 済	14,301		
その他	局 計	6,424	公 営 結 婚 式	(9~3月)
	小 計	1,584		
学 級	学 級	24	公民館大学	2 回
	級 級 計	1,279		
体 育	会 員	2,234	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	計	90,408		
学 級	青 年 学 級	2,845	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	小 学 級	26,759		
体 育	運 動 会	1,055	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	小 学 級	20,786		
体 育	レ ー ボ ー ル	3,900	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	テ ン ニ ス	47,545		
体 育	水 泳	160	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	陸 上	78,691		
体 育	水 球	247	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	テ ン ニ ス	16,755		
体 育	水 球	19	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	テ ン ニ ス	4,065		
体 育	水 球	25	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	テ ン ニ ス	1,319		
体 育	水 球	160	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	テ ン ニ ス	30,078		
体 育	水 球	84	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	テ ン ニ ス	27,248		
体 育	水 球	695	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	テ ン ニ ス	148,156		
映 画	映 画	421	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	幻 灯	83,387		
映 画	映 画	14	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	幻 灯	1,653		
映 画	映 画	41	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	幻 灯	13,978		
映 画	映 画	38	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	幻 灯	3,757		
映 画	映 画	369	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	幻 灯	41,151		
映 画	映 画	880	公民館大学	毎日800~1,500位の聴講者あり
	幻 灯	143,926		
総 計		9,191	469,095	

第3表 昭和29年度中央公民館公営結婚式

区分	29年9月	10	11	12	30年1月	2	3	計
挙式件数	1	17	26	27	14	19	20	124
平均経費	26,400円	13,578	14,001	13,059	11,767	13,162	13,837	(9月を除く) 13,234
最高	—	19,250	30,120	27,820	15,100	24,250	25,820	30,120
最低	—	8,950	6,150	4,300	6,900	8,650	6,050	4,300

註 公営結婚式は、29年9月より開始

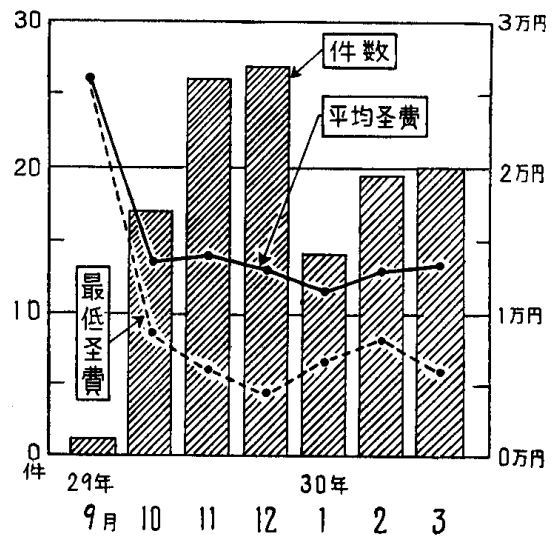
### 3 図書館

#### 昭和29年度の図書館の概況

本市の市立図書館も、新図書館法に基づき、広く一般市民のサービス機関としての運営ができるようになって来たことは、まことに喜びにたえない。ことに、29年度の新しい試みとして企画され、その実を挙げてきたことは、市の周辺部に対するサービス活動で、巡回配本車の実現である。

この活動は、周辺の人々に完全なサービスはできないにしても、読書啓蒙の一役を漸次に果たして行くであろうことは、明かである。今ようやく、館内だけの活動に加えて、この巡回活動ができるようになったことは、いよいよ読者の増加に期待が持たれ、それに対応するためのサービス機構の改革も積極的に検討されはじめ、いよいよ本格的図書館機能を発揮するときに、近き将来に訪れることであろう

#### 中央公民館公営結婚



第4表 蔵書冊数及びその他 (昭和30.3.31現在)

蔵書冊数													洋書		レコ		スラ		閲覧室	
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	児童	計	アメリカ文化センター分室	洋書	レコード	スライド	一般室	児童室			
総記	精神科学	歴史	社会	自然	工学	産業	美術	語学	文学											
3,625	1,588	1,267	4,854	3,003	1,265	694	1,308	658	10,024	3,333	31,619	469	165	290	120	50				

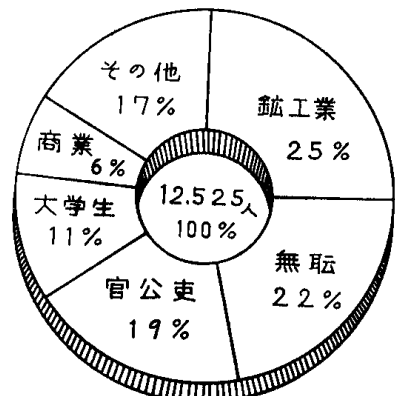
註 (1) 設立 昭和24.9.1 (2) 館員 15名

第5表 図書館

昭和30年3月末現在 (市図書館)

名称	大牟田市図書館				
所在地	市内有明町69				
蔵書数(和書)	洋書数	レコード	スライド	館員数	設立
31,619冊	469冊	165枚	290本	14名	昭和24.9.1

一般室館外閲覧者職業別



第 6 表 昭和29年度閲覧者並に閲覧冊数調  
( )内は1日平均

(市図書館)

区 分	一般室	児童室	洋書室	団体貸出	小 計	本を借り ない入館 者	29.4~ 30.1 夜 間	総 計
閲覧者数	38,168 (171)	16,279 (74)	6,268 (24)	30,345 (83)	91,060 (352)	2,708 (10)	8,789 (59)	102,557 (421)
閲覧冊数	54,913 (232)	33,382 (151)	9,160 (35)	30,345 (83)	127,800 (501)	— —	13,187 (96)	140,987 (597)
開館日数	館内 275 館外 163	221	265	365		275	138	

註 団体貸出の貸出回数は216回、貸出冊数15,259冊(1回平均70冊)

第 7 表 29年度一般室閲覧者職業別調

(市図書館)

区 分	学 生				官公吏	鉱工業	商 業	その他	無 職	計	
	中 学	高 校	大 学	計							
館 内	人数 (%)	2,282人 (8.9%)	11,150 (43.5)	2,868 (11.2)	16,300 (63.6)	369 (1.5)	1,781 (6.9)	333 (1.3)	1,383 (5.3)	5,480 (21.4)	25,643 (100)
館 外	人数 (%)	0 (0)	0 (0)	1,398 (11.2)	1,398 (11.2)	2,415 (19.3)	3,083 (24.6)	721 (5.7)	2,159 (17.2)	2,749 (22.0)	12,525 (100)

第 8 表 29年度一般室閲覧冊数分類別調

(市図書館)

区 分	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	
	総 記	精神科学	歴史科学	社会科学	自然科学	工業	産業	美術	語学	文学	雑 誌		
館内	冊数 (%)	2,931 (6.9)	1,224 (2.9)	2,514 (5.9)	8,702 (20.5)	3,760 (8.9)	2,512 (5.9)	741 (1.7)	1,723 (4.1)	2,062 (4.9)	9,729 (23.0)	6,490 (15.3)	42,388 (100)
館外	冊数 (%)	1,386 (11.1)	408 (3.3)	289 (2.3)	1,115 (8.9)	206 (1.6)	337 (2.7)	138 (1.1)	444 (3.5)	151 (1.2)	8,051 (64.3)	—	12,525 (100)





第 11 編

# 保健衛生

---

1 医 療



## 第 11 編 保 健 衛 生

### 1 医 療

#### 保 健 の 概 況

医学の究極の理想は、高度の予防医学の達成にある。完璧の予防が行われたならば、少くとも伝染病は地上より消滅する。

医学者が夢に描くユートピアである。見果てぬ夢ではない、人類の叡智はいつの日かその理想に到達するであろう。

一寸でも、一分でも、例え眼に見えない進歩であつても、それに払われる努力は尊い。理想を目指して捨石にも等しいたゆみない研鑽は積まれている。

本市は、個人衛生の向上を伝染病予防の眼目として、強力に推進して来た。個人衛生の向上は必然的に環境衛生の改善に結びつく。蟻と蚊とネズミのいない街、それが本市の抱く理想である。この夢を実現するために本市は渾心の努力を傾けたい。

さて本市の医療施設の概況について述べて見ると病院数10、総収容能力数1,445人(昭和30年3月末現在)である。その内訳は、結核590、精神病178、伝染病69、その他である。尙戦後急造のブロック式若宮病院は29年度に2,700万円の経費をもち近代的伝染病院として改築された。又市立病院に病棟増築されたため28年度においては全病院の収容能力1,217名が1,445名と増加し、大いに利用価値を広めた。

なお医師分布状況を見ると、市民877名に1名、歯科医師で2,868名に1名という率になつている。

第 1 表 保健衛生機関及び従業者 (昭和30年3月末現在) (市保健所)

病 院	国 立	市 立	個 人	会社附属	社会福祉法人	計		
	1	2	4	2	1	10		
医療従事者	医師	歯科医	薬剤師	保健婦	助産婦	看護婦	鍼灸按摩	計
	229	70	163	32	138	383	75	1,090

第 2 表 医 師 分 布 状 況

昭和30年3月末現在

(市保健所)

区分	医 生					歯 科 医 生					計					
	衛生指導	診療所開設者	病院勤務	診療所勤務	その他	計	一人当世帯	一人当人口	衛生指導	診療所開設者	病院勤務	診療所勤務	その他	計	一人当世帯	一人当人口
総 数	4	118	105	2	229	187	877	1	66	3	—	70	612	2,868		
白川	—	9	9	—	18	155	690	—	10	—	—	10	278	1,242		
平林	—	2	—	—	2	1,139	5,023	—	2	—	—	2	1,139	5,023		
笹原	—	17	9	—	26	53	234	—	4	—	—	4	343	1,522		
明治	—	5	2	—	7	346	1,583	—	3	—	—	3	807	3,695		
中大	—	14	3	—	17	145	652	—	6	—	—	6	412	1,846		
友正	—	6	4	—	10	262	1,217	—	5	—	—	5	525	2,433		
官知	—	5	3	—	8	228	995	—	6	—	—	6	305	1,327		
三火	4	4	12	2	22	72	313	1	9	—	—	10	158	688		
川尻	—	5	5	—	10	242	1,033	—	4	1	—	5	483	2,065		
三川	—	2	27	—	29	56	253	—	1	1	—	2	807	3,663		
三里	—	11	1	—	12	212	958	—	3	—	—	3	847	3,832		
諏訪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
倉手	—	6	—	—	6	178	1,018	—	1	—	—	1	1,068	6,110		
上鎌	—	3	—	—	3	599	2,893	—	2	—	—	2	899	4,490		
銀内	—	2	—	—	2	354	2,006	—	—	—	—	—	—	—		
三水池	—	6	14	—	20	126	623	—	3	—	—	3	838	4,154		
北馬	—	7	2	—	9	332	1,693	—	1	—	—	1	2,990	15,249		
南馬	—	7	7	—	14	196	905	—	3	—	—	3	916	4,224		
笹原	—	3	—	—	3	703	3,379	—	1	—	—	1	2,109	10,136		
川原	—	2	7	—	9	284	1,408	—	1	1	—	2	1,285	6,338		
玉	—	2	—	—	2	465	2,377	—	1	—	—	1	930	4,753		

第 3 表 病 院 調

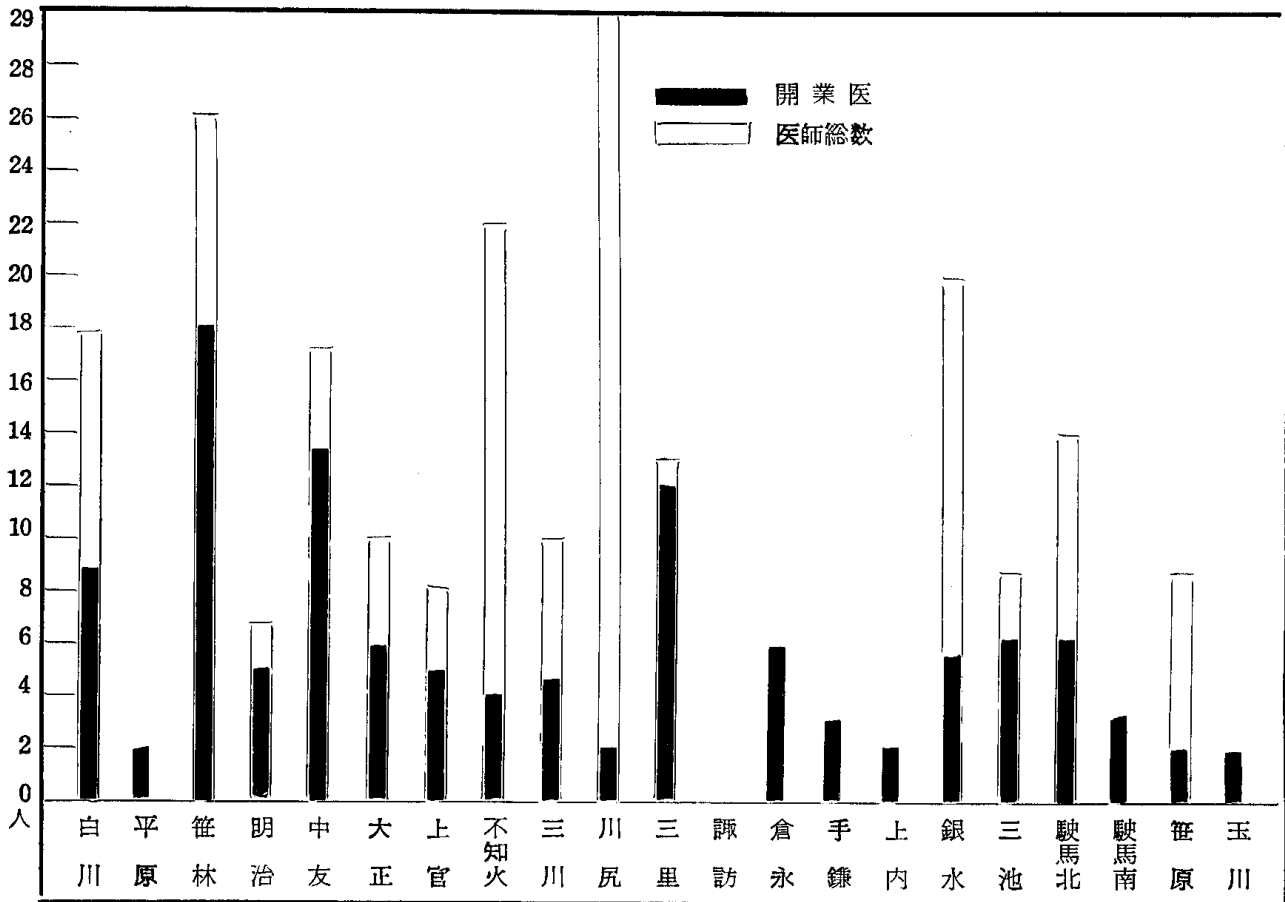
昭和 3 0 年 3 月 末

(市保健所)

区 分	所 在 地	院 長 名	設 立 年 月 日	種 別	専 門 科 目	収 容 能 力	医 師	看 護 婦 人	そ の 他
国立療養所 銀水園	大牟田市大字橋 1044の1	長岡研二	昭和19年5月	国立	内科、呼吸器科	547	12	74	51
大牟田市立若宮病院	〃 若宮町105	井上生二	昭和7年5月	市立	法定伝染病	69	2	3	9
大牟田市立病院	〃 不知火町3丁目4	二宮秀夫	昭和25年8月	〃	内科、小児科、外科、産婦人科、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚泌尿器科、眼科、レントゲン室	101	10	25	25
社会福祉法人 済生会大牟田病院	〃 大字田隈810	吉田 一	昭和8年3月	公益法人	内科、小児科、外科、理学診療科	114	5	12	18
三井三池鉱業所病院	〃 天領町1丁目100	相川春雄	昭和22年3月	会社附属	総合病院 内科、小児科、外科、眼科、皮膚泌尿科、耳鼻咽喉科、歯科	274	37	78	140
三井三池鉱業所 勝立分院	〃 大字西米生7006	吉川勝猪	昭和25年5月	〃	内科、小児科、外科、眼科、皮膚泌尿科、耳鼻咽喉科、歯科	23	8	18	20
大牟田 保養院	〃 大字川尻144	蓮沢孝義	昭和26年6月	個人	内科精神科、神経科	40	1	2	6
村 尾 病 院	〃 古町25	村尾信逸	昭和25年2月	〃	小児科、産婦人科	20	3	3	4
倉 永 病 院	〃 大字吉野	中山森太	昭和29年4月	〃	内科、精神科、神経科	64	2	3	9
三 池 保 養 院	〃 三池	富松 毅	昭和28年12月	〃	精神科、神経科	36	3	3	9

校 区 別 医 師 の 分 布 状 況

昭和 3 0 年 3 月 末



第 12 編

社会及び労働

---

- 1 社会事業
- 2 国民健康保険
- 3 労働
- 4 住宅



## 第 12 編 社 會

### 1 社会事業

#### 社会事業の概況

戦後、既に8年を過ぎ、国民生活水準は漸次向上したとはいえ、失業者は街にあふれ、生活保護世帯は次第に増加し、社会事業費は漸次上昇の傾向を示している。勿論これに対する根本的な救済は国家的見地からの基本的対策なくては到底万全を期し得ないのが現状であろうが、市でもこれらの対策には財政の許す限り、これの拡充強化を急いでいる。

本市の社会福祉行政は、福祉事務所と民生部社会課の2本建によつて処理され、福祉事務所では主に生活保護法、身体障害者福祉法、児童福祉法を中心として、貧困者の生活援護の第1線に立っている。

社会課ではその他の法外の援護を主体とした多種類の業務にわたっているが、重業な務は災害救助、引揚援護、遺族援護職業輔導、授産事業、家庭授産、更生資金、生業資金、母子福祉資金等の貸付、公益質屋、霊柩車、その他奨学資金の貸付等である。

#### 大牟田市養老院（吉野寮）

みよりのない不幸な老人達の安息所として、昭和22年3月31日小浜町に設立され昭和29年7月31日現在の野吉に移転したが、その後も漸次拡張しつつあり、ゆくゆくは建坪400坪、定員100名、の名実ともに老人の憩いのホームが完成する予定である。

#### 母子寮

家庭の中心者を失った母子家族の生活を指導し、援護するために、昭和23年7月1日市内小浜町に設立されたもので、建坪279.55坪、寮内には85名が生活している。

#### 保育所

普通の家庭の愛情にさへ恵まれない子供達を保育する施設で子供達は厳しい世相から暖く保護され、すくすくと育っている。

第 1 表 保 育 所 調 昭和29年4月1日 (市福祉事務所)

区分	保 育 所 名	所 在 地	保育児童数	区分	保 育 所 名	所 在 地	保育児童数
市立	鳥 塚保育所	鳥塚町	60	私立	白 鷺保育所	大字倉永鷺山	40
私立	二 葉 〃	大字唐船1431	100	〃	宮 浦 〃	新勝立町2丁目	121
〃	小 浜 〃	小浜町44	61	〃	四 山 〃	四山町58	170
〃	上 官 〃	上官町1丁目	65	〃	野 添 〃	下池町	60
〃	緑 〃	右京町45	73	〃	小 浜 〃	小浜町95	90
〃	三 池 〃	大字新町22	45	〃	新 港 〃	新港町6	40
〃	明 治 〃	中町2丁目18	45	〃	宮 原 〃	宮原町2丁目	86
〃	不知火 〃	三里町1丁目1040	50	〃	白 井 〃	米生町2丁目	50
〃	白 川 〃	鳥塚町106	60	〃	港務所 〃	新港町6	60
〃	小 鳩 〃	大字川尻251	30	〃	銀 水 〃	大字草木銀水社宅	40
〃	光円寺 〃	中浜田町9	56		計 21		1,402

註 市立の保育所は鳥塚保育所のみ

#### 授 産 所

##### 大牟田市共同作業所（市営）

有明町の市庁舎の東側にあつて、主に母子家族や生活困窮者の人達が、指導員1名、教師2名のもとに技術の指導えうけながら、一般市民に低料金で洋服の仕立、更生をしている。

##### 三池授産所（大牟田市民生委員会営）

三池町にあり。35坪の建物の中で、主にカマメ製造に従事している。（作業員5名）

第 2 表

生活保護法による保護状況

(市福祉事務所)

区 分	総 数	生活扶助	住宅扶助	教育扶助	医療扶助	そ の 他
昭和25年	世帯 8,973	世帯 5,673	世帯 412	世帯 1,492	世帯 1,288	世帯 114
26	18,051	8,018	2,893	4,583	2,393	164
27	21,482	9,423	3,248	5,365	3,247	199
28	35,297	13,477	199	7,660	9,000	328
29	50,471	18,032	21,482	11,116	13,464	344
昭和25年	人 23,740	人 17,611	人 1,365	人 3,172	人 1,478	人 114
26	50,698	27,303	9,872	9,408	3,951	164
27	60,716	33,790	12,106	10,500	4,121	199
28	96,763	56,371	19,304	14,805	11,955	328
29	145,786	73,254	32,512	21,798	17,878	344
昭和25年	千円 12,792	千円 8,957	千円 18	千円 415	千円 3,204	千円 196
26	28,761	16,693	340	2,400	9,049	276
27	45,243	22,847	781	3,289	17,946	378
28	67,499	33,842	1,611	4,057	27,308	678
29	103,405	49,795	3,261	6,959	42,628	761

第 3 表

校 区 別 身 体 障 害 者 数

昭和31年1月31日現在

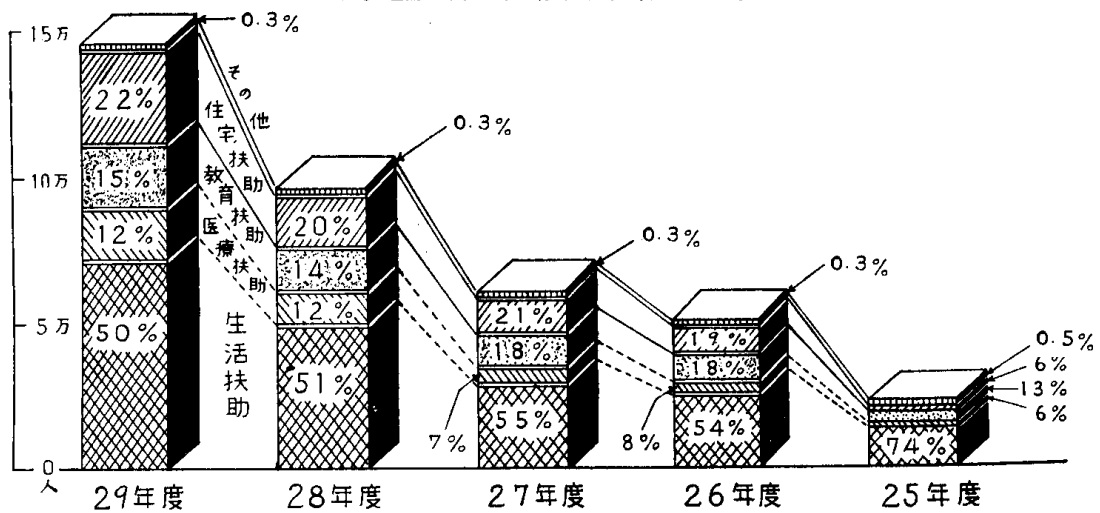
( )内は18才未満の児童

(市福祉事務所)

区 分	視覚障害	聴覚障害	言語機能障害	肢 体 不 自 由				総 計
				上 肢	下 肢	体 幹	小 計	
総 数	195 (1)	23 (8)	88(31)	236 (5)	335(22)	185(35)	778 (62)	1,084(102)
大 正	11	2 (1)	7 (4)	18	14 (2)	6	38 (2)	58 (7)
中 友	13	—	1	11 (1)	18 (2)	12 (2)	41 (5)	55 (5)
笹 林	3	—	2	7	6	5	18	23
明 治	13	1	6 (1)	15	17 (3)	9 (1)	41 (4)	61 (5)
白 川	13	1	6 (2)	17 (1)	24 (1)	18 (6)	59 (8)	79(10)
平 原	11	6 (1)	5 (2)	9	26	6	41	63 (3)
上 官	11	1	5	12 (1)	10	10 (1)	32 (2)	49 (2)
諏 訪	6	—	—	8	15 (2)	5	28 (2)	34 (2)
川 尻	5	—	4 (2)	10	7	7	24	33 (2)
不 知 火	12 (1)	—	1	9	11	4 (1)	24 (1)	37 (2)
銀 水	9	2 (1)	6 (3)	12	12 (2)	10	34 (2)	51 (6)
倉 永	3	—	3 (3)	7 (1)	11	4 (1)	22 (2)	28 (5)
上 内	3	—	1 (1)	4	7	1	12	16 (1)
手 鎌	3	—	3 (2)	4	9 (1)	6 (1)	19 (2)	25 (4)
駛 馬 南	14	1	7 (4)	14	16	7	37	59 (4)
駛 馬 北	10	1	2	12	16 (2)	10 (3)	38 (5)	51 (5)
笹 原	9	3 (2)	2 (1)	15 (1)	28 (2)	21(10)	64(13)	78(16)
天 道	1	—	—	2	6	3	11	12
三 池	3	1	3 (2)	4	14	2 (1)	20 (1)	27 (3)
高 取	7	3 (3)	4 (1)	11	7	6 (1)	24 (1)	38 (5)
三 川	5	—	7	7	16 (1)	5 (1)	28 (2)	40 (2)
三 里	25	1	11 (3)	21	56 (2)	26 (6)	103 (8)	140(11)
玉 川	5	—	2	7	11 (2)	2	20 (2)	27 (2)



年度別生活保護受給者状況



第4表 公益質屋事業状況 (市社会課)

区分	貸付		回収		利子	貸付金月末高
	口数	金額	口数	金額		
総数	12,103	13,970千円	12,222	13,851千円	1,791千円	61,270千円
昭和29年4月	1,003	1,149	625	618	62	5,292
5	854	998	685	752	84	5,538
6	979	1,097	868	975	118	5,661
7	930	1,043	888	993	119	5,710
8	880	912	905	969	133	5,653
9	1,042	1,141	1,410	1,779	261	5,015
10	1,708	2,190	1,659	2,074	315	5,131
11	998	1,169	1,261	1,301	209	5,000
12	946	1,099	1,693	1,872	193	4,226
昭和30年1月	722	855	534	627	62	4,453
2	877	1,014	655	764	87	4,703
3	1,164	1,297	1,039	1,121	143	4,880

2 国民健康保険

国保の概況

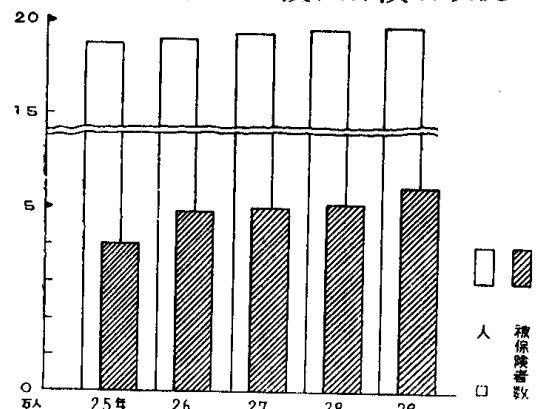
市の国民健康保険は、昭和19年4月1日普通国民健康保険の設立により、事業を開始、戦時下、終戦後の世相の混乱により組合員の異動が甚しく、昭和20、21年には加入者数も激減、事業も極度の不振に陥り、遂に中止し、その後昭和22年7月に国民健康保険法の一部改正を契機として市民の間に本事業再開の要望が澎湃として起り、医師会、歯科医師会の強力な援助もあつて、昭和25年4月1日から市営事業として新しく発足することになったのである。昭和27年度に到り、全国的に受診率大巾上昇をみ、国保財政の危機のなが叫ばれたが、本市は苦しいながらも、保険料の値上や給付範囲の縮小等保険運営の目的に逆行するような手段を講ぜず、この苦難の年を乗切つて来たのである。

昭和28年度に到り全国保険者が従来から展開してきた猛烈な運動の結果、中央においても本制度の民生安定に与える重要性を充分認識され療養給付費に対する二割の国庫助成金の実現をみ、今まで涸渇した財政にうるおいを与えるとともに前途に一大光明を見出したのである。

昭和29年度には従来の保険料を保険税に切替え、本業事に対する被保険者の認識を新にすると共に社会保障制度の基礎をなす本事業の使命達成のための基礎を固めたのである。

しかし昭和28年12月に行われた社会保険診療報酬点数の改正、抗生物質等の高価薬の出廻り、受診率の上昇、長期入院患者の増加等は国保財政を次第に窮地に追込み遂に昭和29年度において300万の赤字を生ずる結果となつたのである。今なお医療費は慢性的に増嵩の一途を辿つているので本市国保事業の前途は益々多事多難といわねばならない。

年次別国民健康保険被保険者状況



第 5 表 年次別国民健康保険加入状況 (市国民健康保険課)

区 分	加 入 者	加 入 世 帯	人口に対す 加入者率	総世帯に対す る加入世帯率
昭和25年	4 0, 3 1 3	1 0, 1 3 0	21.3%	25.4%
26	4 9, 7 9 9	1 2, 1 3 2	26.0	29.8
27	5 0, 9 6 1	1 2, 2 3 1	26.1	29.4
28	5 2, 0 3 9	1 2, 4 6 2	26.5	30.0
29	6 2, 8 7 5	1 6, 3 1 6	31.6	38.7

第 6 表 年次別国民健康保険給付状況 単位千円 (市国民健康保険課)

区 分	総 数	診 療				療養費	助産費	葬 祭 費
		総 数	一 般 診 療		歯科診療			
			入 院	入院外				
昭和26年	千円 43,205	千円 41,383	千円 7,213	千円 28,245	千円 5,924	千円 884	千円 499	千円 438
27	60,944	58,794	12,851	38,841	7,101	1,304	392	452
28	71,527	69,681	18,316	42,598	8,765	1,085	358	402
29	97,579	94,547	30,795	52,455	11,296	2,181	373	477

註 千円未満は切捨てたので必ずしも総数と合致しない。

第 7 表 一世帯に対する国民健康保険の給付の状況

(市国民健康保険課)

区 分	市が負担す る給付費用(A)	保 險 税	国庫補助金	一般会計繰入金	計(B)	(B)-(A)	市負担の 給付額
昭和26年度	円 2,185	円 1,913	円 —	円 669	円 2,582	円 397	千円 22,143
27	2,496	1,885	78	610	2,573	77	30,894
28	2,906	1,976	975	603	3,554	648	36,144
29	3,026	1,878	726	573	3,177	151	47,999

### 3 労 働

第 8 表 失業対策事業就労状況

(市労働課)

区 分	失業対策事業適格者延数			就 労 延 人 員			月間一人当 り稼働日数
	計	男	女	計	市	県	
昭和25年	8,358	4,139	4,219	156,579	130,137	11,841	18.4
26	16,154	7,847	8,307	305,653	235,156	70,497	19.5
27	19,478	9,748	9,730	361,082	261,969	99,115	18.5
28	25,318	12,564	12,754	504,590	301,789	202,801	19.9
29	36,801	18,814	17,987	786,753	430,693	356,060	21.3

第 9 表 失業対策事業費の支出状況

(市労働課)

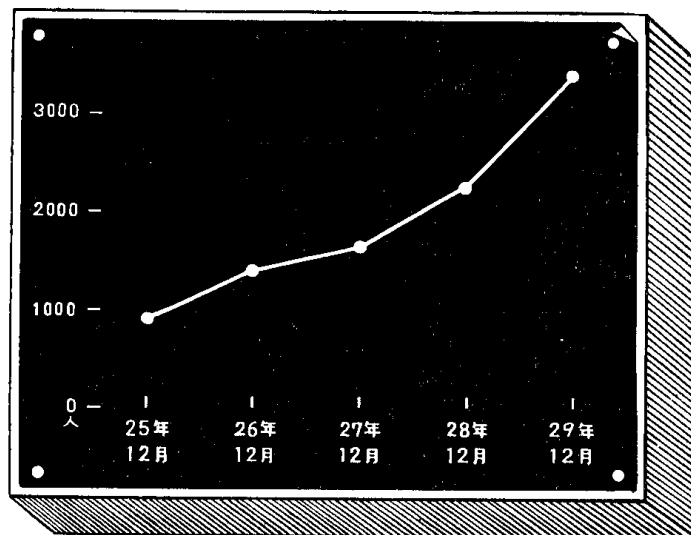
区 分	失 業 対 策 事 業 費			国及び県の支出額	国及び県の負担率
	基本事業費	超過負担額	合 計		
昭和26年	千円 47,815	千円 6,303	千円 54,118	千円 31,429	58%
27	58,662	23,714	82,376	38,730	47
28	82,420	20,652	103,629	53,473	51
29	135,859	21,208	157,067	86,392	55

第 10 表 市税に占める失業対策事業費市費負担状況

(市労働課)

区 分	市 税	失 業 対 策 事 業 費			市税の失対費に 対する負担率
		基本事業費の 市義務負担額	超過負担額	合 計	
昭和26年	620,171	千円 16,381	千円 5,939	千円 22,320	3.6%
27	724,539	19,931	23,714	43,645	6.0
28	656,625	29,008	18,902	47,910	6.2
29	656,163	49,625	21,208	70,833	10.7

増加する失業対策事業の就労者



第 11 表 職業紹介状況 (日雇)

(大牟田職業安定所)

区分	求 人			求 職			就 職			求職に対する就職率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
計	509,877	458,704	968,581	608,666	565,249	1,174,915	508,439	457,938	966,377	83.4%	81.0%	82.2%
29年1月	22,302	20,636	42,938	28,165	26,721	54,886	22,285	20,608	42,893	79.1%	77.1%	78.1%
2	24,449	23,239	47,688	28,940	28,167	57,107	24,306	23,172	47,478	84.0%	82.3%	83.1%
3	34,113	30,323	64,436	36,801	33,753	70,554	33,724	30,196	63,920	91.6%	89.5%	90.6%
4	29,846	26,629	56,475	35,577	32,767	68,344	29,780	26,576	56,356	83.7%	81.1%	82.5%
5	29,472	26,256	55,722	35,500	33,111	68,611	29,371	26,156	55,527	82.7%	79.0%	80.9%
6	29,307	25,682	54,989	38,103	36,684	74,787	29,296	25,660	54,956	76.9%	69.9%	73.5%
7	32,918	36,227	63,145	40,528	39,424	79,952	32,911	30,214	63,125	81.2%	76.6%	79.0%
8	35,648	34,322	69,970	37,491	35,836	73,327	35,628	34,303	69,931	95.0%	95.7%	95.4%
9	30,317	27,768	58,085	40,994	38,505	79,499	30,295	27,753	58,048	73.9%	72.1%	73.0%
10	33,344	30,389	63,733	42,406	39,998	82,404	33,322	30,369	63,691	78.6%	75.9%	77.3%
11	35,087	30,635	65,722	45,613	41,505	87,118	35,015	30,598	65,613	76.8%	73.7%	75.3%
12	47,508	43,719	91,227	48,284	44,520	92,804	47,273	43,569	90,842	97.9%	97.9%	97.9%
30年1月	38,935	34,546	73,481	46,968	42,703	89,671	38,851	34,480	73,331	82.7%	80.7%	81.8%
2	40,938	35,179	76,117	47,933	42,534	90,467	40,744	35,151	75,895	85.0%	82.6%	83.9%
3	45,693	39,160	84,853	55,363	49,024	105,387	45,638	39,133	84,771	82.4%	79.8%	80.4%

第 12 表

職業紹介状況 (常備)

(大牟田職業安定所)

区 分	求 人			求 職			就 職			求職に対する就職率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
総数	2,762	1,893	4,655	9,925	5,631	15,556	1,781	1,333	3,114	17.9	23.6	20.7
29年 1月	357	175	532	882	356	1,238	83	51	134	9.4	14.3	10.8
2	327	104	431	591	421	1,012	121	79	200	20.5	18.8	19.8
3	262	129	391	687	439	1,126	268	88	356	39.0	20.0	31.6
4	185	110	295	767	338	1,105	116	63	179	15.1	18.6	16.2
5	167	99	266	563	346	909	80	46	126	14.2	13.3	13.9
6	108	74	182	746	419	1,165	69	48	117	9.2	11.5	10.0
7	190	118	308	800	455	1,255	141	67	208	17.0	14.7	16.6
8	148	84	232	725	395	1,120	146	102	248	20.1	25.8	22.1
9	127	111	238	628	386	1,014	105	76	181	16.7	19.7	17.9
10	117	119	236	601	329	930	97	76	173	16.1	23.1	18.6
11	74	147	221	516	293	809	68	124	192	13.2	42.3	23.7
12	85	161	246	650	328	978	96	157	253	14.8	47.9	25.9
30年 1月	250	171	421	652	483	1,135	81	104	185	12.4	21.5	16.3
2	155	134	289	576	327	903	108	127	235	18.8	38.8	26.0
3	210	157	367	541	316	857	202	125	327	37.3	39.6	38.2

第 13 表

労働組合調(市内に主たる事務所を有するもの)

昭和 29 年 4 月 末

(労政事務所)

区 分	組合数	組合員数	区 分	組合数	組合員数
鉱 業	2	18,357	金 融 業	1	147
化 学 工 業	7	9,982	国 家 公 務	2	52
第 1 次 金 属 製 造 業	1	2,096	地 方 公 務 (教 育)	2	1,257
そ の 他 の 製 造 業	2	185	地 方 公 務	5	1,526
卸 売 及 び 小 売 業	3	253	水 道 事 業	1	164
熱 光 及 び 動 力 共 給 業	8	1,657	非 営 利 的 団 体	1	12
鉄 道 業	2	452	自 由 労 組	1	2,506
そ の 他 の 運 輸 業	3	299			
通 信 業	3	362	計	44	39,337

第 14 表 昭和29年労働争議の状況 (市内に主たる事務所を有するもの)  
(労政事務所)

区 分	総 争 議		争議行為を伴つたもの		争議行為を伴わないもの		争議行為を伴わないもの	
	件 数	参加人員	同 盟 罷 業		同 盟 怠 業		件 数	参加人員
			件 数	参加人員	件 数	参加人員		
総 数	36	89,664	11	107,723	17	24,630	17	57,339
昭和29年1月	1	14	1	83	1	14		
2								
3	4	19,115	3	105,826	4	17,225		
4	3	6,040			2	2,200	1	1,137
5	3	3,051	1	76	2	2,050		
6	5	3,867	2	1,225	3	816	1	950
7	2	18,296					2	18,296
8	1	926					1	926
9		—						
10	4	6,415					4	6,415
11	4	6,136					4	6,136
12	9	25,804	4	513	5	2,325	4	23,479

争議形態別の件数、参加人員の合計は総数と一致しない。これは同月間、同一争議が2種の形態を保つた場合、各形態毎に集計し、総計欄においては1件とし、各形態の参加人員は直接参加したものの延人員をもつて表はし、総計は争議参加組合員数を以て表はしているからである。

なお争議が2ヶ月以上にわたる場合は、解決した月に表はし、作業停止継続時間4時間未満の同盟罷業は同盟怠業に含めて分類している。

## 4 住 宅

第 15 表 昭和20年～29年市営宅建設状況 (市建設部建築課)

区 分	第 一 種 住 宅		第 二 種 住 宅		一 般 住 宅		計 (戸数)
	戸 数	家 賃	戸 数	家 賃	戸 数	家 賃	
総 数	1,104	—	554	—	65	—	
昭和20年	—	—	416	90	—	—	416
22	360	{ 200 300	—	—	—	—	360
23	60	500	—	—	—	—	60
24	120	750	—	—	23	{ 200 100	143
25	147	850	—	—	22	{ 500 400	169
26	90	1,000	10	650	5	500	105
27	93	{ 2,300 1,100	20	650	5	500	118
28	146	{ 2,100 1,500	40	850	10	500	196
29	88	{ 2,000 1,600	68	{ 1,300 900	—	—	156

註 (昭和20年建設は452戸でめるが、うち36戸は不良住宅地区改造実施その他により払下げ解体したもので、本表には含まれていない)



第 13 編

観 光

---

観光の概況

- 1 名勝史蹟
- 2 レクレー  
ション・公園
- 3 年中行事
- 4 名産及び  
おみやげもの
- 5 産業観光





## 第 13 編 観 光

### 観 光 概 況

大牟田市は福岡県の南端、有明海をひかえ、はるか雲仙を望み、三池炭坑を母体とする、重化学工業地帯で、巨大な近代生産設備、林立する煙突、生産にいとむ逼しい勤労者の群は、立体的な偉観を放つている。特に働く人達の憩の場所、レクリエーション設備は働く市民の要望と共に新しい観光の断面を開拓している様だ。

その外、最近では郷土の文化財に関心が高まると共に、熱心な郷土史家を中心として、かくれた貴重な史蹟や文化財が続々明るみに出され、市の観光面に更に威力を加えている。

### 1 名 勝 史 蹟

#### 普 光 寺

市の東部、三池山の中腹にあり、三池中納言、源師親の発願による弘仁14年の建立と伝えられ、天正年間兵火に逢うが、慶長年間柳川城主田中吉政の助力を得て再興、21世、寺齡千百年に及ぶ。本尊千手観音菩薩のほか大師の作といわれる薬師如来を安置している。境内は眺望開濶、前庭には樹齡7百年の紅梅が長蛇の様に地上を這い「臥龍梅」と称して名木の誉が高い。附近には千数百本の白梅があり、初春の頃は遊覧客がすこぶる多い。

#### 法雲寺 (18羅漢)

市の北部、倉永青龍山麓にあり、寺内にある18羅漢は貞享3年、唐の遊君亨の作で、その彫りは真に迫り、生氣躍動の観がある。なおこの附近一帯から参道にかけて杉並木や椿が多く、池畔の竹林も又一しお美しい。

#### 萩の尾穴観音

市の東南約5軒、玉川萩尾にあり、桜におおわれた小高い丘が萩尾弁天山と呼ばれ、ここに一大巖窟の横穴式装飾古墳があつて、中に観音像が安置されている。

この塚穴は筑後で最も大きい古墳の一つで、高さ3間、周囲は25間にも達し、玄室は前室と主室とからなり、主室には石棚があり壁には朱で文様が施されている。

石組構築の見事さ又文様の施されている点等、特に貴重な文化財で、市では重要文化財指定申請中。

#### めがね橋

市の南西約3軒、合成町にあり、延宝2年三池藩が大牟田地方のかんがい為につくつた早鐘山の谷の一大溜池を完全に配水するため水路を高くして通すこととし、大牟田川の上流に架けたもので、我が国最古の水路用の眼鏡橋として、当時の水利土木の貴重な資料である。今では早鐘池も眼鏡橋も完全にその任務を果たして、史蹟として当時の面影を残している。

#### 宮の原天満宮

市内宮の原町にあり、承平3年の建立で祭神は菅原道真公を祭り、春秋二回のうそ替へ祭は有名である。

昔の境内と思われる所に石層の塔がある。一つは貞和6年の造立でガランサンと呼ばれ、一つは貞和7年ウキンサンと呼ばれているが、共に完全な原形を留めていないが、それに刻まれた絵画、歌、彫又等は得がたい貴重な文化財である。

#### 倉永甘木山古墳

市の北部、西鉄倉永駅の西部の丘陵、甘木山から黒崎に至る一帯にかけて10数箇の堅穴古墳群がある。

その古墳の石壁の一部に陰刻文様のあるものが発見され実に珍重すべき重要な文化資料として注目されている。

#### 三 池 町

三池町の歴史は極めて古く、日本書紀をみても既に当時の筑後の中心であつたことがわかるが、その古い歴史とともに、三池町は幾多の伝説、史蹟に恵まれ、静かな平和な街として独特の雰囲気をもっている。

#### 高田行宮址

景行天皇の18年、天皇が熊襲親征の帰途立寄られた場所で、当時長さ970丈の櫓のあつたことは日本書紀にも記されており、警国当時の物語りがなくかしくしのばれる

## 典太屋敷址

白川天皇の承保の頃、日本一の名刀匠三池典太光世の屋敷址があり、ここには典太をめぐるいろいろの神秘的な伝説が残され伝えられている。

## 紹運寺

三池藩主立花家の菩提寺として、藩祖高橋紹運の位牌を安置したもので、境内には三池藩歴代の墓があり、古い封建時代の名残を留めている。

## 三池城舞鶴城址

三池町の東方、三池山の山頂に三池神社があり、谷を隔てて茶臼塚の大古墳がある。  
舞鶴城は三池神社の後方にあり現在では巨岩が埋没し、大石の重なったものだけが残つて山城としてつわもの共の夢のあとの名残を留めている。

## 劫月院址

弘仁2年の建立で、虚無僧寺の九州の触頭として有名であつた。ここは暹料の寺といつて、ここに入つた人は役人の手も及ばぬ治外法権が与えられていた。  
現在は小さい祠と石蔵さびしく立っている。その他、立花公館跡、藩士屋敷、火薬庫、武道場、三池宿駅を初め色々の伝説をもつた寺、神社等がすこぶる多い。

## 不知火

陰曆7月15日及び大晦日の夜中より明方にかけて市の西方有明海上の水平線に現われ、昔から神秘的な存在としてたくさんの伝説を残し、今なおその実体は神秘的な謎となつている。

## 2 レクリエーション 公園

### 延命公園

駅から約10分、市の中心部にある面積約6万坪の3つの小

山からなる丘陵地で自然林に包まれ、山あり、谷あり、泉ありという市民の誇る一大オアシス、頂上からの展望は市内を一望に見下す外、遠くは天草、雲仙、阿蘇の連山をはるかに望む絶景が展けている。なお公園内には動物園、レスリング、競技場がある。

### 黒崎公園

市の北西部、有明海に突き出た岬で、山海の景勝を満喫する名勝地である。山頂からは遠く筑後平野と有明海が一望にひらけ、園内には王垂宮があり、碑、塔があり、春には全山桜に包まれ遊覧者が多い。

### 甘木山公園

260尺の自然丘陵を公園化したもので、広場、展望所、子供の遊戯施設等を備え、雄大な眺望と史蹟に富む。

### 海水浴

三池港の外港東側の有明海浜の砂浜地で、船舶の出入りを左手に見ながら正面に雲仙の連山を望み、まことに恵まれた海水浴場で、市民はもとより各地の人々から親しまれている。

### 潮干狩

市の有明海沿岸一帯は、全国でも有名な潮干狩の好適地で数10種に及ぶ名産を生み出している。

### ハインキグコース

大間山、甘木山、三池山、高取山等の各ハイキングコースが続々開拓されハイキング道路も次々に完成して楽しい家族づれの健全なレクリエーションとして市民に親しまれている。

## 3 年中行事

○虚空蔵祭 (旧2月13日、9月13日)

県堺の海拔56メートルの四山山頂の四山神社の例祭で、

毎年春秋二回行われ、商業の神様として近郊よりの参拝者がすこぶる多い。祭神は高皇産巢日神、天御中主神、豊玉姫命。

### 駿馬天満宮祭 (2月25日、10月10日)

市内の宮原にあり、菅原道真を祭る、春秋の「うそ替へ祭り」は古い歴史と共に盛況である。

### 三池市 (3月1日)

三池町と共に極めて古くから続いた田結のある市で、農具、植木などは特に有名で、近郊近村の人々が集り、雑踏を極める。

### 金比羅祭 (3月10日、10月10日)

市の中心、五月橋に近い高台の銀杏の大樹のもとに、金比羅神社がある。祭神は大物主神、大己貴命ニギ御璽、崇徳上皇。春秋2回の祭りには、老幼男女が押し寄せ、さしもの高い石段も身動もできない人出で、大牟田川に臨んで打ち上げられる花火は一しお美しい。

### 二十日市 (3月20日、10月20日)

昭和26年3月に商工会議所の肝入りで創設され、年2回、蛸びす神社のお祭りと同時に市内全商店の出店が道路上まで立ち並び、演藝の催しもあり、市内及び周辺の人々でごつた返す。

### 炭都まつり (5月上旬)

市の代表する年中行事の一つで、全市をあげてのお祭り、この日ばかりは全市民が浮かれだし、街には仮装、演藝隊がねり歩き、市の全施設をあげて、いろいろの催しが行なはれる。

### 大牟田神社例祭 (5月16日)

市の繁華街にあり、鹿島大神、手置帆須命、彦狭知命を祀る。通称ビシヤモンサンで有名。繁華街の氏神として

その祭礼は大いににぎわう。

### 三川祇園祭 (旧6月13日)

### 大牟田・三池祇園祭 (7月13日)

炭都大牟田市の夏はこの祭りから皮切りされる。高さ2間、長さ7間に及ぶ三池山伝説の大蛇が火を吹いて市内をのし歩く姿は壮観である。若者の粋な法被姿、大鼓、笛など夏の情緒をよびさます夏祭である。

### 農民祭 (10月中旬)

豊かな秋の収穫を前に、稔りの秋を祝い、自然の恵みを感謝し、力強く明日への勤労を誓う百姓さん方のお祭りで、昭和30年に第1回祭典を開いた。

案山子、藝能コンクールを始め、いろいろの品評会がある。

### 市民文化祭 (11月上旬)

秋の藝能シーズン、文化の日を中心として、郷土の文化陣を動員して、市民藝術の絵巻をくりひろげるもので、演劇、川柳、音楽等種々の催しが行われる。

## 4 名産及びおみやげもの

### 蒲 鉾

有明海産の魚を材料とし、業者の熱心な熱意と努力により、大牟田の蒲鉾は業界でも好評で、販路も広い。

### 越山餅

古い歴史の炭都の銘菓として、各地にその名を知られている

### かすてら饅頭

明治28年の創始という、大牟田と共に生れた独特の饅頭

で、品質、風味ともに我が国最高級の銘菓として全国にその名を響かせている。

### 不知火羊かん

創業40年、佐賀名物小城羊かんに改良を加へた名物羊かんで、お茶にマッチする特別の風味をもっている。

### 初 島

有明海の世紀の人工島、初島にあやかり命名された銘菓で、その舌ざわりと風味は広く賞賛されている。

### 四ツ山漬

有明海の特産「たいらき」の貝柱を酒の粕につけたもので、広く日本中にその名が知られている。

### 石炭人形

石炭のピッチで作った黒光りする炭都独特の人形、次第に全国にその名が知られつつある。

## 5 産 業 観 光

### 三井鉱山株式会社 三池鉱業所

大牟田市は石炭と共に生れ、石炭と共に発展していった街である。

鉱区12、500万坪、埋蔵量は10億トンで東は三池山から西は有明海底深く展開している。炭層は9層で、稼働できるのは3層のみである。層高1、5～7、6メートル、平均2、47メートル、採掘は山の手から西の有明海に進められ、宮の浦、四ツ山、三川の3坑が現在活動している。今日ではすべてが機械化され、その合理的な機械設備は日本一と言われている。炭質は強粘結性で長火焰、発熱量高く、ガス分に富み且つ夾雑物が少ないので、汽罐用やガス、コークス造用製に適し、特に鍛治用炭としてはその比を見ない品質をもっている。

### 人工島初島

採掘が有明海深くのびて、その通風のために世界で始めて海上に築島されたもので、陸地から2、500メートルの沖合にあつて、海面から約3メートルの高さ、直径134メートル、面積4、265坪の小島である。

### 三井鉱山株式会社 三池製作所

明治15年炭鉱用機械の修理工場として発足したのが前身で、次第に拡張し炭鉱用機械は勿論、化学工業、電気、船舶用機械にまで及んでいる。

### 三井鉱山株式会社 三池港務所

三池炭の海上輸送として、明治41年に三池港が竣工したが、現在東南アジア貿易の活況とともに、更に時代の脚光をあびている。

### 三井化学工業株式会社三池染料工業所

三池染料工業所は敷地100万坪、建坪11万坪、従業員4、200名を有する三井化学工業株式会社の主力工場である。明治25年三井鉱山の1事業所としてコークス炉を建設したのに始まり、拡張の一途をたどり、昭和16年三井鉱山からの化学部門の分離独立と共に新発足して今日に至っている。永年の伝統と、熟練した技術により、原料石炭から最終製品に至る迄一貫して大量生産を行っているが主要製品はインヂゴ、硫化黒、スレン等の各種染料、石炭酸、アニリン等の中間物、アスピリン、サリチル酸等の医薬品、B H C、クロールピクリン等の農業薬品、爆薬T N T、コークス及び副産物等石炭より出発するタール系有機合成化学製品の全般に及び、これらの生産に必要な硫酸、苛性ソーダ、塩素等の原料もその大部分を自家製造でまかない、生産額は市販品のみで、月7億円以上に上っている。

更にアセチレンより出発する塩化ビニール等のアセチレ

ン系有機合成化学の新分野にも進出し、当社の飛躍的發展は期して俟つべきものがある。

## 東洋高圧工業株式会社 大牟田工業所

東洋高圧の主力工場であつて、大浦と横須の2工場に分れているが、三井鉱山の石炭、三井化学、三池合成のコークス、原料ガスが有利に入手出来るなどの立地条件に恵まれて、硫酸、尿素を製造している。

大浦工場はコークスから水性ガスを作り、転化装置で一酸化炭素を水素に換え、1,000気圧に圧縮して液体アンモニアを合成する。又二部合成では、三池合成工場から分解ガスを受け水素をとり、一方空気を液化分離してとつた窒素を混合し、液体アンモニアを合成する。

横須工場では、硫酸を作り、4軒離れた大浦工場からパイプで送られるアンモニアガスと化合させて硫酸を製造し、また、液体アンモニアと炭酸ガスから尿素を合成している。硫酸は当社の主要製品であつて、遊離酸が少なく中性硫酸として親しまれ、日本全土はもとより遠く朝鮮、台湾、香港、比島までも輸出され、年産353,800吨で僅に全国生産量の1割3分に達している。又尿素は25年から製造を始め全国生産の96%を占め、これまた、ハワイ、比島、アフリカ、台湾方面に積出され、27年には、粒状尿素の生産を開始、「尿素時代」の現出に先鞭をつけた。

この外液安、硫酸、硝酸、タメノール等の製品がある。

## 三池合成工業株式会社 三池工場

当社は昭和十二年三井鉱山株式会社がフィッシャー法による人造石油製造のパイロット工場とし建設され、昭和十五年我国で初めての合成石油の製造に成功したが、終戦と共に人造石油の製造を廃し、隣接東洋高圧社へ硫酸製造用原料ガス、コークスの供給並に各種化学工業品の製造を目的として、昭和二十一年七月第二会社として現

在の会社を設立、今日に至つている。当社の事業はコックス式複式循環コークス炉及びメタン分解炉によるコークス及び硫酸原料用分解ガスの製造並にタール、ベンゾール系製品その他化学工業品の製造、加工、販売を目的とするが、更に無水フタル酸クマロン樹脂、尿素樹脂塗料（ミケラツク）、ソープレスソープ（ミケソープ）等の新製品の生産も開始している。

主要生産品 コークス、水素ガス◇タール系製品◇ベンゾール系製品◇カーボンブラツク（三池カーボン二〇号）◇硫黄◇無水フタル酸◇クロマン樹脂◇尿素系合成樹脂塗料（ミケラツク）◇ソープレスソープ（ミケソープ）その他化学工業品

## 電気化学工業株式会社 大牟田工場

大牟田港の北側にあり、敷地12万4千坪。大正5年12月の設立。空中窒素を固定して製造する石灰窒素、カーバイト、セメントなどが主な製品である。石灰窒素は、人も知る効力優秀な肥料であるが、カーバイトと窒素の化合物であつて、電化のそれは窒素20~24%、石灰60%の外10%以上の炭素を含みこの製造には、電化の名称通り総て電気がなくてはならない。

カーバイト製造用電気炉に16,500KWの「ゼーデルベルグ」自焼連続式電極を取り入れ、また、石灰窒素製造用の窒化炉は、反応温度保持に電力のいらぬ電化式を用い、空中窒素の分離機は自家製であり、アセチレンブラツクの製造には、当工場独自の方法を探つているなど幾多の特色を有し、カーバイト、石灰窒素ともに月産3,500トン、アセチレンブラツクは100トンで、セメントの月産能力24,000トンという、この種産業では、関西最大の工場である。

製品は、石灰窒素、軍配肥料、玉窒素、カーバイト、醋酸、セメント、アセチレンブラツク等である。

## 九州電力港発電所

当発電所は昭和6年7月、三井鉱山の自家用発電所として三池港頭に建設されたのに始まり、第1第2の両発電所がある。

昭年10年5月、三井の経営から離れて独立、九州共同火力発電会社となつたが、4年後には九州火力次いで20年日本発送電に合併され、更に今日の九州電力会社となつた。

三池炭鉱の石炭を基盤とする市内の旧三井系、諸事業場が拡大発展するにつれ、電力の需要も増大するので、当社も順次拡張を続けて来たが、昭和15年、5万4千KW出力を目指し、元九州火力港（第1）発電所の第5期拡充工事に着手、太平洋戦争による資材難、労力不足などの困難に逢い、着工以来7年を経て22年漸く完工したのが、いわゆる港第2発電所である。

運転開始は翌23年であつて、更に出力倍加の拡張を行い現在では出力10万8千キロの設備となり、10万6千キロの第1発電所を合せると優に21万4千KWに達するのである言うまでもなく、当所は発電能率も全国第1級に属し、全九州に於ける発電量の21、62%、火力発電総力の40、57%を占め、九州重要電源の一つとして、一般国民はもとより、大小工業に果す功績は大きく、電力界に大なる存在となつている。

(新港町1)

## 三井金属鉱業株式会社 三池製煉所

大正3年1月、三井神岡鉱山附属大牟田亜鉛製煉所として発足し、神岡の亜鉛鉱蒸餾操業を開始した。

昭和25年5月、三井鉱山から分離神岡鉱業株式会社となり、昭和26年10月よりその資本金12億円。27年12月更に転じてその名称を今日に改称している。

同所の亜鉛製煉は、もと蒸餾法だけであつたが、昭和11年から電気製煉法を取り入れ、兩法を併用している。

更に、最近亜鉛鉱滓の処理工場を完成、銅、金、銀を回収すると共に、亜鉛の増産に拍車をかけている。

しかし、この蒸餾亜鉛製煉設備は水平式であるため多数の熟練工が必要である。人件費の節減と高採収率による低コスト生産を図るため堅型蒸餾炉4基を、銀水工場に据着け、昭和29年から操業を開始し、将来は8基まで増炉する計画であるから、これが完成すると、亜地鉛金はこの堅型蒸餾炉だけで年間約1万2千トン生産されることになる。

なお29年度中の当所生産状況は、蒸餾亜鉛地金 (MMC) 水平式16982、堅型5、426トン、蒸餾亜鉛末 2、735トン 電気亜鉛地金 (EMC) 7、049、金属カドミウム30トン 硫酸 (98%) 30、858トン亜鉛板3、258トン1号亜鉛華 1、007トン、耐火煉瓦3、620トン

# 附 録

---

- 1 官 公 衙
- 2 議 員
- 3 教 育
- 4 運 輸 通 信
- 5 銀 行
- 6 新 聞 社
- 7 団 体
- 8 主要事業所案内
- 9 九州都市一覽





附 録

1 名 簿 編

1 官 公 署

昭和 31 年 1 月 1 日 現在

名 称	所 在 地	電話番号	役 職 名	氏 名
大 牟 田 市 役 所	大牟田市有明町36番地	4221	市 長	細 谷 治 嘉
			助 役	坪 沼 寿 義
			収 入 役	猿 渡 清一郎
		4101	秘 書 室 長	藤 木 功
		4117	会 計 課 長	吉 田 安 夫
		夜間 4226	人 事 〃	佐 藤 正 信
			総 務 部 長	小 川 留 吉
			庶 務 課 長	池 辺 竜之助
		夜間 4223	財 政 〃	猿 渡 松 一
		〃 4224	税 務 〃	跡 部 勇 三
			収 税 〃	中 村 和 一
			戸 籍 〃	森 左一郎
			経 済 部 長	一
			商 工 課 長	馬 場 東
		夜間 4227	農 林 〃	沢 見 初 性
			民 生 部 長	鳥 越 義 孝
		4116	社 会 課 長	吉 永 寿 一
		4103	国民健康保険〃	前 原 伍 一
			保 護 〃	原 田 三 郎
			福 祉 事 務 所 長	鳥 越 義 孝
			社 会 課 長	吉 永 寿 一
			建 設 部 長	蓮 尾 誌 藏
			計 画 課 長	倉 田 宇 六
		4229	土 木 〃	菊 池 精
		夜間 4228	勞 働 〃	糸 永 邦 重
		〃 4220	建 築 〃	笠 忠 男
		3179	保健所長兼衛生部長	緒 方 盛 雄
	清 掃 課 長	田 中 一 郎		
	庶 務 〃	永 吉 虎 雄		
大牟田市大字草木	4114	銀 水 支 所 長	平 野 清 松	
	4104	駛 馬 〃	世 戸 口 茂 人	
〃 三 池	3994	三 池 〃	柿 原 辰 五 郎	
〃 三川町4丁目	6238	三 川 〃	池 松 三 二	
〃 大字勝立	3171	玉 川 〃	飛 永 博 人	
大 牟 田 市 立 病 院	〃 不知火町	4107~4108	市 立 病 院 長	二 宮 秀 夫
			〃 副 院 長	南 白 齊
			事 務 長	新 村 光 雄
	3118	若 宮 病 院 長	井 上 生 二	

官 公 署 (続)

昭和31年1月1日現在

名 称	所 在 地	電話番号	役 職 名	氏 名		
大牟田市教育委員会事務局	大牟田市役所内	3935	教 育 長	堀 次 助		
			指 導 室 長	益 田 久		
			庶 務 課 長	高 田 瑞 生		
		4841	学校教育	〃	前 原 高	
			社会教育	〃	猿 渡 五三郎	
水 道 局	大牟田市役所内	4504	図 書 館 長	松 藤 市 郎		
			夜間	4225	水 道 局 長	蓮 尾 誌 藏
		4225	事 務 課 長	猿 渡 忠 男		
			工 事	〃	伊 藤 清	
			局 長	西 貢		
大牟田市選挙管理委員会事務局	大牟田市役所内	4109	〃	松 尾 吉 人		
大牟田市農地委員会事務局	〃	〃	〃	北 原 貞 人		
大牟田市議会事務局	〃	〃	〃	荒 木 喜 久 雄		
大牟田市監査事務局	〃	〃	〃	〃		
大牟田市消防署	大牟田市浄真町	2375	消防長兼署長	三 行 登		
			3341	次 長	上 野 真 澄	
		3341	総 務 課 長	塚 本 忠 美		
			消防課長兼防備隊長	高 倉 又 市		
			〃	〃	〃	
福岡県大牟田警察署	大牟田市不知火町3丁目8	5241~5244	署 長	古 川 健 藏		
			次 席	小 牟 田 安 雄		
		2504	〃	庄 村 栄 守		
			警 務 課 長	下 川 守 藏		
		4702	交 通	〃	合 原 伝 夫	
		4400	警 備	〃	竹 下 静 悟	
		4701	防 犯	〃	上 野 悟 次	
		2504	刑 事	〃	江 島 福 一	
		5533	三川警部派出所長	安 河 内 武 常 夫		
			〃 大字草木438	2289	銀 水	〃
		大牟田労働基準監督署	〃 曙町34	3987	署 長	美 奈 川 寛 夫
					第 一 課 長	西 山 武 林
大牟田 労 政 事 務 所	〃 曙町37	3848	第 二 課 長	松 永 紀 夫		
			所 次 長	江 上 敏 郎		
大牟田公共職業安定所	〃 曙町34	2114~2903	所 長	野 田 国 利		
			職 業 課 長	平 憲 昭		
			庶 務	〃	永 江 汝 賀 流	
			失 業 保 險	〃	西 辻 義 孝	
			勞 働	〃	塚 野 義 之	
			調 査	〃	大 竹 直 澄	
			所 長	錦 辺 豊		
			庶 務 課 長	〃	澁 谷 季 男	
福岡県大牟田財務事務所	大牟田市不知火町	3901	直 税	〃	山 口 万 夫	
			徴 収	〃	紫 原 外 吉	
			間 税	〃	高 木 繁 人	
			〃	〃	〃	

## 官 公 署 (続)

昭和 31 年 1 月 1 日 現在

名 称	所 在 地	電話番号	役 職 名	氏 名
大牟田市簡易裁判所	大牟田市白金町	3503	所 長	鍛 治 四 郎
大牟田区檢察署	"	2629	庁 長	新 川 吹 雄
門司税関三池支署	" 新港町1	6230	支 署 長	八木岡 育 雄
			業 務 係 長	財 津 三 郎
			監 査 "	庄 司 入 助
大牟田税務署	大牟田市不知火町1丁目		署 長	水 田 友 七
			総 務 課 長	内 田 謙 三 郎
			直 税 "	古 賀 英 貢
			間 税 "	加 賀 田 定
福岡県大牟田土木事務所	大牟田市不知火町2丁目	3810	所 長	松 雪 武 次
			庶 務 課 長	永 松 親
			労 務 "	道 家 康 正
			建 築 "	田 村 寛
農林省三池乾拓建設事業所	大牟田市大字草木397	4562	所 長	大 串 石 藏
			庶 務 課 長	原 亭 太 郎
			工 事 "	宮 崎 克 己
水産庁有明海漁業調整事務局	大牟田市有明町1の2	3562	局 長	藤 村 健 二
有明海連合会区漁業調整委員会	"	"	会 長	島 内 九 郎
九州海運局三池支局	" 新港町1	5231	局 長	山 路 進
厚生省三池検疫所	"	5217	所 長	岩 永 祐 五 郎
三池海上保安署	"	5679	署 長	島 丸 狩 之 市

## 2 議 員

昭和 31 年 1 月 1 日

(順不同)

名 称	党 別	氏 名
衆 議 院 議 員	社 会 党	田 中 稔 男
参 議 院 議 員	社 会 党	阿 具 根 登
県 議 会 議 員	自 由 民 主 党	平 木 孫 治
	社 会 党	小 宮 市 太 郎
	"	浦 川 守
	"	川 口 六 平
	自 由 民 主 党	吉 賀 治

# 市 議 会 議 員 名 簿

昭和 31 年 1 月 1 日 現 在

(議席番号順)

議席	氏 名	議 会 役 職 名	党派別所属	年令	職 業	住 所
1	中川 未義	経済委員			会 社 員	大牟田市草木下町42
2	石橋 進	総務 "			会 社 員	松原町2丁目29
3	小宮 生計	教育民生副委員長			会 社 員	歴木1551の1
4	蓮尾信次郎	建設委員			会 社 員	櫛野3230
5	井上 光次	経済 "			会 社 員	1ノ浦町71
6	坂根庄太郎	"			会 社 員	正山町68
7	境 慧	議長			会 社 顧 問	不知火町3丁目114
8	堀 弘	教 育 委 員			農 業	櫛野2627
9	森 清	教育民生 "			海 上 運 送 業	中浜田町5の1
10	猿渡 義男	総 務 "			土 木 建 築 請 負 業	不知火町2丁目1
11	渋谷 聰磨	"			会 社 員	南船津町1丁目6の4
12	堀 円治	建 設 "			会 社 員	草木818
13	樋口 種樹	教育民生委員長			無 職	松原町1丁目2
14	榊永 栄吉	建 設 委 員			会 社 員	草木426
15	榎下 常雄	総 務 "			会 社 員	笹原町2丁目40
16	川畑昭二路	教育民生 "			会 社 員	新港町6
17	加倉 広斗	建 設 "			会 社 嘱 託	大字手鎌1240
18	田坂 純一	総 務 "			会 社 員	小浜町52の1
19	羽島 寛猛	建 設 "			会 社 員	浄真町71
20	山中 末彦	経済委員長			海 苔 製 造 業	小川町156
21	湯村 元昭	経 済 委 員			農 業	三池654の1
22	境 造	教育民生 "			"	大字岩本1221
23	古賀 常吉	総 務 "			薬 劑 士	栄町1丁目2
24	井上 半吾	建 設 "			興業テレビジョン 製造販売	原山町1
25	山浦勇次郎	教育民生 "			農 機 具 製 造 業	大正町1丁目27
26	松本 勇	総務委員長			会 社 員	四ツ山町58
27	広沢 修功	経 済 委 員			会 社 員	新港町6
28	森田 収藏	教育民生 "			政 党 役 員	歴木1443
29	堺 親義	経 済 "			無 職	草木1037
30	山崎 未光	建 設 "			会 社 員	龍湖瀬町9
31	月足 康則	教育民生 "			会 社 員	飯田町
32	江崎 善男	総務副委員長			会 社 々 長	白川927
33	東山 岩男	経済委員			商 業	三里町2丁目2の2
34	田中 留吉	建設委員長			会 社 員	七浦町107
35	国友 俊文	教育民生委員			会 社 員	山上町20
36	徳永 潮	総 務 "			会 社 員	大字手鎌1987
37	古賀 喜一	監 査 "			会 社 役 員	三里町3丁目5の6
38	西山 源藏	建設副委員長			会 社 々 長	大字橋628の1
39	江上 平	副議長			土 木 請 負 業	正山町20
40	上野 栄雄	経済副委員長			茶 商	本町1丁目26

## 3 教 育

昭和31年1月1日

名 称	所 在 地	電話番号	役 職 名	氏 名
福岡県立三池高等学校	大牟田市大字草木1020	2172	校 長	木 村 利 雄
◇ 大牟田北高等学校	大字甘木109	2262	〃	友 成 友 次
〃 大牟田南高等学校	黄金町1丁目24	3510	〃	柴 垣 益 造
◇ 三池北高等学校	大字吉野1407	3479	〃	江 崎 喜与治
〃 三池工業高等学校	上官町4丁目77	2170	〃	大 塚 茂 太
大牟田工業高等学校	大字草木852	2523	〃	養 老 学
不知火女子高等学校	上官町1丁目17	2344	〃	中 根 専 一
明光学園高等学校	大字倉永170	5160	〃	テレジナ・フランゲリ
大牟田市立船津中学校	船津町185	6296	〃	川 津 礼 順
〃 右京中学校	右京町1	3410	〃	安 元 薫
〃 米生中学校	米生町2丁目26	2632	〃	中 島 節 雄
〃 勝立中学校	大字勝立382	3806	〃	河 野 幸 治
〃 延命中学校	昭和町214	2075	〃	宮 崎 四 郎
◇ 松原中学校	大正町5丁目27	2088	〃	稻 貝 鎌 造
〃 白光中学校	椿黒町30	4072	〃	佐 藤 繁 雄
〃 歴木中学校	大字歴木1150	2329	〃	藤 好 政 雄
〃 橘中学校	大字橘677	3892	〃	中 園 一
〃 甘木中学校	大字甘木876	2074	〃	原 田 秀 雄
明光中学校	大字倉永170	5160	◇	テレジナ・フランゲリ
大牟田市立三里小学校	三里町1丁目715	6153	〃	島 本 勇
〃 三川小学校	上屋敷町2丁目32	6186	〃	古 崎 真 直
〃 川尻小学校	天領町1丁目145の1	4650	◇	大津山 茂
〃 諏訪小学校	諏訪町2丁目111	4750	〃	徳 永 誠
◇ 駛馬南小学校	沖田町236	3544	〃	塚 本 亀千代
〃 駛馬北小学校	馬場町17	4071	〃	猿 渡 学
〃 笹原小学校	笹原町3丁目106	2350	〃	古 賀 幸 一
〃 天道小学校	天道町24	2339	〃	小 柳 序
〃 玉川小学校	大字櫛野2623	4441	〃	伴 浅 一
〃 上官小学校	宮坂町1	2160	〃	菊 川 滋
〃 不知火小学校	不知火町1丁目41	2403	〃	田 鍋 清 一
〃 笹林小学校	笹林町26	2162	〃	藤 井 武 雄
〃 大正小学校	大正町5丁目4	2479	〃	岡 本 定 夫
〃 中友小学校	中友町26	3721	〃	猿 渡 憲 次
〃 明治小学校	明治町2丁目29	2163	〃	江 上 弘
〃 白川小学校	大字白川242の3	2246	〃	田 籠 宗 好
〃 平原小学校	平原町321	2442	〃	島 俊 雄
〃 高取小学校	大字歴木1807の12	4615	〃	田 中 寿
〃 三池小学校	大字新町280	4092	〃	大 木 種 藏
〃 銀水小学校	大字田隈233	4096	〃	野 田 平八郎
◇ 上内小学校	大字上内1570	4196	〃	北 原 広 喜
〃 倉永小学校	大字倉永1335	3628	〃	立屋敷 寿
〃 手鎌小学校	大字唐船394	4074	〃	中 島 武 雄

## 4 運 輸 通 信

昭和31年1月1日現在

名 称	所 在 地	電話番号	役 職 名	氏 名	
国 鉄 大 牟 田 駅	大牟田市不知火町	2154	駅 長	藤 井 広 一	
			助 役(主席)	西 島 学	
			〃	平 尾 義 雄	
			〃	案 納 浩	
			〃	深 町 赴 夫	
			〃 (庶務)	田 口 正 二	
			2412	〃 (貨物)	木 下 正 雄
			5154	〃 (出札)	森 長 藏
			4416	〃 (改札)	増 永 久 昇
			2154	〃 (運転主任)	永 江 誠
			〃	〃 (運転)	吉 田 守
			〃	〃 (〃)	奥 村 時三郎
			〃	〃 (〃)	古 川 正 男
			〃	〃 (〃)	本 郷 行 雄
〃	〃 (〃)	岩 永 忠 雄			
銀 水 駅	大字草木	3480	駅 長	大 坪 広 雄	
			助 役	西 原 静 雄	
			〃	亀 崎 一 郎	
熊本管理局 大牟田保線区	有明町	2902	保 線 区 長	小 川 進	
			西 鉄 栄 町 駅	栄町2丁目	3481
西 鉄 大 牟 田 駅	久保田町		庶 務 助 役	宮 原 正 人	
			〃	佐 田 太 助	
			旅 客 助 役	猿 渡 義 宣	
			〃	古 賀 政 実	
			移 動 助 役	松 岡 進	
			助 役	塩 塚 芳 春	
西鉄市内線大牟田運輸事務所 西鉄自動車運輸課	白金町		〃	江 崎 富 士 夫	
			移 動 助 役	木 村 政 人	
			営 業 所 長	岩 子 由 男	
			営 業 主 任	大 城 吉 雄	
大 牟 田 郵 便 局	不知火町2丁目72	2200	整 備 主 任	上 野 正 昭	
			局 長	満 永 鉄 雄	
			2090	庶務会計課長	内 野 俊 雄
			3100	郵 便 〃	佐 藤 光 男
			3500	貯 金 〃	深 町 好 春
			2359	保 險 〃	筒 井 安 美
			3187	局 長	森 武 雄
上 官 町 郵 便 局	上町2丁目	3187	〃	森 武 雄	
			〃	戸 島 保	
			〃	杉 野 博	
			〃	増 田 正 年	
			〃	徳 永 倉 藏	
			〃	永 吉 実	
			〃	永 吉 実	
勝 立 〃	大字勝立	3173	〃	戸 島 保	
駛 馬 〃	花園町	3181	〃	杉 野 博	
駛 馬 桜 町 〃	桜町131	3191	〃	増 田 正 年	
手 鎌 〃	大字手鎌	3193	〃	徳 永 倉 藏	
銀 水 〃	草木	3185	〃	永 吉 実	

## 運 輸 通 信 ( 続 き )

昭 和 3 1 年 1 月 1 日 現 在

名 称	所 在 地	電 話 番 号	役 職 名	氏 名
倉 永 郵 便 局	大牟田市大字倉永	—	局 長	小 宮 一 夫
西 浜 田 町	西浜田町	4542	〃	蓮 尾 鶴 雄
大 正 町	大正町1丁目	5345	〃	堺 五 夫
旭 町	旭町3丁目	4442	〃	井 上 貞 雄
明 治 町	明治町2丁目	3189	〃	仁 礼 ツ ル
不 知 火 町	浄真町	3190	〃	西 原 久 吉
七 浦 町	宮山町	3182	〃	池 尻 直 弥
通 町	通町2丁目	3188	〃	小 川 健 一
三 里	浪花町	6092	〃	川 鍋 多 門
白 井	白井新町2丁目	3184	〃	犬 塚 延 雄
三 川 町	三川町1丁目	6091	〃	野 口 伊 三 郎
三 池	大字三池	4194	〃	樺 島 佐 次 郎
大 牟 田 電 話 局	不知火町1丁目	2700	〃	河 野 光 雄
		2490	庶 務 課 長	松 永 唯 次
			運 用 〃	大 石 潔
			營 業 〃	古 賀 宗 幸
			機 械 〃	高 巢 寛 一
			線 路 宅 内 〃	岡 孝 介
大 牟 田 電 報 局	不知火町1丁目	2301	局 長	池 田 静 哉
			業 務 課 長	立 山 信 義
			施 設 〃	荒 木 源 親
			庶 務 主 任	河 原 畑 進

## 5 銀 行

昭 和 3 1 年 1 月 1 日 現 在

( 順 不 同 )

名 称	所 在 地	電 話 番 号	役 職 名	氏 名
株式会社 三井銀行大牟田支店	大牟田市旭町1丁目1	3204 3209	支 店 長	中 司 重 彦
〃 福岡銀行大牟田支店	不知火町1丁目82	3211~3215	〃	伺 実
〃 〃 三川支店	三川町2丁目1	5211	〃	荒 木 吾 一
〃 〃 五月橋支店	旭町1丁目2	4211~4213	〃	中 川 浩 平
〃 〃 三池支店	三池新町44	3696	〃	中 川 浩 平 ( 兼 )
協和銀行 大牟田支店	築町25	3311~3314	〃	中 村 栄 次
肥後銀行 大牟田支店	築町39	4241~4243	〃	東 弘
筑邦銀行 大牟田支店	築町8	4081	〃	小 佐 井 美 義
西日本相互銀行大牟田支店	有明町9	3371~3374	〃	大 島 忠 雄
福岡相互銀行大牟田支店	不知火町1丁目	3058	〃	朝 生 勇
熊本相互銀行大牟田支店	大高町9	3153	〃	金 子 範 義
九州相互銀行大牟田支店	有明町48	2258・2436	〃	中 野 秀 雄
長崎相互銀行大牟田支店	大正町2丁目21	3643	〃	中 村 進
正金相互銀行大牟田支店	旭町3丁目26	4246	〃	高 山 甚 吾
肥後相互銀行大牟田支店	本町2丁目44	2702・3635	〃	藤 崎 泰 宏
大 牟 田 信 用 金 庫	有明町45	3305~3306	理 事 長	石 橋 興 一

## 6 新 聞 社

昭和31年1月1日現在

(順不同)

名 称	所 在 地	電話番号	代 表 者	
			役 職 名	氏 名
毎日新聞社大牟田通信部	大牟田市大高町	2810	支局長	宗 秀 雄
西日本新聞社大牟田支局	"	3315	"	本 田 英 一
朝日新聞社 "	"	2969	"	山 田 隆 義
夕刊フクニチ新聞社 "	曙 町	2505	"	神 吉 定 敏
熊本日日新聞社 "	新地町	2275	"	西 東 末 春
大牟田日日新聞社	"	2383	社 長	西 岡 教 馬
夕刊大牟田毎日新聞社	小浜町		"	
やよひ新聞社	松浦町	4435	"	坂 田 武 一
九州情報社	大正町3丁目18	5717	"	末 安 健 児
西部通信社	日の出町1丁目13	3619	"	角 義 一

## 7 団 体

大 牟 田 市 消 防 団

昭和31年1月1日現在

区 分	職 名	氏 名	住 所	電話番号
大牟田市消防団本部			大牟田市消防本内	3341
	消防団長	宮 崎 利 貞	大字久福木26	3797次
	副 団 長	黒 田 潔	小浜町45	3594
	"	古 賀 元 吉	大黒町4丁目14の2	2018
	本 部 長	松 尾 一 良	大字橋1369	3856次
	"	欠 員		
白 川 分 団	分 団 長	国 崎 新	柿園町1丁目22	2502次
笹 林 "	"	井 手 富 造	築町9	2907
明 治 "	"	清 田 秋 雄	中町2丁目52	3608次
中 友 "	"	森 永 正 則	磯町14	2388
上 官 "	"	上 村 弥三郎	上官町2丁目91	3154次
平 原 "	"	杉 村 興 一	平原町122の2	2035
不知火 "	"	永 吉 虎 雄	正山町2	2804
大 正 "	"	西 田 一 郎	小浜町25	3433
三 川 "	"	石 井 与四郎	三川町1丁目19	6245次
川 尻 "	"	川 野 利 良	天領町1丁目135	4650次
三 里 "	"	東 山 岩 男	三里町2丁目2の2	6023
銀 水 "	"	猿 渡 政 徳	大字田隈674	3556次
三 池 "	"	小 柳 健太郎	大字歴木386の2	3994次
上 内 "	"	境 造	大字岩本1221	4440次
倉 永 "	"	蓮 尾 先 四	大字宮崎863	
手 鎌 "	"	中 島 秀 雄	大字岬2426	3035次
駛馬南 "	"	田 中 三 雄	神田町160	3544次
駛馬北 "	"	藤 吉 政 吉	新勝立町1丁目63	炭電806次
玉 川 "	"	石 丸 太 祐	大字櫛野451	



# 団 体

昭和30年12月末日現在

名 称	所 在 地	電話番号	代 表 者	
			役 職 名	氏 名
商 工 会 議 所	大 牟 田 市 有 明 町	3251	顧 問	細 谷 治 嘉
			〃	境 鶴 惣 慧
			〃	井 上 半 市
			〃	永 井 益 太郎
			〃	古 賀 喜 太郎
			〃	中 河 原 敬 祥
			〃	江 上 平 平
			会 頭	小 川 力 平
			副 会 頭	古 賀 栄 一 定
			〃	未
			専 務 理 事 員	〃
			常 議 員	森 義 之
			〃	孤 原 仁 治
			〃	古 賀 常 吉
			〃	小 宮 政 利
			〃	城 村 夫 円
			〃	山 下 勇 次 助
			〃	河 島 博 一 吉
			〃	田 畑 健 孝 行
			〃	原 賀 取 義 行
			〃	鳥 井 上 口 一 之
			〃	樋 小 山 俊 寅 男
			〃	金 森 田 義 雄
			〃	寺 山 浦 勇 次 郎
			〃	山 未
			〃	未
			〃	〃
			監 事	阿 津 坂 浅 一 馬
			〃	田 中 金 二 蔵
			〃	小 柳 村 一 萬 吉
財 政 委 員 長	〃			
商 工	〃			
租 税	〃			
施 設	〃			
厚 生	〃			
金 融	〃			
貿 易	〃			
観 光	〃			
勤 労	〃			

## 8 主要事業所

昭和30年12月末現在

名 称	従 業 員			電 話	所長及工場長	資 本 金	生 産 品	所 在 地
	総 数	男	女					
東洋高压工業株式会社 大牟田工業所	3,436	3,116	320	3281	渡辺和気	18億円の内	硫安尿素	三坑町8
三井化学工業株式会社 三池染料工業所	4,556	4,338	218	3261	森 栄	8億円の内	合成染料 医薬品	浅牟田町30
三池合成工業株式会社 三池工場	1,080	1,000	80	4281	中込 闌	の内 2億4千万円	コークス 分解ガス	合成町1
電気化学工業株式会社 大牟田工場	1,381	1,281	100	2450	大田清吾	の内 10億2千万円	石灰窒素 カーバイト	新開町1
三井鉱山株式会社 三池鉱業所	13,534	12,812	722	3231	佐藤健二	12億円の内	石 炭	原山町170
三井鉱山株式会社 三池製作所	1,645	1,596	49	2158	林吉之助	12億円の内	鉱山機械 器 具	旭町2丁目33
三井鉱山株式会社 三池港務所	1,279	1,214	65	6285	立石光顕	12億円の内		新港町1
三井金属鉱業株式会社 三池製煉所	2,111	1,997	114	2214 3578	小泊重史	24億円の内	亜鉛板	浅牟田町3の1
九州電力株式会社 港発電所	1,249	1,164	85	6042	後藤重隆	…	電 力	新港町1

## 9 九州都市一覽

都 市 名	市制施行 年 月 日	面 積 (平方料)	国勢調査人口 (昭30.10.1)	市 長 名 昭.30.12	備 考
<b>福 岡 県 (19市)</b>					
福岡	明22. 4. 1	172.78	544,312人	小西春雄	
久留米	〃 22. 4. 1	62.96	138,804	山下善助	
門司	〃 32. 4. 1	65.76	145,027	柳田桃太郎	
小倉	〃 33. 4. 1	209.28	242,240	林 信雄	
若松	大 3. 4. 1	56.87	97,310	吉田敬太郎	
八幡	〃 6. 3. 1	76.08	286,241	守田道隆	
大牟田	〃 6. 3. 1	77.77	201,737	細谷治嘉	
戸畑	〃 13. 9. 1	12.06	97,214	白木正元	
直方	昭 6. 1. 1	56.61	62,520	向野丈夫	
飯塚	〃 7. 1.20	16.27	61,650	平田有造	
田川	〃 18.11. 3	40.80	100,071	坂田九十百	
柳川	〃 27. 4. 1	19.87	47,780	古賀慶藏	
甘木	〃 29. 4. 1	124.20	47,983	齊藤仙太郎	
筑後	〃 29. 4. 1	38.06	42,161	下川秀樹	
山田	〃 29. 4. 1	21.40	35,752	中村道太郎	
八女	〃 29. 4. 1	39.86	42,220	服部寅雄	
大川	〃 29. 4. 1	33.80	49,991	竜野喜一郎	
行橋	〃 29.10.10	68.90	46,426	末松実藏	
豊前	〃 30. 4.10	110.37	37,936	浦野 浩	
<b>佐 賀 県 (7市)</b>					
佐賀	明22. 4. 1	100.60	126,432	小野哲一	
唐津	昭 7. 1. 1	115.20	76,899	金子道雄	
鹿島	〃 29. 4. 1	84.92	39,392	松浦茂	
伊万里	〃 29. 4. 1	251.54	81,625	橋口四郎	
鳥栖	〃 29. 4. 1	72.11	41,601	海口守三	
武雄	〃 29. 4. 1	128.81	41,673	中野敏雄	
多々良	〃 29. 5. 1	97.75	45,346	吉木善久	
<b>長 崎 県 (8市)</b>					
長崎	明22. 4. 1	123.37	303,724	田川 務	
佐世保	〃 35. 4. 1	172.66	258,221	山中辰四郎	
島原	昭15. 4. 1	39.80	46,184	.....	
諫早	〃 15. 9. 1	149.32	65,593	野村 儀平	
大村	〃 17. 2.11	122.81	61,230	大村 純毅	
福江	〃 29. 4. 1	111.29	33,220	中村 弥左衛	
平戸	〃 30. 1. 1	170.90	43,302	山鹿 光世	
松浦	〃 30. 4.11	77.28	41,113	中 楯 理重	
<b>熊 本 県 (9市)</b>					
熊本	明22. 4. 1	108.40	332,493	林田正治	
八代	昭15. 9. 1	67.21	90,303	坂田道男	
人吉	〃 17. 2.11	211.90	47,877	淵田長一郎	
荒尾	〃 17. 4. 1	59.05	67,504	坂田昌亮	
水俣	〃 24. 4. 1	124.00	46,233	橋本彦七	
玉名	〃 29. 4. 1	81.31	47,669	橋本二郎	
山鹿	〃 29. 4. 1	87.40	38,057	古閑一夫	
本渡	〃 29. 4. 1	124.22	41,556	金子亮夫	
牛深	〃 29. 7. 1	96.12	38,006	高 橋 重博	

## 九州都市一覽 (続)

都 市 名	市制施行 年 月 日	面 積 (平方料)	国勢調査人口 (昭30.10. 1)	市 長 名 昭.30.12	備 考
<b>大 分 県 (11市)</b>					
大分	おおい	61.50	112,429人	上田 保	
別府	べつ	108.50	102,330	荒金 啓治	
中津	なかつ	56.91	66,918	岩田 虎藏	
日田	ひた	119.94	69,256	岩尾 精一	
佐伯	さえき	79.71	51,226	出納 菊二郎	
臼杵	うすき	151.80	47,457	三浦 義臣	
津久	つくみ	78.28	36,768	巖 義四	
鶴崎	つるさき	57.09	27,974	佐藤 常雄	
竹田	たけだ	198.10	36,608	国友 正文	
豊後	ぶんご	119.37	30,608	酒井 武雄	
杵築	きつき	91.93	29,532	八坂 善一郎	
<b>宮 崎 県 (7市)</b>					
宮崎	みやざき	224.18	140,782	有馬 美利	
都城	みやこのじょう	73.14	81,203	蒲生 昌作	
延岡	のべおかん	173.62	116,762	三浦 虎雄	
日南	にちなん	98.00	56,296	井戸川 一	
小林	こばやし	228.07	44,330	志戸本 慶次郎	
日向	ひゅうが	117.02	39,225	三尾 良次郎	
串島	くしま	297.30	42,305	谷口 静紀	
<b>鹿 児 島 県 (12市)</b>					
鹿児島	かごしま	179.10	274,340	勝目 清	
川内	せんだい	110.99	49,106	寺田 市正	
鹿屋	かのや	226.62	75,488	見島 静男	
枕崎	まくらざき	74.60	35,546	福崎 静雄	
串木	くしきの	80.35	34,124	平瀬 実武	
阿久根	あくね	105.26	41,180	松田 進	
名瀬	なせ	130.55	41,486	牧 義森	
指宿	いぶすき	77.99	35,981	肥後 正樹	
出水	いづみ	226.65	47,545	土屋 清人	
大口	おおくち	291.74	41,899	園田 長仁	
加世田	かせだ	88.95	34,608	松山 賢太郎	
国分	こくぶん	124.64	35,480	石塚 彦一	

註 ① 名瀬は昭和28年12月25日復帰

(昭和30年版)

# 大牟田市 市勢要覧

(非売品)

昭和31年3月10日 印刷

昭和31年3月15日 発行

編集 大牟田市有明町36番地 (TEL4221)  
大牟田市役所総務部庶務課

発行 大牟田市有明町36番地  
大牟田市役所

印刷 大牟田市曙町82番地 (TEL2927)  
合資会社 上田印刷所

